



博愛

2019

No.181

大阪歯科大学広報

空手道部

男女団体・個人で

完全制覇！

57th ALL DENTAL



大阪国際先制医療センター 開設！

Osaka International Preemptive Medical Center





博愛

No. 181

「博愛」は大阪歯科大学の建学の精神です

Contents

■掲載期間／2019.1.1～12.31

02 TOPICS

- ・大学院医療保健学研究科「口腔科学専攻博士課程（後期）」設置認可
- ・大阪歯科大学理事長・学長に川添堯彬氏が再任
- ・附属病院に大阪国際先制医療センターを開設
- ・四川大学華西口腔医学院とダブル・ディグリー・プログラムに係る協定締結
- ・枚方市内3大学による医歯業に関する学術・研究の連携協定締結
- ・歯学部5年・荒木崇丸さんが全国学生技能コンペで優秀賞を受賞
- ・医療保健学部2年・山本真珠さんが国際口腔保健工学コンソーシアムで口頭発表
- ・第51回歯学体 空手道部が男女団体・個人で完全制覇
- ・歯学部2年・宮脇正人さんが国体の射撃競技で5位入賞
- ・歯学部生が日本解剖学会全国学術集会でポスター発表
- ・橋本正則教授が日本歯科理工学会論文賞を受賞
- ・附属病院に睡眠時無呼吸外来開設 / 診療科新体制に

08 2018年度大学卒業式・大学院学位認証式

- ・理事長・学長 式辞
- ・同窓会会長 祝辞

10 学位・博士(歯学)授与

11 2018年度大阪歯科大学歯科衛生士専門学校卒業式

11 2019年度大学・大学院入学式

- ・理事長・学長 式辞

13 教授就任挨拶

18 国際交流

- ・King's College Londonと協定更新及び同歯学部長が本学で特別講演
- ・学生短期海外研修報告
- ・協定校からの学生受入
- The 3rd Forum for International Students 開催

行事報告

21 2019年の主な行事

22 ▼大学

- ・医療保健学部オープンキャンパス2019
- ・2019年度FDセミナー
- ・研究チャレンジ発表会
- ・歯学部オープンキャンパス2019
- ・第2回わくわくキッズセミナー@まきの
- ・第27回大阪歯科大学公開講座(天満橋講座)
- ・枚方産学公連携プラットフォーム主催市民公開講座
- ・医療保健学部宣誓式
- ・こども大学探検隊が楠葉キャンパス訪問
- ・2019年度人権啓発講演会
- ・2019年度楠葉キャンパス防災・防火訓練
- ・2019年全学教職員忘年慰労会

31 ▼附属病院

- ・2018年度臨床研修管理運営委員会(全体会議)
- ・2018・2019年度院内感染対策講習会
- ・2018年度医療機器安全管理講習会
- ・歯学部第5学年登院式
- ・歯科医師臨床研修 研修歯科医登院式
- ・研修歯科医に対する薬物乱用防止講習会
- ・第21回健康セミナー
- ・大阪歯科大学臨床准教授等辞令交付式及び第1回研修管理委員会
- ・医療保健学部第3学年登院式
- ・2019年度医療安全講習会

35 2019年新年互礼会

- ・年頭所感 理事長・学長 川添堯彬

40 2018年度事業報告

60 平成30年度決算報告

62 2018年度監事監査報告

62 2019年度事業計画

67 平成31年度科学研究費補助金交付

69 2019年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金(大学院生)

69 令和元年度臨床研修活性化推進特別事業 補助対象施設に選定

69 令和元年春、秋の叙勲受章者

69 令和元年度医学教育等関係業務功労者表彰

70 寄贈

70 人事

71 あとがき

大学院医療保健学研究科「口腔科学専攻博士課程（後期）」設置認可

本学では、大学院医療保健学研究科「口腔科学専攻博士課程（後期）」の設置認可申請を行っていましたが、2019年11月19日付で文部科学大臣から正式に認可を受けました。これにより、修士課程に次いで、同研究科博士課程（後期）が2020（令和2）年4月、牧野キャンパスに誕生することとなりました。

口腔科学専攻博士課程（後期）は、医療保健（口腔保健学、口腔工学）に関連する教育者と指導者を指導し、教員や研究

者の人材管理と運営ができる人材を養成することで、歯科医療の教育と研究の発展や、人々の健康の増進に寄与することを目的としています。入学定員は3名（収容定員9名）、修業年限は3年で、修了者には「博士（口腔科学）」の学位が授与されます。

一次募集で早くも定員を上回る5名が合格を決めた医療保健学研究科博士課程（後期）。幸の良いスタートを切っています。

大阪歯科大学理事長・学長に川添堯彬氏が再任

学校法人大阪歯科大学では、学長並びに理事長の任期満了に伴う学内選考を行い、2019年6月27日の理事会及び評議員会において、川添堯彬現理事長・学長を再任しました。任期は次のとおりです。

- 学長任期：2019（令和元）年10月1日～2023（令和5）年9月30日
- 理事長任期：2019（令和元）年10月1日～2022（令和4）年4月2日

かわぞえ・たかよし 1942年兵庫県洲本市生まれ。大阪歯科大学を卒業後、70年同大学院博士課程修了（歯科補綴学専攻、歯学博士）。同大学助手、講師、岐阜歯科大学（現朝日大学）助教授を経て、82年に大阪歯科大学教授。2002年同大学理事、04年副学長、07年から学長兼理事長。日本補綴歯科学会会長、日本口腔インプラント学会理事長、日本私立歯科大学協会会長などを歴任。大阪歯科大学名誉教授、77歳（再任時）。



川添堯彬 大阪歯科大学理事長・学長

附属病院に 大阪国際先制医療センターを開設

2019年9月1日、本学は附属病院本館5階に大阪国際先制医療センターを開設しました。この大阪国際先制医療センターは、先制医療をはじめとする最先端の診療、国際的な医療・学術貢献を目的とするセミナー等を支援することを目的とし設置されました。なお、初代センター長に中嶋正博病院長が、副センター長に山本一世副病院長及び方一如教授（歯科東洋医学室）が就任しました。

9月16～23日の期間、「中日友好健康促進交流セミナー」と題し、開設後、初となるセミナーを本学中国人留学生学友会も協力して開催することとなりました。本学の中国協定校等に所属する歯科医師30人が参加し、希望者は当院で血液検査を受診されました。

セミナーでは、主に今井弘一副学長及び本田義知准教授（中央歯学研究所）が再生医療をテーマに講演したほか、関西各地の先進医療の病院を見学し、日本の臨床及び研究に多く触れていただきました。





また、12月1～8日の期間、大阪国際先制医療センターと歯科矯正学講座が共同で、「国際口腔矯正セミナー」と題した実習セミナーを当院にて開催し、本学の中国協定校等に所属の歯科医師17人が参加しました。12月2日には、川添堯彬理事長・学長も出席して開校式が行われています。

この「国際口腔矯正セミナー」は、歯科矯正学講座の松本尚之主任教授が指導責任者となり、1週間の日程で、Lecture 8コマとTypodont course 8コマのカリキュラムで行われました。

Typodont course では、歯科矯正学講座の教員及び大学院生が総出で、参加者一人一人を指導し、参加者から「非常にわかりやすくご指導いただいた」「こういったセミナーにまた是非参加したい」といった感謝の言葉をいただきました。修了書授与式では、中嶋センター長が学長代理で修了書を授与し、中嶋センター長及び松本主任教授が参加者と固く握手する場面も多々見受けられ、盛況裡に「国際口腔矯正セミナー」は終了しました。

2019年度は、「中日友好健康促進交流セミナー」と「国際口腔矯正セミナー」を含め、3回セミナーを開催しました。

四川大学華西口腔医学院と ダブル・ディグリー・プログラムに係る協定締結

6月28日、本学は四川大学華西口腔医学院と口腔医学技術者人材共同育成（ダブルディグリー）プログラムに係る協定を締結しました。協定内容は、両校の学術促進と、国際的視野を持つ歯科医療人を養成するため、四川大学華西口腔医学院から優秀な学生を選抜し、両校が共同で育成するプログラムとなっています。

この協定に基づき、四川大学華西口腔医学院から推薦された学生1名が、11月28日の本学医療保健学部口腔工学科の入学試験を受験し、見事合格。記念すべき第1号の入学者となりました。



枚方市内3大学による医歯薬に関する学術・研究の連携協定締結 ～世界水準の産学連携総合研究拠点を目指して～

枚方市内にある関西医科大学、摂南大学及び本学の3大学は、相互に連携協力し、研究を高度に発展させることにより、世界水準の産学連携総合研究拠点を整備することを目的として、2019年3月5日付で「医歯薬に関する学術・研究の連携と協力に関する協定」を締結しました。

この協定では、新しい研究分野の開拓、産学連携の推進研究施設・設備の共同利用、外部資金獲得の推進などを事業として掲げており、協定に基づいて3大学の学長・副学長及

び関係事務職員による医歯薬連携協議会を設置しました。そして、5月以降、3大学輪番制で協議会を複数回開催し、共同研究について検討を行うとともに、関西医科大学、本学で研究マッチング会合を開催し、3大学の教員間で情報交換を行いました。

現在、各大学の共同研究を担う予定の教員と事務レベルで、具体的な共同研究契約の詳細に関して協議を行っています。

歯学部5年・荒木崇丸さんが 全国学生技能コンペで優秀賞を受賞

全国の歯学部学生を対象とする臨床技能試験「第1回 JPS Student Clinical Skills Competition」(日本補綴歯科学会主催)の二次審査が6月16日、東京都内で行われ、本学歯学部5年の荒木崇丸さんが最終選考優秀賞を受賞しました。

このコンペティションは、「卓越した臨床技能を有する歯科医師」を育成するために補綴学会が初めて実施するもの。全国29の歯学部・歯科大学のうち26大学が応募しました。一次審査では、各大学の代表者1名が自学で製作した「CAD/CAM レジン冠を想定した下顎右側第二小臼歯の支台歯形成」をもとに評価し、上位6名を選抜。一次選考を通過した荒木さんらファイナリストは16日、審査会場で再度「支台歯形成」の課題に取り組み、技能を競いました。

このコンペで全国歯学部生のベスト6に選ばれた荒木さんですが、結果については「嬉しい気持ちもあるけれど、一位を取れず悔しい気持ちのほうが強い」といいます。最終選考に残った学生(荒木さん共2名が5年生、ほかは6年生)は皆、意識が高く、十分に練習を積んできた様子。「もうちょっと練習しておけば」と思ったそうです。ちなみに荒木さんは、歯科医師には不利とされる左利き(デンタルチェアのほとんど



が右利き用に作られているため)。歯科治療は右手でできるように入学時から努力し、今大会も右手で形成しました。

「全国的にみて自分がどのレベルにいるかわかり、いい経験になった」と荒木さん。上々の結果にも満足せず、悔しさを糧に前へ進む荒木さんに歯科医師としての大きな可能性を感じました。

最終選考を前に、荒木さんを指導した有歯補綴咬合学講座の藤井孝政助教は「病院臨床実習と重なっていたため、練習時間は十分とは言えなかったけれど、不慣れな環境の中、本学代表に恥じない技能を示してくれたと思います」と荒木さんの健闘を讃えていました。



医療保健学部2年・山本真珠さんが 国際口腔保健工学コンソーシアムで口頭発表



11月18日に台湾・台北医学大学において開催された「The 2nd Meeting of International Oral Health Engineering Consortium (第2回国際口腔保健工学コンソーシアム)」に本学、東京医科歯科大学、広島大学、台北医学大学及び中華科技大学の5大学が参加しました。

本学からは、医療保健学部口腔工学科の中塚美智子准教授が引率し、同学科2年の山本真珠さんが「Towards Oral Health

Engineer」というタイトルで、学生生活と将来の夢について発表しました。

「他大学の学生の研究内容のレベルの高さ、特に再生医療の研究をした学生がいたことに驚いた」と山本さん。「他校の学生とお互いの大学についての話ができ、積極的に学生交流が行え、短い期間であったが、貴重な経験ができた」と感想を話してくれました。



第51回歯学体 空手道部が男女団体・個人で完全制覇

全国 29 歯科大学・歯学部スポーツの祭典、第 51 回全日本歯科学学生総合体育大会（主管：福岡歯科大学）の夏期部門が 7 月 30 日から 8 月 10 日まで開かれ、本学学生が連日熱戦を繰り広げました。



全 26 部門のうち、本学は 10 部門にエントリー。ゴルフ、ボウリング、空手道、アーチェリー、漕艇で 1 位（昨年に比べ 2 種目増）、硬式野球、ヨットで 2 位、日本拳法で 3 位を獲得しました。過去 3 年部門別総合優勝の弓道部は一転、下位に甘んじることに。冬期 3 種目を含む総合成績では、本学は日本歯科大学に 1 点及ばず、前回より一つ順位を下げ 5 位でした（優勝は九州歯科大学）。

今大会中、とくに活躍の光ったのが空手道部。団体戦（男子、女子）、個人戦（男子、女子）、新人戦（女子）で 1 位となり総合優勝。完全制覇まであと一歩でした。空手道部は 60 年以上の歴史を誇る、

本学でも屈指の伝統クラブ。東京オリンピックの正式種目に決まり、競技への注目度にもわかに高まっています。

川添堯彬理事長・学長も応援に駆けつけた大会では、歯学部 4 年の西岡万凜子さんが主将として大車輪の活躍を見せました。西岡さんは個人戦で連覇を達成。団体戦も優勝に導き、部長の岡崎定司教授もその指導力を絶賛していました。

礼儀作法を身につけたくて、本学入学後に空手を始めたという西岡さん。これまでは負けるのが嫌でスポーツをしなかったそうですが、空手は努力が結果としてあらわれ「負けず嫌いに火がつきました」。今は学業と同様の熱心さで、週

3 日（1 日 3 時間）部活動に打ち込んでいます。クラブは今秋でひとまず現役引退となりますが「可能なら来年も、再来年も歯学体へ出場したい」。目指すは歯学体個人 3 連覇、そして 4 連覇。学業と空手道、西岡さんの二本の道はこれからも続きます。



歯学部2年・宮脇正人さんが国体の射撃競技で5位入賞

茨城県で開催された 2019 年の国民体育大会。10 月 6 日にはライフル射撃の成年男子 10 m エアピストル競技決勝が行われ、本学歯学部 2 年の宮脇正人さんが 5 位入賞を果たしました。宮脇さんは 16 日に川添堯彬理事長・学長に結果を報告。「今回の輝かしい成績は、大学や後輩にとり大きな励みになった。あとは勉強もしっかり！」と祝意と激励を受けました。

宮脇さんが出場したエアピストル競技は、10m 先に固定された電子標的にピストルの弾を発射し点数（満点 600 点：10 点×60 発）を競うもの。的は同心円状に 1～10 点まで分かれており、中心の 10 点は直径 11.5mm という小ささ。単発式のため 1 射ごとに弾を装填し、構え、照準を合わせます。その間、約 75 秒（競技時間 75 分）。集中力の持続が要求される、非常にメンタルなスポーツです。



高校2年時に僅か1点差（距離に換算すると1mmの差）でジュニアでの国体出場を逃したことがある宮脇さん。今回は和歌山県代表（1名）となり、さらに近畿ブロック代表3名に選抜され、晴れて初出場となりました。本選には16人がエントリー、うち宮脇さんを除く決勝に進んだ7人は警察官、自衛官らすべて社会人でした。

今春、立命館大学政策科学部を卒業後に本学歯学部へ編入学した宮脇さん。実は、立命大在学中は射撃競技で全日本学生選手権大会（インカレ）2連覇、JOCジュニアオリンピック2連覇を達成。2017年度オリンピック有望選手にも選出された経歴をもつ実力者なのです。本学入学のきっかけは、就職活動を始めようとする時期に、歯科医師のご両親から「スポーツ歯科」に関する話を聞いたこと。「競技人生を終えた後は、歯科を通じて次世代のトップアスリート育成の役に立ちたい」。警察官になってさらに射撃に専念する路もありましたが、現役引退後の人生を思い描いたとき、スポーツの分野でも貢献できる「歯科医師」という職業の魅力に目が開かれたそうです。それからは猛勉強をして文系から理系の大阪歯科大学へ。

今は、解剖学や生理学が競技に生かせることを学び、「理系科目の勉強も楽しい」といいます。平日は学業と体幹や筋力トレーニング。週末は、中学3年から通う、大阪府能勢町の国体記念スポーツセンターライフル射撃場で練習の日々を送っています。

国体5位入賞という今回の成績は「満足のいく結果ではなかった」と話す宮脇さん。歯科大生として“ストレートで歯科医師国家試験合格”を当面の第一目標に掲げる宮脇さんにとって、学生の本分である学業は何よりも最優先。その上で、射撃にも最大限打ち込み、実績を残したいと考えています。なぜなら、将来歯科医師としてスポーツ選手に接するとき、誇れる実績があれば説得力が増すと思うから。

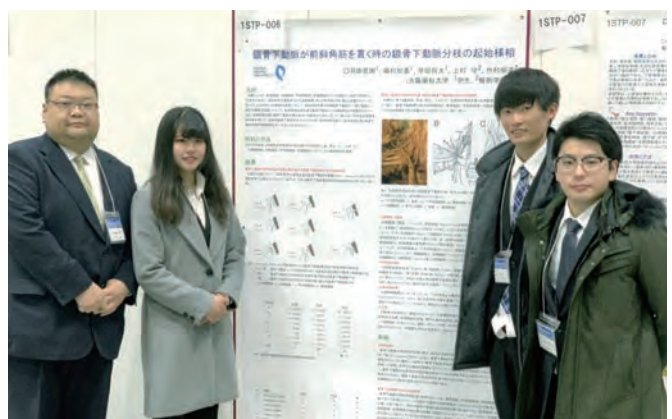
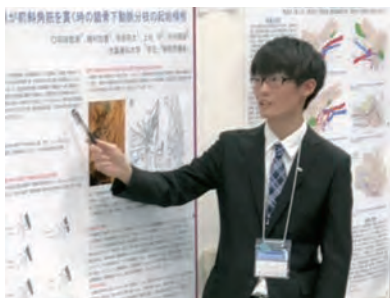
宮脇さんの競技者としての最終目標は、もちろんオリンピック出場。東京の次のパリ、その次のロサンゼルスを目ざしています。学業と射撃競技、宮脇さんがこれから二つの道を究めていかれるよう、本学も応援しています。



歯学部生が日本解剖学会全国学術集会でポスター発表

3月27～29日、第124回日本解剖学会総会・全国学術集会在新潟市内で開催され、本学歯学部2年（当時）の羽田哲朗さん、嶋村知香さん、早田将大さんがポスター発表を行いました。タイトルは「鎖骨下動脈が前斜角筋を貫く時の鎖骨下動脈分枝の起始様相」（指導教員：解剖学講座・上村守講師）。2018年度人体解剖学実習において発見された珍しい遺体の調査結果を発表しました。

学生ポスター発表は学会初日、グループごとに分かれて（1グループ6～7組）行われました。各組の発表、質疑応答の持ち時間は、それぞれ3分。本学は羽田さんが代表でプレゼンテーションしました。「すごく緊張した」という羽田さん。



専門の先生から質問があった時は、一瞬頭が真っ白になったそうです。

「数カ月かけて試行錯誤しながら研究した結果が実になって嬉しかった」と感想を話してくれたのは嶋村さん。「次の機会があればこうしようという課題も見えてきた」と、早くもこの先のことを考えています。

「自分も発表してみたい」という気持ちが強くなったと打ち明けてくれたのは早田さん。他大学の学生と交流したり、専門家の講演を聴いたり、先生方の白熱した質疑応答に触れたり、「得るものが一杯あり参加して良かった」と晴れやかな表情で話してくれました。

橋本正則教授が日本歯科理工学会論文賞を受賞

4月20日に開催された日本歯科理工学会春期第73回学術講演会で、本学医療保健学部口腔保健学科の橋本正則教授が平成30年度学会英文誌（Dental Materials Journal）の論文賞を受賞しました。この論文賞は、表彰前年度の同誌に掲載された論文のうち、とくに優秀と認められた論文の筆頭著者に贈られます。今回は120編以上の中から、橋本先生の論文を含む4編が優秀論文に選ばれました。

橋本先生の受賞論文名は「Improving the durability of resin-dentin bonds with an antibacterial monomer MDPB」。抗菌性モノマーであるMDPBを接着性レジンシステムに応用するとレジン・象牙質接着の耐久性が向上することを明らかにしました。これは、橋本先生が学位論文として取り組んだ研究内容をさらに進化、発展させたもの。この論文によって、本研究は「一区切りついた」そうです。

学会学術奨励賞や優秀発表賞など、これまでも数々の受賞歴がある橋本先生ですが、論文賞は今回が初めて。「全く期待していなかったので、（論文賞を）取れてびっくりした」と控えめに喜びを語ってくれました。



附属病院に睡眠時無呼吸外来開設 / 診療科新体制に

本学附属病院は2019年4月、内科に「睡眠時無呼吸外来」を開設しました。

近年、睡眠時無呼吸症候群（Sleep Apnea Syndrome : SAS）という病気の存在が広く認知され、いびきや無呼吸を治療するために医療機関を受診する方が増えています。こうしたニーズに合わせ、当院では2017年9月から睡眠歯科外来（現睡眠歯科センター）を開始し、マウスピース治療を行ってきました。

そして、このたびの「睡眠時無呼吸外来」設置により、新たに経鼻的持続陽圧呼吸療法（Continuous Positive Airway Pressure : CPAP）による治療も可能になりました。CPAPとは、マスクを介して持続的に空気を送ることで、狭くなっている気道を広げる治療法。SASの標準的治療とされています。

同外来を新設したことで、歯科だけでは完了しないSASの診療（治療前後の診断・評価は医科の病院で受診する必要があります）を当院の中で完結できるようになりました。

10月には、保存修復科をはじめ12の診療科において新科長が就任しました。従来、本学歯学部で講座主任教授が兼任していた科長職を、診療活動を主とする医員が担うことにより、来院のみならず、さらに寄り添った医療を提供したいと考えています。新任の科長は次のとおりです（2019年10月1日付）。

- ・保存修復科 科長 谷本啓彰
- ・歯内治療科 科長 西川郁夫
- ・高齢者歯科 科長 川本章代
- ・補綴咬合治療科 科長 鳥井克典、吉峰茂樹
- ・口腔外科 科長 山田耕治、大西祐一
- ・歯科放射線科（中央画像検査室）科長 四井資隆
- ・矯正歯科 科長 西浦亜紀
- ・小児歯科 科長 園本美恵
- ・口腔インプラント科 科長 草野薫
- ・歯科麻酔科 科長 内田琢也



経鼻的持続陽圧呼吸療法（CPAP）

なお6月に、当院のWebサイトを10余年ぶりにリニューアルしました。“患者さん目線”を心がけて制作した新サイトは全ページ、スマートフォン対応に。各診療科の初診担当医一覧など新たな情報も掲載し、「お問い合わせフォーム」も設けています。まだご覧になっていない方は、是非一度チェックしてみてください。



大阪歯科大学附属病院ホームページ

<https://www.osaka-dent.ac.jp/hospital/>



2018年度

大阪歯科大学卒業式



春近しを感じさせる陽気の3月8日、2018年度大学卒業式並びに大学院学位認証式を楠葉キャンパス講堂で行いました。卒業生一人ひとりに川添理事長・学長から卒業証書・学位記が手渡され、大学院修了者には指導教授から博士（歯学）の学位記が授与されました。開式前は笑顔で「涙が出そうになる」と話していた卒業生も、閉式後は晴れ晴れとした表情で思い出の詰まった学び舎を後にしました。

理事長・学長式辞

理事長・学長 川添 堯彬



1300年前の奈良時代から、東大寺二月堂のお水取りの行事が終われば春が来るといわれてきました。この行事は3月1日から始まり、5日の啓蟄をすぎて来週14日木曜日に満行日の修仁会を迎えます。周辺の梅林も今、満開で、春の到来がすぐそこに感じられるこの頃でございます。

本日、まさにこの春の近い良き日に、第67回大阪歯科大学卒業式を迎えられます97名の新歯学士諸君、並びに第55回大学院学位認証式を迎えられる22名の新博士の皆さん、本日は誠にありがとうございます。同時に、本席にご臨席いただきましたご来賓の方々に深く感謝申し上げます。また保護者・ご家族の皆様におかれましても、ひとしおの感慨に胸を膨らませておられることと拝察いたします。さて、新歯学士の皆さんに申したいと思います。皆さんは間もなく難関の国家試験に見事に合格されて歯科医師になられるわけですが、それからさらに1年間の臨床研修で研鑽する義務があります。その後は大学院博士課程への進学や、社会

人歯科医師として、各分野に分かれて活躍していくことになります。それぞれに使命感ややりがいを見つけてくれるものと思います。

本日ここに卒業式を迎えられた新歯学士の皆さんは、6学年の最終課程を精一杯勉学に励み、目覚ましい成績を挙げられた精鋭揃いの方々であることを担当教員共々、私たちはよく知っています。そのような卒業生の方々へ次の言葉を贈りたいと思います。これからの人生に立ち向かう心がまえについて、明治維新の立て役者となる多くの人材を育成された吉田松陰先生の教えは「まずころざし立てることを最優先事項とせよ」、また105歳まで現役医師を務められた故日野原重明先生は「歳をとっても常に新しく創めることを考え、実行せよ」、そして108年前に本学を創立された藤原市太郎先生は学校を卒業したら、「博愛と公益に努めよ」という言葉を残されました。私はこれらの言葉に「苦境にあっても希望をもて、そして前へ進め」という言葉を加えて、皆さんに贈りたいと思います。

次に、めでたく大学院を修了された新博士の皆さんへ申したいと思います。歯学部を卒業後、さらに上級のコースへ進まれ、勉学意欲、研究意欲に燃えて、ここまでの苦労や努力に耐えてこれ、このたび見事に「博士」の学位を授与されました。このご苦労の成果を、皆さんのこれからの各自の職業人生や、あるいは研究人生においてさらに磨いていただき、歯科界の各分野のリーダーになっていただきたく、存分に活躍していただきたいと祈念します。

そしてさらに期待したいことは、皆さん方は恵まれて、また幾多の努力を経てここまで進んでこられた、まさに国の宝となるエリート人材であります。今後の方向として、できましたらお一人でも多くの方が大学に帰ってきて、将来、教育



研究機関の「教授」になっていただき、次世代の医療人材を多く育ててもらう道を期待します。あるいは別の道として、直接に患者さんに喜んでもらえる「イノベーション治療法」を開発することも大学院卒の重要な役割であると思います。そして将来、いつの日か、「博愛」と「公益」という究極の目標

へ一歩でも近づいてほしいのであります。同時にこの大学の力を一段と高めていただきたいとお願いいたしております。

以上、新歯学士と新歯学博士の皆さんへの私からの式辞といたします。

同窓会会長祝辞

大阪歯科大学同窓会 会長 生駒 等

平成30年度大阪歯科大学卒業式並びに大学院学位認証式に際し、9千余名の同窓会会員を代表してお祝いを申し上げます。

大学 67 回卒業生の皆様、大学院博士課程を修了された新進気鋭の先生方、並びに今日、晴れの舞台を待ち望まれたご参列のご父兄の皆様にご心から祝福とお慶びを申し上げます。

私は昭和43年3月、大学 16 回生として卒業し、昨年秋に50周年記念クラス会が開かれました。その折に私達 16 回生の卒業時の答辞が披露されました。私達の初心と想いを餞として皆様に送りたいと思います。

『顧みすれば昭和37年4月、歯科医学への大きな希望と限りない情熱と一抹の不安を胸に牧野学舎の門をくぐって、より6年。人体の複雑、神秘精緻な機構に驚き、歯科医の使命を認知し、石膏にまみれ、模型の上に涙を落とした事もありましたが、歯を食いしばって一生懸命頑張ってきました。しかし、その間私達の若さ未熟さの為、ややもすると学びの道、学生の道から脱線し、諸先生方にご心労をおかけすることもございましたが、常に温かいご理解ある態度で私達をお導きくださいましたご恩恵は、生涯忘れることはありません。また、歯科大生の根性を示した対外試合をはじめ、文化祭、体育祭、クラブ活動など、その思い出の一つ一つを小箱に入れて大切にしたいと思っております。私達卒業生一同、諸先生方より教えていただいたこと6年間、自分の身をもって体験したこと等を基礎として、一生勉学に励んでいきます。』

今後、私達は大学にて研究に携わる者、臨床医として直接患者に接する者、各々道は違っていても目的は医道の追求にあると考えます。しかし、前途は決して安易な一本の道ではなく、時には絶望感すら抱くこともあるでしょうが、歯科医学を通じて人類の健康と福祉に尽くさねばならぬその責任の



重大さを考える時、自己の最善を尽くして大阪歯科大学卒業生としての自覚と誇りを失うことなく、歯科医人として、人間として正義をつらぬき前進したいと思います。

6年前の入学式より今日まで、学長先生はじめ諸先生方の終始変わらない恩愛あふるご指導によりまして、本日ここに全過程を終了できましたことを一日千秋の想いで待たれ、遠路よりご出席くださいましたご父兄の方々に報告できますことは、私達、卒業生の限りない喜びであり大きな誇りであります。

私達卒業生一同は、本学が今後とも歯科医学の殿堂として、学問研究に益々発展され、優れた歯科医人として強く、正しく、明るく生き、社会の為になる人物を多数輩出するところの世界一の大学として繁栄・発展の道をたどられることを確信いたします。』

以上が私達大学 16 回生の答辞です。

皆さん、思想とか、信念とか、信仰は、個人の魂、個人の人格を通じて発してくるものでなくてはなりません。どんなに立派な理論や信仰でもそれが自分の中に通じてこなければ、決して生きた力にはなりません。私達先輩は、いつも皆さんの精進を見守っています。輝かしい光輝く未来に栄光あれとエールを送り祝辞といたします。



学位・博士(歯学)授与

佐藤 航 甲第 833 号 平成 31 年 3 月 8 日
Antimicrobial Effect of Titanium Hydroxyapatite in Denture Base Resin (義歯床用レジンに含まれたチタンアパタイトの抗菌効果)

原 瑛紀 甲第 834 号 平成 31 年 3 月 8 日
Epigallocatechin Gallate-Modified Gelatins with Different Compositions Alter the Quality of Regenerated Bones (異なる組成のエピガロカテキンガレート結合ゼラチンは再生骨の骨質を変化させる)

上田 衛 甲第 835 号 平成 31 年 3 月 8 日
Comparison of the characteristics of mesenchymal stem-like cells derived by integration-free induced pluripotent stem cells in different single-cell culture media under feeder-free conditions (異なるフィーダーフリーシングルセル培養液を用いたインテグレーションフリー iPS 細胞から誘導した間葉系幹細胞様細胞の特性比較)

井村 和希 甲第 836 号 平成 31 年 3 月 8 日
Application of hydroxyapatite nanoparticle-assembled powder using basic fibroblast growth factor as a pulp-capping agent (ナノアパタイトー bFGF 複合体を用いた覆髄剤の応用)

宮本 綾乃 甲第 837 号 平成 31 年 3 月 8 日
Hard Tissue-Forming Ability and Ultra-Micro Structure of Newly Developed Sponges as Scaffolds Made with Sodium Alginate Gel and Chondroitin Sulfate (アルギン酸ナトリウムゲルとコンドロイチン硫酸から作製した新規スポンジ担体としての硬組織形成能と超微細構造)

笹山 智史 甲第 838 号 平成 31 年 3 月 8 日
Osteogenesis of Multipotent Progenitor Cells using the Epigallocatechin Gallate-Modified Gelatin Sponge Scaffold in the Rat Congenital Cleft-Jaw Model (ラット先天性顎裂モデルにおける多能性前駆細胞を播種した EGCG 結合ゼラチンの骨形成)

寺西 祐輝 甲第 839 号 平成 31 年 3 月 8 日
Cost-Utility Analysis of Molar Single-Implant Versus Fixed Dental Prosthesis (臼歯部中間 1 歯欠損補綴治療の費用効用分析)

杉立 尚城 甲第 840 号 平成 31 年 3 月 8 日
Reproducibility of occlusal contacts on dental casts with the bite impression for full arch using a prototype tray - Comparison between conventional and bite impression methods - (試作した全顎咬合印象用トレーで製作した歯列模型の咬合接触の再現性 - 通法と咬合印象法の比較 -)

吉川 佑輔 甲第 841 号 平成 31 年 3 月 8 日
Influence of the number of insertions and removals of telescopic zirconia/alumina crowns on retentive force and settling (ジルコニアを用いたコーヌステレスコープクラウンの着脱回数が維持力および沈み込み量に及ぼす影響)

井戸垣 潤 甲第 842 号 平成 31 年 3 月 8 日
Lung Cancer Risk in Passive Smokers using Salivary Exosome-Derived MicroRNAs (唾液中エクソソーム由来マイクロ RNA を用いた受動喫煙者の肺がんリスク調査)

山村 高也 甲第 843 号 平成 31 年 3 月 8 日
Influence of low-temperature atmospheric pressure plasma treatment on the surface treatment of fiber post (低温大気圧プラズマ処理がファイバーポストの表面処理に与える影響)

中西 環 甲第 844 号 平成 31 年 3 月 8 日
Interleukin-6, Matrix Metalloproteinase-9 Expression in Three-dimensional Tumor Microenvironment using Oral Cancer Cells (口腔癌由来細胞を用いた三次元腫瘍微小環境の in vitro モデルにおける IL-6, MMP-9 の発現)

成瀬 かおり 甲第 845 号 平成 31 年 3 月 8 日
Expression of E-, P-, and N-cadherin and α -, β -, and γ -catenin with respect to invasion in ameloblastoma (エナメル上皮腫における E-, P-, N-cadherin, α -, β -, γ -catenin の発現の検討)

杉本 貞臣 甲第 846 号 平成 31 年 3 月 8 日
Selective growth inhibition of *Porphyromonas gingivalis* and *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* by antisense peptide nucleic acids (ペプチド核酸による *Porphyromonas gingivalis* ならびに *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* に対する特異的増殖抑制法の検討)

上村 優介 甲第 847 号 平成 31 年 3 月 8 日
Relationship between tongue elevating exercises and tongue pressure (舌の挙上訓練と舌圧の関連について)

森田 達 甲第 848 号 平成 31 年 3 月 8 日
Development of a device to evaluate the bolus transport force of pharyngeal swallowing (咽頭期嚥下における食塊移送力の測定装置の開発)

安井 由香 甲第 849 号 平成 31 年 3 月 8 日
Relationship between preference and gaze in modified food using eye tracker (アイトラッカーを用いた食形態の嗜好と視線の関連)

森川 裕仁 甲第 850 号 平成 31 年 3 月 8 日
Effect of an Experimental Primer Solution on Bonding to Resin Blocks (試作プライマーのレジンブロックに対する接着性について)

大本 博樹 甲第 851 号 平成 31 年 3 月 8 日
A study about stress undergoing dental treatment in patients with gagging reflex (異常絞扼反射患者の歯科治療時におけるストレスに関する検討)

松尾 信至 甲第 852 号 平成 31 年 3 月 8 日
Effect of meal posture adjustment management on tongue movements during mastication (摂食介助時における姿勢調整が咀嚼時舌運動に及ぼす影響)

寺田 知里 甲第 853 号 平成 31 年 3 月 8 日
Effect of Amelogenin Coating of a Nano-Modified Titanium Surface on Bioactivity (ナノ構造析出純チタンへのアメルジェニンのコーティングが生体適合性に与える効果)

陳 路沅 甲第 854 号 平成 31 年 3 月 8 日
In Vitro and In Vivo Osteogenic Activity of Titanium Implants Coated by Pulsed Laser Deposition with a Thin Film of Fluoridated Hydroxyapatite (PLD 法でフッ素化ハイドロキシアパタイト成膜した純チタン材料の骨形成能 in vitro と in vivo 評価)

西嶋 一路 乙第 1617 号 平成 31 年 3 月 27 日
Morphological influence of osteoporosis and bisphosphonates on mandibular glands of rats (ラット下顎腺における骨粗鬆症及びビスホスホネート製剤の形態学的影响)

折原 博一 乙第 1618 号 平成 31 年 3 月 27 日
Palatal mucosal wound healing in type 2 diabetes model rats after administration of an antibacterial drug (抗菌剤を投与した 2 型糖尿病モデルラット口蓋粘膜の創傷治癒)

新谷 継郎 乙第 1619 号 平成 31 年 3 月 27 日
Effect of serine protease trypsin on the interaction of RANKL and RANK (セリンプロテアーゼであるトリプシンが RANKL/RANK 相互作用に及ぼす影響)

中島 幸市朗 乙第 1620 号 令和元年 6 月 26 日
Effects of photosensitizers in a high-power, red light-emitting diode irradiation on human gingival epithelial cells (高出力赤色 LED 照射における光増感剤がヒト歯肉上皮細胞に及ぼす影響)

中西 功 乙第 1621 号 令和元年 9 月 25 日
ラット骨欠損の治癒過程におけるウロココラーゲンの効果

橋本 直季 乙第 1622 号 令和元年 9 月 25 日
Effects of *Porphyromonas gingivalis* on oxidant stress of human bone marrow cells in vitamin E (ビタミン E 添加状態の *Porphyromonas gingivalis* がヒト骨髓間葉系細胞の酸化ストレスに及ぼす影響)

犬伏 正和 乙第 1623 号 令和元年 12 月 25 日
Retinoic acid promotes migration of MC3T3-E1 osteoblast-like cells via RAR α signaling-mediated upregulation of profilin-1 expression (レチノイン酸は RAR α シグナル経路を介して profilin-1 遺伝子発現調節により MC3T3-E1 骨芽細胞様細胞遊走能を向上させる)

上野 健太郎 乙第 1624 号 令和元年 12 月 25 日
Factors influencing dental arch form (歯列弓形態決定に関与している因子)

2018年度

大阪歯科大学歯科衛生士専門学校卒業式

3月12日、柔らかな春の陽射しのもと、大阪歯科大学歯科衛生士専門学校の最後の卒業式が楠葉キャンパスで行われ、歯科衛生士学科(専門42期生)41名が巣立っていきました。

式の中で、田中昭男学校長は卒業生一人ひとりに卒業証書を手渡し、次のはなむけの言葉を贈りました。「皆さんの前には明るい未来が待っています。社会人として、医療人として、歯科衛生士の矜持をもって、それぞれの地域で、それぞれの場所で、人々の口腔の健康と全身の健康を守るために力を尽くしていかれることを願っています」

卒業生代表として挨拶した扇谷滯音さんは声を詰まらせながらも「大阪歯科大学歯科衛生士専門学校最後の卒業生として誇りを持ち、さまざまな医療現場で、患者さんの心に寄り添える歯科衛生士を目指して精進してまいります」と述べました。

こうして1968年に設立された大阪歯科大学歯科衛生士専門学校は1958名もの卒業生を送り出し、平成の元号とともに半世紀にわたる歴史の幕を閉じました。同校の精神は本学医療保健学部を受け継がれていきます。



2019年度

大学・大学院 入学式

春の光がうららかな4月5日、平成最後の大阪歯科大学入学式を楠葉キャンパス講堂で行いました。午前10時から歯学部・歯学研究科の、午後2時から医療保健学部・医療保健学研究科の式が始まり、歯学部128名、編入学6名、歯学研究科38名、医療保健学部93名、医療保健学研究科12名が新たな大学生活をスタートさせました。

歯学部・歯学研究科

理事長・学長式辞

理事長・学長 川添 堯彬

ひと月前の啓蟄の頃には、まっ白く、おだやかに咲きほしかった梅の花に押されて、今年もようやく桜の花と春光が広がってまいりました。

本日、大学新入学生・大学院新入学生にとって、ともにこの日が新しい環境へ入るとき、社会へ向けての決意と誓いのときであり、新たなスタート地点であります。先ほど来、点呼におきまして、呼ばれた場合に「はい」という元気のよい声をした人、これはきょう1日の一つの決意を立派に済ませたということで、本人の態度に敬意を表します。

本日、大学院へ留学される中国からの新入生のご家族が30名以上ご臨席くださり、心からお礼申し上げます。

また、新入学生のご父兄・保護者の方々、ご家族の方々にとりまして、きょうの日が、期待と願いを込めた始まりのときであると胸に刻んでおられることと拝察いたします。



本日、歯学部大学並びに大学院博士課程に入学されたそれぞれ134名と38名の方々、両方の皆さんにこの式辞を贈りたいと思います。

本学は、1911年、明治44年に創立され今年で108年目になります。2011年11月には、100周年記念のいろいろな行事をとり行いました。一万数千の卒業生を輩出しております。本学は、そういった長い伝統に支えられた大学であります。あなた方も、きょうから我々とともに諸先輩の築かれた大学愛、母校愛、そして同窓としての絆を汚すことなく受け継いでいくわけでございます。



本学の創設者であります藤原市太郎先生は、明治 44 年 12 月 12 日にある思いを抱いてこの学校を創立されました。その当時、日露戦争が終結して間もないころで、まだ世の中は騒然とし、社会は経済的にも緊縮状態であったと思われます。その中にあって、藤原市太郎先生は、この大学を現在の大阪市福島区野田 4 丁目に創立されたわけであります。その思いとは、「学校経営事業は営利に非ず、博愛公益のために努力するものなること」。この言葉が、2 代目の理事長でありました古川賢治先生に申し伝えられ、この言葉だけはぜひとも将来に受け継いでいってほしいとの願いをもってバトンを渡された、大変尊い、また貴重で崇高な本学の建学の精神であります。

そして私が、この 100 周年の記念事業の中で発見したのは、100 年たってもこの言葉はこれほど輝いて、またこれほど有益で、私たち学ぶ者の心を勇気づけてくれる言葉はないのではないか。この言葉は、世界の国々、欧米先進国やアジア諸国のみならず、全世界のどの国へ行っても胸を張って通じるスピリットではないか、と誇りに思います。

マザー・テレサの象徴ともなっております博愛（フィランソロフィー）の精神を思い出すまでもなく、これは本学に脈々と続いていることを実感するわけであります。どうか皆さんも、この精神を少しでも実践に向けて活動するとともに、究極の目標として胸に刻印され、また後輩にもこのスピリットを引き継いでいっていただきたいと思っております。

この言葉は、まさに学部学生諸君にとりまして、大学院生諸氏にとりまして、時や国を越えて通じるものであると思います。これほど崇高で誇れる言葉はほかにありましようか。私たちは、これをとてもすぐには達成できないかもしれませんが、少しでもその方向へ進む志を持ちたいと願っているわけであります。この我が校の誇れる建学の精神を、今私も大切に守り続けたいと強く肝に銘じているところであります。皆さん方もどうかお忘れのないように進んでいっていただきたいと思います。

以上、理事長・学長の式辞といたします。

医療保健学部・ 医療保健学研究科

理事長・学長式辞

理事長・学長 川添 堯彬

この時期は、異様に寒い日に戻ったかと思うと、また極めて温かい日があったりしまして、まさに三寒四温を繰り返しながら着実に春が到来している、春光、春色の気配を確実に感じる頃となりました。本日この佳き日に大阪歯科大学医療保健学部並びに医療保健学研究科入学式を挙行了いたしましたところ、保護者各位並びに両専門学校の同窓会会長様をはじめ、本学の理事・役員・名誉教授・歯学部教授・医療保健学部教授の大勢の方々のご臨席を賜り、錦上添花を添えていただきましたことを誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

本大学の医療保健学部は、国並びに時代の要請と期待を受けて、3 年前の 4 月に新たに開学した 4 年制の大学であります。また、口腔保健学士の学位又は口腔工学士の学位を、そして更に社会福祉士の資格を取得できる二つの学科に分かれ、更に大学院修士課程をも備える、専門学校を一段と越えた学部であります。今や全日本の医療界におきましては全国的に地域包括ケアと多職種連携、あるいは多職種協働ということが政策として叫ばれ、これまでの医療形態をがらりと変えた方向へ急速なピッチで歩みつつあります。そういった中にあって、特に国民、患者さんからの需要が際立って多い医



療保健学部におきましては、早急にそれに対応できる学科を、大学を、学部を設ける必要があります。色々な困難を克服して、本学は私立大学でありながら、唯一の医療系の総合・複合大学として発足いたしました。

しかし将来、これまでの専門学校に頼ってきた人材育成をさらに広げ、これからは学士を卒業した方に 1 日も早く、それぞれの地域の医療の担い手として指導的な立場に立っていただく、そういった人材を育ててほしいというのが、国の、厚生労働省の要請でございます。西日本におきまして、それにいち早く本学は対応して、3 年前に多くの方面から注目を受けて、開学いたしました。そうしましたところ、北は青森山形岩手から関東地方、そして中部、更に四国・中国、九州の方面まで、それまで単にインターネットによる広報のみにありながら、近畿一円ではオープンキャンパスに来ていただいて、こういった学科の必要性を克明に広報してまいりましたが、そういった離れたところでも、こちらへわざわざ下宿

を移して応募してくれました。私はそういった傾向が、初年度から起こったことに対して非常に感激すると同時に、少しでも国の責任の一端を果たせているのではないかという喜びに浸りかけているわけでございます。

なぜそれだけ遠隔地からの学生さんを我々は希望、渴望しているかと申しますと、これからは各地域の人口は減少し、地域そのものの存在が問われる時代が、少子化によってこうとしております。その中で特に困っているのが、医療の分野でございます。働いてくれる人材が、都会の方ばかりに就職して、ほとんど来てくれないという、切実な叫びが方々から寄せられているようであります。その解消に1日も早く動いていただくために、我々は遠隔からの学生さんを特に歓迎し、卒業されたらできるだけ早く元の故郷に戻っていただきたいと考えています。こうした医療形態のキャリアを持つ人は、ほとんど引っ張りだこで、どの地方に行っても待ち望まれているわけであります。みんなが東京や大阪のような大都会ばかりに就職すれば、いびつな医療形態が日本で将来出現するという恐ろしい事態になってしまうため、中央官庁も慌てているような次第にあります。そのように非常に大きな需要の環境下において、本年また93名の医療保健学部の学士の方が入学し、4年後には卒業されますが、私は恐らく今後10年はこうした4年制の大学を出られた方がそれぞれの教育機関とか地域の中で指導的立場に立つ、教える立場に立つだけで、引っ張りだこになるものと思っております。まだまだこの職業の担い手が全く足りないというのが、大きな声であります。そういう状況で新入生の皆さん方が将来、この選んだ医療職という、非常に弱者、困っている方がいる働き甲斐のある環境のもとで仕事ができ、しかも今日働き方改革が取り上げられていますが、この歯科衛生士さんにしても歯科技工士さんにしても、働く時間と休む時間が非常にバランスの取れた、ワークライフバランスが極めて良い職業の中に挙げられているわけであります。そういった中で社会貢献・地域貢献を社会のために世の中のために行えるのです。そしてしかもひとたび日本のような先進国の医療の国家試験を通して得られた国家資格というのは、終生、更新も全くなくてもその価値は、全くそのまま生涯にわたって使える、まあ

知る人ぞ知る極めて輝くような資格でございます。皆さんは色んな人生で、少し職場を離れる時期もあろうかと思えます。5年10年と休むことがあっても一度最初に4年間を苦労して取得した国家資格というのが、いつでもそれをまたどの地域においても、更にはどの国においても利用できるのです。そしてしかも自分にもやりがいがあるという、そういう資格を目指す、これからの社会においてひとたび高校を卒業して選択した道というのは、まさに迷うことなく正しい選択であるということ、この立場にありまして私は確信いたしております。このような素晴らしい職業に進まれること、そして医療職の国家試験のある教育機関へ進むことは、これが一番後悔しない職業の選択の道だと、すなわち人生の色んな意味で多角的にエンジョイしたり、働いたりすることをいきいきとできる、一生に一度しかない人生を最も幅広く活用できる道だと思います。

どうかこのことを、4年後にまた申し上げたい気持ちでありますので、ぜひ覚えておいていただきたいと思えます。もう一度申します。皆さんが今回選んだ道というのは、卒業するだけで親孝行になるわけであります。社会のためになって自分にとってもやりがいがあり、休みたいときには休んで、働きたいときには働ける、今日の働き方改革にもまさに適合した職業を目指しているわけでございます。しかもこれは単なる技術だけに走るのではなくて、これからは学士の歯科衛生士さん、学士での歯科技工士さん、これが断然やりがいを倍加することにつながると、これも私は確信いたしております。

勿論、この4年間は相当勉強しないと卒業できないかも知れませんが、今青春のエネルギーがいっぱい溜まった夢を膨らませている皆さんが、ここにエネルギーを注いで、燃焼する価値は、これから先長い人生のまだ端緒にいたばかりの皆さんだからこそでありますので、どうかそれに賭けていただきたいと思えます。どうか健康には気をつけて、将来バラ色の人生が待っているような道、これを選びたく進んでいただきたいと思えます。

これを以て医療保健学部学士並びに大学院修士を目指されている方への式辞、はなむけの言葉とさせていただきます。

教授就任挨拶

2019年に次の5名の先生が大阪歯科大学教授に就任しました。

歯学部	生理学講座	主任教授	合田 征司（4月1日付）
歯学部	解剖学講座	主任教授	上村 守（11月1日付）
歯学部	歯科理工学講座	主任教授	橋本 典也（12月1日付）
歯学部	医療安全管理学	専任教授	佐久間 泰司（4月1日付）
附属病院	耳鼻咽喉科	専任教授	服部 賢二（7月1日付）

以下4名の先生の略歴とご挨拶を掲載します。

歯学部生理学講座 主任教授

合田 征司

ごうだ せいじ

博士（歯学）/1968 年生まれ

- ＜学歴＞ 1995 年 3 月 大阪歯科大学卒業
 1995 年 4 月 第 88 回歯科医師国家試験合格
 1999 年 3 月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
 博士（歯学）の学位を受領
- ＜職歴＞ 1999 年 10 月 アメリカ・ミネソタ大学医学部 Cancer Center
 Postdoctoral Associate（2002 年 5 月迄）
 2002 年 8 月 大阪歯科大学助手（生化学講座）
 2006 年 4 月 大阪歯科大学講師（生化学講座）
 2016 年 4 月 神奈川歯科大学歯学部教授（2019 年 3 月迄）



大阪歯科大学主任教授会の選出及び法人理事会の承認をいただき、大阪歯科大学歯学部生理学講座の主任教授を拝命いたしました。就任にあたり、皆様へのご挨拶とともに自己紹介と生理学における教育と研究活動に関する抱負を申し上げます。

歯科における基礎分野は、一般的な生命科学と口腔組織を中心とする専門的な生命科学分野から成り、さらに形態学と機能学が密接に関連しています。これらは分野それぞれに分離されて教育をするのではなく、密接に連携して教育を行い、さらに臨床系科目に結び付けていかなければなりません。さらにリサーチマインドや自己問題解決能力を持った臨床歯科医師の育成が望まれております。教育面で最も重要なことは、将来の歯科界を担うであろう自己の社会的役割を認識して自らのキャリアをデザインし、自己主導により常に自己の向上を図ることができる能力を持つ人材を育成することであると考えます。このような教育力の向上を目指すことが、学生の学力向上への第一歩であると考えます。また、最近の歯科医師国家試験の状況から、学生の精神的負担も大きく、そのサポートも教員の大きな任務であり、十分な支援態勢を講座内に整えることも必要と考えております。

現在、大学院生は留学生 1 名、臨床系の大学院生 2 名が所属しており、今後もさらに大学院生を積極的に受け入れたと考えています。大学院生教育については、生理学の基礎知識の習得及び基礎研究知識の習得を継続的に行い、歯科臨床・歯科基礎に関連した先端研究の指導とともに、歯科医学全般を見渡せる能力の育成、今後、大阪歯科大学を担う研究者・教育者の育成に取り組めます。また大学院修了後も研究を継続できる環境を提供し、次代の大阪歯科大学を担う人材

育成に取り組みたいと考えております。

現在までに行ってきた研究は、炎症性ケモカインによる細胞遊走・浸潤、インテグリンの活性化によるサイトカイン産生や酵素による結合組織破壊などの「慢性歯周炎・歯髄炎発症機序の解明」です。基礎研究として今後は、さらに慢性歯周炎及び歯髄炎発症機序を解明するために線維芽細胞、歯髄線維芽細胞、リンパ球の細胞接着・遊走・浸潤を中心に実験的歯周病発症マウスや生物製剤（中和抗体）を用いてさらに研究を進めていきたいと考えています。さらに研究を進めることで、実際の臨床面での予防につなげたいと思っています。

本学の建学の精神である「歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕的人生観を体得して、「博愛」と「公益」に努める」を心に刻み留め歯科医学、大阪歯科大学の発展に貢献していきたいと存じます。

今後もご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



歯学部解剖学講座 主任教授

上村 守 うえむら まもる

博士（歯学）/1975年生まれ

- <学歴> 2000年3月 大阪歯科大学卒業
2001年4月 第94回歯科医師国家試験合格
2009年6月 博士（歯学）の学位受領（大阪歯科大学）
- <職歴> 2002年5月 大阪歯科大学助手（解剖学講座）
2007年4月 大阪歯科大学助教（解剖学講座）
2013年4月 大阪歯科大学講師（解剖学講座）

この度、大阪歯科大学歯学部解剖学講座主任教授（2019年11月1日付）を拝命いたしました。この場をお借りいたしまして謹んで、就任のご挨拶申し上げます。本講座は、1947年6月10日、初代故谷口善之先生が教授に就任され、教育・研究の両者を行う解剖学講座として開設されました。その後、第二代故太田義邦教授（1970～1995年）、第三代諏訪文彦教授（1995～2015年）、第四代竹村明道教授（2015～2019年）と就任され、私が五代目として務めることとなりました。私は、1975年に奈良県吉野郡で生まれ育ちました。1994年に大阪歯科大学に入学し、在学中は勉学だけではなく、柔道部やドイツ語研究会というクラブ活動で汗を流しておりました。大学を卒業し、卒後研修を経て2002年から現在まで解剖学の教育・研究に精励してまいりました。

まずは、教育ですが、第1学年後期に実施されています「解剖学Ⅰ」です。学生たちにとっては、初めて学修する専門科目でもあり、大きな戸惑いがあります。そこで、初学者向けに噛み砕いた講義を行い、人体の構造と機能に興味を持ってもらい、学修したいという欲求を持たせる講義を心がけて行っていききたいと思います。すなわち、「暗記に頼らない、考える解剖学」の教育を継続して行っていきたいです。

次に、第2学年前期の「解剖学Ⅱ：人体解剖学実習」についてです。この実習に関しましては、ご遺体を使つての実習になります。解剖学講座の助手として任用されて以来、諏訪名誉教授、竹村名誉教授らの解剖手技を目の前で学んできました。さらに、肉眼解剖学の大家であられる児玉公道教授に師事し、熊本大学医学部の人体解剖学実習セミナーに足掛け3年参加しました。このセミナーで身に付けた人体解剖学実

習の知識と技術を本学教育に反映させたいと思っています。また、ご献体者の御霊、ご遺族に対して、礼意を失することなく遺体を取り扱えるように「生命の尊厳」の教育も同時に行っていききたいと思います。

一方、研究ですが、私は微細血管構築の観察と肉眼解剖学を二本柱として研究を行っています。前者の研究成果は、「アクリル樹脂微細血管鑄型法」通称レジン注入法を利用しています。この方法は、本学解剖学講座が発足以来行っている「谷口・太田式レジン注入法」で、微細血管鑄型標本を作製し、走査型電子顕微鏡で観察する方法です。この方法を継承し、2013年には、諏訪名誉教授と共にアクリル樹脂注入改良法を開発いたしました。この技法を、他講座員にも継承し、各方面への応用を考えています。現在は、2型糖尿病の病態や創傷治癒過程に発生する微細血管構築を観察しているところです。

次に、肉眼解剖学研究です。人体解剖学実習で遭遇する破格の調査・研究をしています。2009年には「鎖骨下動脈が前斜角筋の前面を通る時の鎖骨下動脈分枝の起始様相」という標題で日本解剖学会献体学術賞を受賞させていただきました。さらに、2019年日本解剖学会全国学術集会において学生と共に発表を行いました。

大阪歯科大学に少しでも貢献できるよう頑張る次第です。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

歯学部歯科理工学講座 主任教授

橋本 典也 はしもと よしや

博士（歯学）/1965 年生まれ

- ＜学歴＞ 1990 年 3 月 大阪歯科大学卒業
 1990 年 5 月 第 83 回歯科医師国家試験合格
 2000 年 9 月 博士（歯学）の学位を受領（大阪歯科大学）
- ＜職歴＞ 1990 年 4 月 大阪歯科大学助手（歯科理工学講座）
 1994 年 8 月 シドニー大学客員研究員（1995 年 8 月迄）
 2007 年 4 月 大阪歯科大学助教（歯科理工学講座）
 2011 年 4 月 大阪歯科大学講師（歯科理工学講座）
 2016 年 4 月 大阪歯科大学准教授（歯科理工学講座）



大阪歯科大学主任教授会の選出及び法人理事会のご承認をいただき、2019 年 12 月 1 日付で大阪歯科大学歯学部歯科理工学講座の主任教授を拝命いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。就任と同時に中国・武漢市で報告された原因不明の肺炎は、「COVID-19」（新型コロナウイルス感染症）と名付けられました。教授室の新調に注文した調度品も、流通経路の混乱で届かず、実際に教授室で執務をスタートできたのは翌年 2 月初旬になりました。

故筒井正弘名誉教授の後のワンダーフォーゲル部部長を中村正明名誉教授が引き継がれ、ワンダーフォーゲル部部長だった私は、なんとなく歯科理工学講座に助手として就職することになりました。学位を取得すれば父親の後を継ごうと考えていたのかもしれませんが。あまり研究に実の入っていない私を見かねたのか中村名誉教授は、私にシドニー大学歯学部への留学を勧めました。留学中の研究成果も英会話の実力も決して誇れるものではありませんでした。しかし、寮生活だったため、日本と全く違う文化やバックグラウンドを持つ人たちとの暮らしで、異文化理解力を持つことができたと思います。また、研究室主催のシドニー郊外への泊りがけの研究合宿や、大学を休講にしてまで行うリサーチデイは研究の楽しさを教えてくれました。

大阪歯科大学歯科理工学講座は故川原春幸名誉教授、中村正明名誉教授、武田昭二名誉教授、現今井弘一副学長まで in vitro 手法を用いた歯科生体材料の安全性評価を軸にして研究が行われてきました。私の学位論文も、当時、大騒ぎとなったシーラント材のビスフェノール A の環境ホルモン作用を in vitro 手法で評価する内容でした。その時に粘膜調整材から環境ホルモン作用の疑いがある可塑剤が大量に溶出す

ることを発見しました。それならば、その可塑剤を安全なものへと変更し、同等の物性を持つ粘膜調整材ができないかと考えたのが、評価から開発研究へと舵をきったきっかけでした。その後は、積極的に学内、学外と共同研究を行い、新規骨補填材料、レーザーを用いたインプラントの表面改質、歯科臨床応用可能な iPS 細胞、根管シーラーの薬事承認に向けた研究等、様々な分野に取り組んでおります。

新しい研究は研究を継続することで生まれます。研究を継続するためには、自身の努力はもちろんのこと、良い仲間や後輩が必要です。良い後輩を育成するには、学生教育をしっかりしなければなりません。現在、文部科学省は、グローバルな質の高い歯科医療、歯科医師を求めています。ますます、大学に求められる教育のハードルも高くなることでしょう。さらに、歯科医療は、再生医療や CAD/CAM の進歩によってこれからの数年間で劇的に変化することが予想されます。そうした現状の中、将来の大阪歯科大学を担っていく人材を育てることが非常に重要です。

母校の主任教授に就任できたのはまことに光栄です。母校の教職員はじめ、多くの方々に育てていただき、現在も育てていただいている立場でございます。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



歯学部医療安全管理学 専任教授

佐久間 泰司 さくま やすし

歯学博士 / 1958 年生まれ

- <学歴> 1982 年 3 月 大阪歯科大学卒業
1982 年 5 月 第 71 回歯科医師国家試験合格
1986 年 3 月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
歯学博士の学位を受領
2012 年 3 月 龍谷大学大学院法学研究科博士後期課程満期単位取得退学
2016 年 3 月 日本大学大学院総合社会情報研究科博士前期課程修了
- <職歴> 1987 年 10 月 大阪歯科大学助手（歯科麻酔学講座）
1995 年 11 月 大阪歯科大学講師（歯科麻酔学講座）
2003 年 4 月 大阪歯科大学助教授（歯科麻酔学講座）
2007 年 4 月 大阪歯科大学准教授（歯科麻酔学講座）

2019 年 4 月 1 日、医療安全管理学専任教授を拝命いたしました。

医学部には医療安全学講座が多くあり、この分野の研究者が育っています。歯学部にもその芽が全く無いことを 10 年間、忸怩たる思いで見つめてきました。全国の歯学部の先頭を切って医療安全学の教授職が本学につくられたことは、（その任に私が適切かという本質的問題はさておき）川添堯彬理事長・学長のご英断であると心より感謝しています。

医療安全学は医療の質を担保する学問です。腕のいい医療者を増やすだけでなく、患者とのコミュニケーションという、以前なら「医療の質」に含まなかったもののまでが医療安全学の射程となっています。例えば、患者の目の前で同僚をアダ名で呼び合えば、いくら腕がよくても「この病院は（あの医療者は）医療の質が低い」と患者は評価します。今日的な意味での「医療の質」あるいは「医は済民」の意義が問われています。

ご案内のように、医療安全学に必要な知識は広範囲に及びます。医歯学のみならず自然科学全般、さらに人文科学、社会科学、それぞれの応用科学。我々は哺乳類の一種であるヒトだけでなく、社会的存在としての人間も相手にしています。

最近、ちょっと細めの注射針を使ったために注射筒から針が外れて薬液が飛び散るインシデントがありました。原因を考えるには、物理学（流体力学）と数学（微分方程式）の知識が必要です。原因が分からなければ対策が立てられません。微分方程式といえば、コロナ肺炎で指数関数や微分方程式を正確に理解している医師・歯科医師のみが、正確に患者数の推移を理解できたことが思い出されます。

私は三叉神経痛で歯が痛い患者を診ます。「オレは歯が痛

い、歯が悪いと歯が痛くなるだろ？だから早く歯を抜いてくれ」と患者に言われたときに、さてどう答えましょう。「患者の根本的な発想の間違い」を指摘し、患者とともに疾患と闘うには、哲学の一部である論理学（アブダクション）の知識が必要です。

酒飲みの患者さん（私もですが）が、よく病院に来ます。抜歯後に酒を飲むなどという注意を酒飲みにするときには、何に気を付ければよいのでしょうか。ここでは心理学（忘却の規定因）の知識が不可欠です。

診療室に文字や絵のかいてあるポスター掲示を極力避けることが、歯科医師など医療者の説明をきちんと聞いてもらうため必要だという発想も医療安全学には重要です。これは障害者学（ADHD）の知識がないと、何のことか理解できないでしょう。

医療安全学のスキルは、教養課程の授業も含めたすべての知識・技能を相互に関連付け、歯科医療を射程にした汎用的能力として使いこなすことで得られます。医療者自身が主体的に問題を見つけ、解決法を探るスキルも必要です。キー・コンピテンシー、人間力、あるいは 21 世紀型スキルと呼ばれるものです。

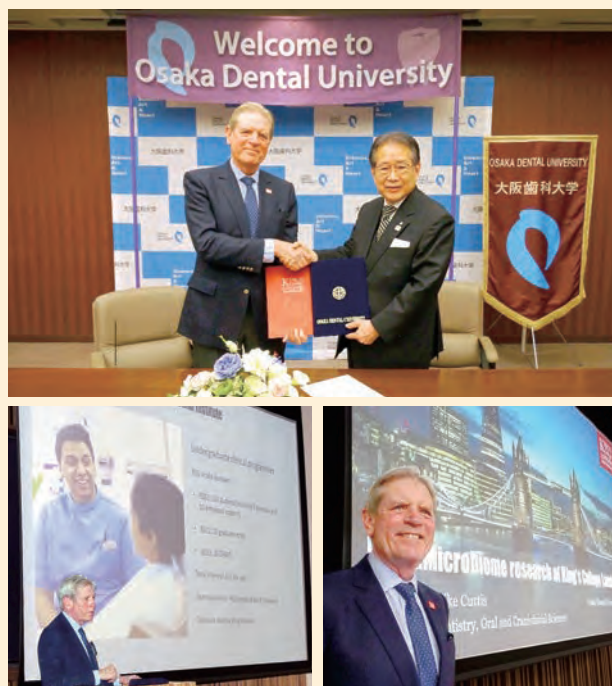
私が医療安全学の専任にご選任いただいたのは、病院の安全管理はもとより、上記のような医療安全学マインドを持った多くの医療者あるいは後進を育てる捨て石になれということだと理解しています。重量級の石ですが、どうかよろしくお願いいたします。

King's College Londonと協定更新 及び同歯学部長が本学で特別講演

本学とキングス・カレッジ・ロンドン歯学部は、本学が創立 100 周年を迎えた 2011 年に学生交流協定を締結しました。それから 8 年が経ち、11 月 19 日、協定書更新のため、同大学の Mike Curtis 歯学部長が本学附属病院を訪問、院内で調印式を行いました。

その中で、本学の川添堯彬理事長・学長と Mike Curtis 歯学部長は固く握手を交わし、今後の両大学の学生交流の発展を誓いました。また、川添理事長・学長から同歯学部長に大阪歯科大学 Honorary Visiting Professor の称号が授与されました。

同歯学部長は同日、本学創立 100 周年記念館で「Host: Microbiome research at King's College London」と題して特別講演をされ、本学教職員及び大学院生 140 人が聴講しました。



学生短期海外研修報告

2019 年には次のとおり学生を海外協定校に派遣しました。

●コロンビア大学歯学部

期 間：2019 年 3 月 9 日～ 19 日
引率者：益野一哉（歯科医学教育開発室 准教授）
参加者：歯学部 5 年生 7 人



●四川大学華西口腔医学院

期 間：2019 年 6 月 30 日～ 7 月 12 日
引率者：廖文（歯科矯正学講座 講師（非常勤））
参加者：歯学部 3 年生 3 人



●北京大学口腔医学院

期 間：2019 年 8 月 17 日～ 23 日
引率者：本田義知（中央歯学研究所 准教授）
参加者：歯学部 4 年生 1 人、3 年生 2 人、2 年生 1 人



●台北医学大学口腔医学院

期 間：2019 年 8 月 17 日～ 23 日
引率者：百田義弘（歯科麻酔学講座 主任教授）
参加者：歯学部 1 年生 3 人



●昆明医科大学口腔医学院

期 間：2019 年 8 月 17 日～ 23 日
引率者：松本尚之（歯科矯正学講座 主任教授）
参加者：歯学部 2 年生 1 人、1 年生 3 人



●シドニー大学歯学部

期 間：2019 年 8 月 17 日～ 26 日
引率者：吉川一志（歯科保存学講座 准教授）
参加者：歯学部 4 年生 1 人、3 年生 4 人、1 年生 1 人



以下、海外研修に参加した学生の感想を要約して掲載します。



●コロンビア大学の学生との交流を通して、世界の基準と私の歯学生としての意識の違いに衝撃を受けました。彼らが学問的知識を治療の技量につなげている点を見習いたいと思いましたし、私にはもっと明確な将来の歯科医師像と、それを叶えるための現実的な行動が必要と認識しました。研修に参加して、行動を起こすことが今の自分を成長させ、活躍できる世界が広がると感じました。また、歯科医師になることだけが人生のゴールではない、歯科医師になって患者さんと出会い、他の歯科医師や歯科衛生士・歯科技工士と仕事をし、家庭をもち、友人を増やし、人として深みのある人生を送りたいと思いました。



●四川大学への研修に参加して最も良かったと思うのは、さまざまな視野をもつ方に出会えたこと。この研修に参加しなければ、決して知ることのない世界を見ることができました。現地で友だちになった学生とはその後も連絡を取り合っており、帰国後も充実した日々を過ごせています。



●北京大学の治療方針と教育に大きな衝撃を受けました。昨年は山西医科大学の研修に参加しましたが、それとは違う驚きがありました。日本との大きな違いは、患者さん自身が診察を受けたい先生を選ぶということ。また患者さん一人ひとりに学生がつき、患者主体、学生主体の治療形態があると感じました。教育面では、VRを用いた実習にとても驚きました。



●台北医学大学への研修で最も印象的だったことは、台湾の学生の英語力の高さです。案内してくれたほぼ全ての学生が日常会話だけでなく、歯科の専門用語を使って説明できるレベルでした。彼らの多くが幼稚園から英語を学んでいるといい、日本との違いを感じました。



●一昨年、昨年の海外研修では分からなかった治療内容が、今回、昆明医科大学の病院見学をした時、コンポジットレジン修復とテンポラリークラウンのプロビジョナルレストレーションを作成していることが分かりました。勉強してきた内容がこうに生かされると、より理解度が深まるように思いました。



●シドニー大学の研修に参加した最大の理由は、クリニックで臨床をしながら勉強できるカリキュラムに興味をもっていたからです。研修を通じて、歯学部生として私たちが学ばなければならないのは、座学だけでなくクリニックで臨床経験を積むことだと実感しました。自分が今できることとして、まず5年次の臨床実習で多くのケースを経験できるように、自ら積極的に取り組んでいこうと決意しました。



●海外研修に参加して、大阪歯科大学が私たち学生に与えている機会を最大限に有効活用すべきだと思いました。海外旅行はいつでもできますが、海外の病院実習でさまざまなものを目見て、耳で聴くことは研修に参加しなければ体験できません。そうした貴重な経験ができ本当に嬉しく思っています。これからも今しかできないことを見極めながら大学生活を送っていきます。



欢迎日本大阪齿科大学研修团来访
2019年8月



協定校からの 学生受入

本学は2019年7月に海外9大学から29人の、12月にはシドニー大学から3人の学生を受け入れました。キャンパスや附属病院内の見学、特別講義の聴講、ウェルカムパーティー、歯科関連企業や本学同窓生が開業する歯科医院への訪問など、海外の学生たちは本学が用意したプログラムに積極的に参加し、大阪歯科大学について、日本の歯科医療について理解を深めた様子でした。

以下に、受入事業のメインプログラムとして7月23日に楠葉キャンパスで開かれたThe 3rd Forum for International Studentsの様をお伝えします。

● The 3rd Forum for International Students



7月23日、第3回「Forum for International Students」(以下「FIS」)を楠葉キャンパス講堂で開きました。今や本学国際交流事業の一大イベントとなったFISは、国際的な学生間交流の更なる発展を期して、2017年度からALL ENGLISHで開催されています。川添堯彬理事長・学長が大会長を、松本尚之国際交流部長が実行委員長を務め、国際交流部が運営。中国留学生や学部生がボランティアスタッフとして関わっています。

今回は海外から、提携校の上海交通大学、南方医科大学、四川大学、北京大学、台北医学大学、山西医科大学及び昆明医科大学の学生計25人と引率教員7人、遵义大学の学生3人と引率教員1人、そして米国コロンビア大学から歯学部生1人が参加。(一行は、7月21日から

27日の日程で本学を訪問。) 本学歯学部1・2年生、「英語」を履修中の医療保健学部生、大学院生、教職員等を合わせて530人が聴講しました。

FISは、歯学部1年の女子学生二人の司会により13時に開幕。冒頭、川添理事長・学長は、今回参加のアジア8大学の関係各位の協力で謝辞を述べた上で、「互いに意見や情報を交換し、国際レベルで他大学のことを学んでほしい。今日を機に、皆さんの将来的なキャリア選択の幅が広がることを確信しています」と英語で挨拶しました。

続く講演では、本学大学院歯学研究科の中国留学生・趙建鑫さん、韓嘯宇さん、尹徳栄さんを含む15人が自らの研究や大学生活、自学に関して、約10分間プレゼンテーションしました。中には「人

の目が一杯あって緊張し、練習より上手くいなかった」とこぼす発表者もいましたが、各人が自校代表の誇りをもって聴衆に語りかける姿が印象的でした。

最後に、川添理事長・学長から発表者一人ひとりに表彰状が授与され、FISは幕を閉じました。

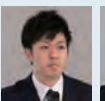
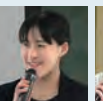
「アジアの学生の英語が上手だった」「(1年なので)専門用語が難しかった」「先輩の堂々とした発表がよかった」「海外の人や留学経験者の発表を聴いて自分もそういうことをやってみたいと思った」「海外研修で行きたい大学が見つかった」。終了後はさまざまな感想が聞かれ、参加者の多くが何かを得て、会場を後にした様子でした。

▼第3回FISの講演者は次のとおりです(講演順)。

- ◆大阪歯科大学大学院歯学研究科歯科矯正学専攻3年・趙建鑫
- ◆上海交通大学口腔医学院・鄭夢婷
- ◆大阪歯科大学歯学部5年・城山佳洋
- ◆南方医科大学口腔医学院・張柏炎
- ◆大阪歯科大学医療保健学部2年・山本真珠
- ◆四川大学華西口腔医学院・楊陽
- ◆大阪歯科大学歯学部5年・中村綾
- ◆コロンビア大学歯学部・Gabriel Alberto Garcia

- ◆北京大学口腔医学院・趙映
- ◆大阪歯科大学大学院歯学研究科歯科保存学専攻3年・韓嘯宇
- ◆台北医学大学口腔医学院・游榮茹
- ◆大阪歯科大学大学院歯学研究科歯科保存学専攻2年・奥村瑛恵子
- ◆山西医科大学口腔医学院・崔晋豪
- ◆昆明医科大学口腔医学院・伍玉
- ◆大阪歯科大学大学院歯学研究科欠損歯列補綴咬合学専攻3年・尹徳栄

大 学

2月11日	教授定年退職記念講演会	
2月16日・23日	第26回大阪歯科大学公開講座(枚方講座)	
2月26日	2018年度共用試験歯学系CBT	
3月17日	2018年度共用試験歯学系OSCE	
3月17日、5月26日、7月14日 8月13日・25日、9月23日	医療保健学部オープンキャンパス	P22
4月～9月	ファカルティ・ディベロップメント(FD)セミナー(第1回～第11回)	P22
4月26日	学生研究発表会	
	       	
5月18日、12月14日	第3回、第4回医療保健学部生涯学習セミナー	
6月14日	高大連携 一香里ヌヴェール学院高校生来学、細菌学実習を体験	
6月29日	歯学部父兄会・共済会総会	
7月17日	研究チャレンジ発表会	P25
7月21日、8月19日、9月29日	歯学部オープンキャンパス	P26
7月26日	第2回わくわくキッズセミナー@まきの	P26
8月24日・31日	第27回大阪歯科大学公開講座(天満橋講座)	P27
8月31日	枚方産学公連携プラットフォーム主催市民公開講座	P27
10月4日	医療保健学部宣誓式	P28
10月26日	こども大学探検隊	P28
10月26日・27日	第51回大学祭 一楠葉祭 ※テーマ「猪突猛進」、 体育祭は雨天のため中止	  
10月28日	人権啓発講演会	P29
11月7日	解剖体慰霊祭・御遺骨返還式	
11月9日	ひらかた市民大学「超高齢化時代のアンチエイジング・サイエンス」	
11月15日	実験動物慰霊祭	
11月29日	楠葉キャンパス防災・防火訓練	P30
12月5日・14日	共用試験2019歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験トライアル	
12月27日	全学教職員忘年慰労会	P30

病 院

1月17日	臨床研修管理運営委員会(全体会議)	P31
2月5日・7日、4月1日	医薬品安全管理講習会	
2月9日	第16回病診連携講演会・懇談会	
3月7日・13日、4月1日・16日、 5月14日、9月26日、11月26日	院内感染対策講習会	P31
3月28日・29日、4月3日	医療機器安全管理講習会	P32
4月1日	歯学部第5学年登院式、歯科医師臨床研修 研修歯科医登院式	P32
4月3日	研修歯科医に対する薬物乱用防止講習会	P33
毎月1回(4月12日)	健康セミナー(第18回～第29回) 第21回健康セミナー	P33
4月25日	大阪歯科大学臨床准教授等辞令交付式及び第1回研修管理委員会	P33
5月13日	医療保健学部第3学年登院式	P34
4月2日・3日・17日、8月6日	医療安全講習会	P34
8月14日、 9月17日、10月22日		
11月2日	歯科衛生士研修センター公開セミナー	

医療保健学部オープンキャンパス2019

医療保健学部では2019年、オープンキャンパスを牧野キャンパスで5回、天満橋キャンパス（附属病院）で1回の計6回実施しました。参加者は前年度比較で200人以上増加（延べ860人、うち高校生491人）となり、学部開設以来最多数を更新しました。

牧野キャンパスでのオープンキャンパスでは口腔保健学科・口腔工学科の学科説明や、歯科衛生士・歯科技工士の職業説明はもとより、体験実習、入試対策講座、学食体験、個別相談など毎回さまざまなプログラムを用意。参加した高校生たちは本学教員や在学生のアドバイスを受けながら、口腔保健学科の体験実習では正しいブラッシングや、実習用ファントムを実際に使用した口腔内洗浄、超音波スケーリング等の見学を行い、口腔工学科では歯科材料の種類・特徴・用途を解説後、歯科材料を使ってオリジナルグッズを作成しました。

天満橋キャンパス（附属病院）でのオープンキャンパスには137人が来場。義歯等製作する中央技工室や各診療科の様子など、普段見ることのできない院内を見学しました。終了後は「設備がそろっていてすごかった」「ここで絶対実習したい」と、満足の声が多数聞かれました。



2019年度FDセミナー

第1回

日時：4月22日（月）17:00～18:00

場所：創立100周年記念館大講義室

演題：「2019年度歯学系CBT問題公募要領と問題作成のポイント」

講師：前田博史先生（口腔治療学講座 主任教授）

梅田誠先生（歯周病学講座 主任教授）

出席者：160人

内容：2019年度版CBT問題作成の注意事項について説明。あわせて各講座へ問題作成を依頼。



第2回

日時：5月20日（月）17:00～18:30

場所：創立100周年記念館大講義室 / 楠葉学舎大会議室

演題：「新教育研究棟における兵庫医科大学の新たな教育の取組」

講師：鈴木敬一郎先生（兵庫医科大学副学長・医療人育成センター長）

出席者：（天満橋）133人 / （楠葉）40人

内容：兵庫医科大学において実践している教育の具体例について説明があった。受身では国家試験に通用しないため、自発性を高める「しかけ」を多く行っている。例えば、チーム基盤型学習法・通称TBLを教育手法として積極的に取り入れている。クラスを6人前後の小人数グループに分け、課題に取り組ませることによって、学生の能動学習力、チームワークスキルを高めている。予習→準備確認試験→応用課題→TBL試験の4手順を3日間かけて行い、学生の学ぶ力を高めている。重要なポイントは各人に必ず予習をさせ、学生同士で評価を行わせることである。評価の際は、談合や、全員に同一点数を付けることを禁止している。出席については顔認証システムを用いている。出席を厳格に管理することで、学生の体調不良・メンタル不調の早期発見や、保護者から理解を得ることができている。英語力の向上にも力を入れている。また、第1～4学年の講義は全て収録され、公欠等で講義に出席できなかった学生は講義後閲覧することができる。「学生に不公平感を与えず、国家試験に向けて、能動的に取り組める環境づくりが今後必要である」と締めくくられた。



第3回

日時：5月24日（金）17:00～18:30

場所：創立100周年記念館大講義室

演題：「CBT問題作成について」

講師：須田直人先生（明海大学歯学部教授）

出席者：138人

内容：CBT問題作成のポイントについて、画像や「作問のねらい」の重要性が実例を交えて説明された。



第4回

日時：5月25日（土）9:30～16:00

場所：楠葉学舎大会義室

演題：「CBT問題作成について（ワークショップ）」

講師：須田直人先生（明海大学歯学部教授）

森田学先生（岡山大学医歯薬学総合研究科教授）

出席者：33人

内容：CBT問題作成のポイントについて、実例を交えて説明された。また、実際に作成された問題をもとにグループごとにブラッシュアップを行った。



第5回

日時：5月27日（月）17:00～18:30

演題：「スマホ漬け」が招く若者の危機

講師：石川結貴先生（作家・ジャーナリスト）

内容：6年前に流行が爆発したスマホは今や生活必需品となり、利用時間が長くなっている。その理由として、利便性や変化した現代の人間関係、各社のビジネス戦略により「やめにくい仕組み」ができてきていることが大きい。そしてそこにはさまざまな危険が潜んでいる。無料アプリには、「もったいない」という気持ちを利用し、やめにくくさせる。さらには学生が犯罪に巻き込まれることも少なくない。SNSに投稿する写真には個人について特定される危険性があり、それを

場所：創立100周年記念館大講義室

出席者：168人

きっかけとして炎上し、個人攻撃を受けるリスクも考えなければならない。そのほか、スマホの利用時間に応じて学力、特に読解力が低下しているとの指摘もある。これからのネット社会においては、利用する上での問題点や危険性を自分で考え、判断できる力が重要だ。学生に教える側もそれらについて知っておく必要がある。「小学校からスマホ」世代がこれからの主流になる。この流れに対してどのように対応するかが今後問われる。

第6回

日時：6月14日（金）17:00～18:30

場所：創立100周年記念館大講義室

演題：「アセスメント・ポリシー作成の必要性、学修成果の測定を客観的に行うために」

講師：田中正弘先生（筑波大学大学研究センター准教授）

出席者：144人

内容：これまで日本の大学では、成績評価が教員の裁量に委ねられていたため、評価に客観性がなく、不統一で曖昧であった。今後は成績評価を、誰が行っても同様の結果となるようシステム化する必要がある。そのためにはガイドラインや点検（調査）機関を設定し、全教員（及び学生）へ周知し、遵守する必要がある。



第7回

- 枚方学術プラットフォーム主催 共同FD・SD事業 -

日時：7月5日（金）15:00～16:30

場所：楠葉学舎第5大講義室

演題：「職場が生きて、人が育つ学びの支援：経験学習の観点から」

講師：松尾睦先生（北海道大学大学院経済学研究院教授）

出席者：76人

内容：仕事における成長の三つの源として、「仕事経験」「他者からの指導」「研修」がある。これらはおよそ7:2:1の割合となる。この大きな源である、経験から学びを得ることを経験学習と呼ぶ。そのプロセスを理論化し



たものがコルブの経験学習モデルである。ここでは経験を振り返ること（リフレクション）がポイントとなる。また、変革するためには新しいことを取り入れるだけではなく、既存のもの（仕事のやり方等）を捨てる学習も重要である（＝アンラーニング）。人材育成やOJTにおいても経験学習は活用でき、「リフレクション」「エンジョイメント」「ストレッチ」

を起点にして指導することが望ましい。日本人は失敗ばかりに目がいき、成功を振り返らないことが多いので、ポジティブにフィードバックすると良い。問題ある指導者の大きな特徴として、目標のストレッチが過不足になることがあり、注意を要する。

第8回

日 時：7月30日（火）17:00～18:30

場 所：創立100周年記念館大講義室

演 題：「学生教育指導や成績向上に向けて今どきの学生に接する際に心理学的に気を付けるべきことについて」

講 師：森岡正芳 先生（立命館大学人間科学研究科 教授）

出席者：170人

内 容：大学生は自己形成発達途上の存在である。適切に支えなければ、自己形成に不具合が生じ、自傷行為や引きこもりにつながりかねない。多様化する学生の問題に向きあうためには、職員、家族と連携して対応を行う必要がある。

自己は、次の三つの感覚によって、一貫性が成り立っている。「理解（予測）可能という感覚」「処理可能という感覚」「有意義であるという感覚」。これらの感覚を意識し、ユーモアを交えながら、対応を行っていくことが必要である。

説明後は話し手、聞き手1、聞き手2に担当を分けた、3人1組のグループを作り、各人の抱える問題について、事例を交えて話しあった。



第9回

日 時：8月27日（火）17:00～18:30

場 所：創立100周年記念館大講義室

演 題：「目標達成のためのメンタルトレーニング」

講 師：白石豊 先生（朝日大学医療保健学部 教授）

出席者：156人

内 容：スポーツの試合や国家試験等のプレッシャーがかかるときに実力をフルに発揮するためには、集中力等メンタルにかかわる強さが重要である。その極限に「ゾーン」というものがある。この状態に入るためには、肉体や技術だけでなく、メンタルのトレーニングが欠かせない。自身のメンタルスキルをチェックするうえで、八つの項目についてセルフチェックをしていく。大抵一つや二つは低いものがあるので、それらに対応したプログラムを用いて克服していく。また、実際にリラックス、集中、イメージリハーサルを短時間でできる手法を参加者全員で実践した。密教の一つであるマンドラを用いたマンドラートという手法もあり、これは自分を知り、思考を広く深め、目標の実現のサポートとして使うことができる。新体操のトップ選手や、メジャーリーグの大谷翔平選手が高校生の頃に実際に使用して目標の達成に影響を与えており、非常に役に立つツールである。



第10回

- 枚方学術プラットフォーム主催 FD・SD 合同事業 -

日 時：9月27日（金）15:30～17:00

場 所：楠葉学舎第5大講義室

演 題：「データサイエンス教育について〈臨床歯科医学を例として〉」

講 師：今井 弘一 先生（副学長）

出席者：42人

内 容：医療情報教育では教育目標の優先度が時代とともに大きく変遷している。現在の教育目標は、医療情報の倫理を十分理解でき、患者のセキュリティ情報の重要性を認識・尊重し、保護する必要性を理解できること。そして、他科との情報連携ができ、医療情報ネットワークの一員として歯科医が活躍できることが挙げられる。こうした目標を達成するためには、医療情報ネットワーク社会で患者プライバシーの重要性・危険性を認識させるとともに、それを保護できる知識と技術を会得させることが重要になる。



第11回

日 時：9月30日（月）17：00～18：30

場 所：創立100周年記念館大講義室

演 題：「教育の質向上につながるティーチング・ポートフォリオ」

講 師：北野健一 先生（大阪府立大学工業高等専門学校）

出席者：160人

内 容：昨今、優れた教育に対して評価をするという大学が増えているが、そもそも優れた教育とは何をもって言えるのか不明瞭である。そのため教育の評価は非常に難しい。シラバスや授業評価は教育活動の一部しか明らかにできないが、そのすべてを明らかにする上で役に立つのが「ティーチング・ポートフォリオ」である。これは自らの教育活動について振り返り、エビデンスによって裏付けをした厳選された記録である。構造としては、教育の責任、理念、方法、成果、今後の目標等であり、これを作成するプロセスそのものが自らの教育改善となる。作成には3日間かけてメンターとともに進行。メンターは指導者ではなく伴走者のようなものであり、立場の上下は関係ないが、非常に重要である。最後にミニワークを行い、ティーチング・ポートフォリオを作成する前段階を体験した。



7/17
(水)

2019年度研究チャレンジ発表会



2019年度研究チャレンジ発表会が7月17日、楠葉キャンパスで開かれ、本学歯学部3年生21グループが自らの研究テーマ・計画を発表しました。

「研究チャレンジ」は、2年次に成績上位の学生の希望者が参加することのできる第3学年の授業科目。2019年度は前年度より17人多い53人が履修しています。4月からグループごとに分かれて（5人の学生は個人でチャレンジ）、ファカルティアドバイザー（FA）の教員の指導のもと研究テーマを設定することから始め、検討を重ねながら研究方法・計画を立案。授業最終日に公開でプレゼンテーションしました。

各グループの発表時間は、質疑応答を含め約10分。メイクが顔の細菌に与える影響、AIの歯科への応用、精神科病院における口腔ケアの疫学調査、誰もが簡単にできる舌苔ケアの確立、歯学教育や患者さん教育に有用な標本の作製、アーチェリーとかみ合わせの関係など。先輩の研究を引き継ぎさらに発展させたものや、身近な生活に役立つ研究から、教員

もすぐには理解しかねるという専門的な研究まで、若い感性と柔軟な頭から生まれたユニークなアイデアが次々披露されました。

発表後は「研究が大変だった分（みんなに）聞いてほしい気持ちもあったので、今日はいいい機会だった」「皆で協力して研究、発表ができてよかった」という感想のほか、FAの先生に「いい発表でよかったね」と声をかけられ笑顔をみせる学生もいました。

「今日の発表で終わりではなく、これからも研究を継続して、日本の歯科界を変えてください」と学生部長の田中昌博教授。三宅達郎・学年指導教授は、「今日は計画の発表であつたけれど、研究は結果が出てきたらもう一つ面白くなる。その結果が世の中に应用できることになったらもっと面白くなる。そこまで味わってほしい」と期待を寄せていました。

歯学部オープンキャンパス2019

歯学部では2019年度オープンキャンパスを7月21日、8月19日、9月29日の計3回実施しました。7月と9月は楠葉キャンパスで、8月は天満橋キャンパスで開催、延べ474人（うち、高校生等238人）が来場しました。

各回とも川添堯彬理事長・学長の挨拶から始まり、大学紹介、入試概要の説明、個別相談の時間が設けられました。学生講演、入試対策講座、学生スタッフによるキャンパスツアーなども用意され、初回は体験実習、2回目は附属病院見学第3回は教授による模擬講義と一回限りの内容も盛り込まれました。

附属病院で開催された第2回は、駿台教育研究所の石原賢一氏による講演と病院見学がメインプログラムでした。グループに分かれ少人数での院内見学は、大学病院における歯科医療の現場を肌で感じられる貴重な機会。普段は立ち入ることのできない病院内部に身を置き、高校生たちは見るもの全てに興味を尽きない様子で、じっくり目を凝らしつつ院内を巡っていました。

終了後のアンケートでは「勉強への気合いがはいった」「絶対に大阪歯科大学に入学したいです」といった感想のほか、「本学は未来志向で歯学教育・研究・臨床に取り組んでいる」という川添理事長・学長の言葉に、少なくない共感の声が寄せられました。そして、今年もボランティアスタッフとしてオープンキャンパスの運営を支えた在学生の対応は好感を与え、高校生たちの歯科医師への憧れをさらに膨らませたようでした。



7/26
(金)

第2回わくわくキッズセミナー@まきの

7月26日、牧野キャンパスにおいて「第2回わくわくキッズセミナー@まきの」を開催しました。このセミナーは、枚方市内の小学5、6年生を対象に、歯についての講義や体験実習を通して、歯科医療や口腔衛生の重要性について理解を深めてもらうために実施しています。

当日は、最初に歯にまつわるクイズを出題し、皆さん元気

いっぱいに答えてくれました。その後、医療保健学部学生と歯の正しい磨き方の練習をし、歯科技工士が使う器具を使って、ガラスコップへの模様づけと、自分の指の“かた”をとって指ボールペンを完成させました。ボランティアで参加してくれた本学学生や先生にとっても、とても楽しいセミナーとなりました。



8/24
(土)8/31
(土)

第27回大阪歯科大学公開講座(天満橋講座)

8月24日と31日に創立100周年記念館において第27回大阪歯科大学公開講座天満橋講座を開催しました。今年度のメインテーマは『アンチエイジング(抗加齢)医学・歯学—長生きする為のひけつ—』。24日は201人、31日は199人が聴講し、過去7年の天満橋講座の中で最多の延べ受講者数となりました。



24日は同志社大学生命医科学部・アンチエイジングリサーチセンター教授であり、抗加齢医学研究の第一人者である米井嘉一先生に『歯科・口腔領域のアンチエイジング：歯から全身へ、全身から歯へ』をテーマにご講演いただきました。老化とは何かということから、アンチエイジングドッグ等を受け生活習慣等を改善することで若返りを実現した話まで、ご自身の研究や体験を交えてお話しくださいました。大きな筋肉を動かすと効果的という説明の中で、米井先生が壇上で突然スクワットを始め、受講者から笑いが起こる場面もありました。若々しくエネルギッシュな米井先生の言葉は説得力があり、受講者アンケートでも「大変分かりやすく実際に実行しやすいと思いました。今日の昼からしっかり噛むことを実行します」「あらためて噛むことの大切さを知って良かった！スクワットを頑張ります！」と決意表明をされている方が多く、アンチエイジングへのモチベーションアップにつながったようでした。



同志社大学生命医科学部・アンチエイジングリサーチセンター教授
米井嘉一先生

31日は、本学歯学部内科学講座主任教授で医科歯科のダブルライセンスをもつ志水秀郎先生が『超高齢化時代のアンチエイジング・サイエンス』というテーマで講演しました。最初に「抗加齢医学の目標は長生きをすることではなく、健康寿命を延ばすこと」であると述べ、認知症の危険因子や予防、骨粗鬆症、高血圧、薬の選択といった多岐にわたるトピックスについて解説しました。「人の寿命は15%が遺伝、85%が生活環境によって左右されるので、普段の生活習慣が大事」「認知症対策には、読書や脳トレなど、頭を使うことが大切」等々、生活習慣を見直すきっかけになるような話も多くありました。講演はクイズを交え受講者の理解度を確認しながら進められ、終了後のアンケートでは「今まで参加した中で最も素晴らしい講演でした」「笑いを取り入れながら、分かりやすい話し方と楽しい映像で、難解な話もすんなり頭に入ってきました」などの感想が多数寄せられました。



歯学部内科学講座主任教授 志水秀郎先生

8/31
(土)

枚方産学公連携プラットフォーム主催市民公開講座

8月31日、本学楠葉キャンパス講堂において、枚方産学公連携プラットフォーム主催の未病・予防対策事業「認知症予防を考える市民公開講座 - 認知症の予防と治療のポイント -」を開催しました。

講師には、認知症研究の権威である九州大学名誉教授・医学博士の藤野武彦先生をお迎えし、認知症の改善・予防の鍵であるプラズマローゲンの最新の研究成果と予防及び治療について、わかりやすくご講演いただきました。また、この講座の進行役である座長は、本学の川添堯彬理事長・学長が務めました。

藤野先生は、永年の研究により、いわゆる脳疲労が認知症だけでなく、うつ病やガンなどの原因となることをつぎとめられました。そして、脳疲労の起こる原因が脳神経細胞などに含まれる物質「プラズマローゲン」の低下であることを発見され、認知症の予防及び改善のために、ホタテ由来の「プラズマローゲン」をサプリメントにして経口する方法が有効であることを詳細なデータをもとに示されました。さらに、会場内での「プラズマローゲン」に関する動画では、実際にサプリメントを経口した認知症の患者さんの劇的な症状改善

が紹介され、受講者から驚きの声が上がりました。講演終了後は質問も多くあり、当初の終了時間を大幅に超えての市民公開講座となりました。

当日の受講者数は200人を超え、受講者アンケートの中では、「身近な問題で非常に良かった」「認知症に対する不安がなくなり励まされた。前向きな姿勢で生きていけそう」「講演内容がわかりやすく認知症に対する理解が大いに深まった」などの意見が寄せられたいへん好評でした。

65歳以上の高齢者の5人に1人が罹ると予測されている認知症。藤野先生による研究の益々の発展に市民の大きな期待が高まっています。



九州大学名誉教授 藤野武彦 先生

10/4
(金)

2019年度 医療保健学部「宣誓式」 - 口腔保健学科第2学年

10月4日、牧野キャンパスにおいて医療保健学部「宣誓式」を執り行いました。口腔保健学科2年68名全員で宣誓し、外部での臨地実習に向けて、今後の抱負を述べました。いよいよ次週から八尾市の小学校での口腔衛生訪問講座実習が始まります。



10/26
(土)

こども大学探検隊が楠葉キャンパス訪問

10月26日、枚方市内の小学生24人が2019年度こども大学探検隊として楠葉キャンパスを訪れました。「こども大学探検隊」は、学園都市ひらかた推進協議会（枚方市と市内の5大学で構成）の主催事業で、こどもたちの将来への夢

を育むきっかけをつくる取り組みとして2004年度から実施されています。本学では近年、大学祭に合わせて開催。化学教室の藤原眞一教授がコーディネーターとなり、有志の学部生が運営しています。



今年は「歯に関するミニ講義」「指の模型作り」「大道芸人パルーンパフォーマンス」で大阪歯科大学を探索する趣向。川添堯彬理事長・学長の挨拶に続いて始まったミニ講義では、歯学部3年の竹花紗矢さんが講師を務めました。「乳歯は全部で何本あると思う？永久歯は？」「人間と同じで1回だけ歯が生え変わる生き物は？」など、クイズ形式で講義は進行。竹花さんは歯と骨の類似点を説明した上で、「骨は再生するけれど、人の歯は折れたり虫歯で削ると元に戻らない。自分の歯を大切に、頑張って歯磨きしてね」と優しく呼びかけました。



実習では、隊員全員がエプロンを着け、歯型をとる材料で指の模型作りを体験。指導役の学生と仲良く話しながら作業を進めました。中には、本学の入試について「どの科目を頑張ればいいのか」と質問する男の子も。3歳から歯医者さんになるという夢を持ち続けている女の子(11)は、模型作りを心から楽しんでいる様子でした。完成作を見て、ある男の子(10)は「ちょっとホラーけどすごい。手全体の模型もつくってみたい」。「気持ち悪い」と感想を漏らした女の子のお母さんは「お家に飾ろう」と喜んでいました。



「指の模型作りも、クイズも、パフォーマンスもすべて楽しかった」「また来年も来たいです！」探検終了後は、満足の声とともに、指導後の学生へも「歯医者さんになるために頑張ってください」「評判のいい歯医者さんになってください」と温かいメッセージが寄せられました。



10/28
(月)

2019年度人権啓発講演会

10月28日午後4時30分から、創立100周年記念館で2019年度人権啓発講演会を開催し、73人が参加しました。今回は「人権って何？：その過去、現在、未来」をテーマに人権教育室の樫則章教授が講師を務めました。

近年の講演会ではセクシャルハラスメント、パワーハラスメント等の近々の人権課題を取り上げてきましたが、今回は原点である「人権」について、その起源(生い立ち)から発展(成長の過程)の変遷をあらためて学習し、未来の新たな人権を考えました。

参加者からは「人権の成り立ちをたいへん良く理解でき、その歴史的背景についてとても興味が持てた」「人権について漠然とわかっている気になっていたが、基本的なことを全く理解していないことに気づき、学び直す機会となった」などの感想が寄せられ、人権概念の根幹をしっかりと認識する機会となりました。

また、12月11日には楠葉キャンパスで2019年度人権標語表



彰式を行いました。今年度は学生・教職員合わせて37件の応募があり、人権啓発推進委員会による選考の結果、最優秀賞は過去に入賞歴のある三井紗楽さんが「ありがとう その

一言で 広がる笑顔」で受賞。川添堯彬学長から受賞者3人に表彰状と記念品が贈呈されました。入選作品は次のとおりです。

- ◆最優秀賞 「ありがとう その一言で 広がる笑顔」 (歯学部4年・三井紗楽)
- ◆優秀賞 「一人じゃない 支える仲間 そばにいる」 (歯学部1年・井口貴絵)
- ◆優秀賞 「可愛いね 褒めたつもりが セクハラに」 (歯学部2年・宮脇正人)



11/29
(金)

2019年度楠葉キャンパス防災・防火訓練



11月29日、冬の寒さが訪れ始める中、楠葉キャンパスにおいて歯学部3年生129人が参加し、地震や火災を想定した防災・防火訓練を実施しました。

内容は、防災訓練として「南海沖にて震度6強の地震が発生した」との設定で、地震発生時の身の回りの安全確保や、学生の安否と構内の安全確認をするとともに、防災センターでは消防署への通報、施設点検を行いました。

続く消防訓練では「食堂で出火した」状況を想定し、教職員で組織する自衛消防隊を中心に、学生の避難誘導などを行い、万一火災に遭遇した際も落ち着いて対応できるように訓練しました。

また、今年度の訓練では「『安否確認システム ANPIC』を使った安否確認」と、消防署員の指導による「負傷者搬送訓練」という二つの試みを取り入れました。ANPICは災害発生時

にスマホや携帯から大学へ自分の安否を報告するもので、本学では2018年から導入しています。これを初めて訓練に用い、地震発生後、参加学生に安否確認のメールを一斉送信し、各学生から回答してもらうことで、短時間で安否情報が把握できることを確認しました。

負傷者搬送訓練は「担架などの道具がないときにケガ人を運ぶ方法」を学ぶ目的で取り入れたものです。消防署の方に直接体を支える方法や、毛布を使う方法を指導いただいた後、学生と教職員の有志でケガ人役や救助役となって、実際に試してもらいました。教わったとおりにやると、簡単に持ち上げて運ぶことができ、ほかの参加者から歓声が上がっていました。

このほか、恒例の、学生による消火器、屋内消火栓を使った初期消火訓練を行い、自衛消防隊長の川添堯彬学長の訓話で訓練は締めくくられました。

12/27
(金)

2019年全学教職員忘年慰労会

12月27日、2019年の仕事納めとなったこの日、毎年恒例の教職員忘年慰労会を附属病院で行いました。176人の教職員が出席した今年の慰労会は川添堯彬理事長・学長の挨拶で開会。この中で、川添理事長・学長は1年を振り返り、研究面で「大きな進展があった」と述べ、大学院入学者(留学生)の増加や、大阪国際先制医療センターの開設などを成果として挙げました。

下村錢三郎常務理事による乾杯の発声後、歓談の時間へと移り、美味しい料理に舌鼓を打ちつつ、参加者は互いに1年の労をねぎらい、会話に花を咲かせました。

会の後半には、お楽しみ抽選会がありました。今年は大学で用意した景品のほかに、プラザフォーティーンからワイン等を差し入れていただき、当選者は倍増することに。理事長賞の旅行券は医療保健学部の樋口鎮央講師が、学長賞のギフトカードは薬理学講座の野崎中成主任教授がそれぞれ射止めました。年の瀬に訪れた幸運に、当選者たちは皆にこやかな笑顔を浮かべていました。



1/17
(木)

2018年度臨床研修管理運営委員会(全体会議)

日時：1月17日(木) 17:30
場所：附属病院臨床講義室

出席者：(管理型施設) 12人、
(協力型施設) 36施設、委任状 57施設

この委員会の設置は、歯科医師臨床研修における管理型施設指定の要件であり、協力型臨床研修施設の研修実施責任者が構成員となっています。報告事項として、協力型施設の指定要件の確認、プログラム責任者からの依頼、群内マッチングのスケジュール等がありました。協議事項は、2019年度歯科医師臨床研修マッチング結果及び臨床研修費等補助金分配金等についてであり、協議の結果承認されました。そのほか、研修歯科医に対するアンケート調査結果に基づいて毎年実施している協力型施設へのフィードバックでは、高頻度疾患に関する経験状況や症例数が年々向上するなど、効果を発揮しています。



3/7
(木)

2018年度院内感染対策講習会

日時：3月7日(木) 16:00～17:00
場所：創立100周年記念館大講義室
出席者：116人

演題：「歯科診療における院内感染対策と
義歯修理における消毒について」
講師：鳥井克典 先生（有歯補綴咬合学講座 講師）
内藤徹氏（歯科技工部 主任）

当院の義歯修理までの流れとして、患者の口腔内から取り出した義歯（印象体）は、各診療室において水洗及び消毒液への浸漬を必ず施してから、技工室に持ち運ぶことが院内感染防止マニュアルで定められています。血液等が付着したまま持ち運ばれることがないようにするためです。

今回の講習会では、義歯修理依頼に係る消毒を各診療室に

おいてどのくらい遵守しているか報告した上で、遵守してもらうためには定期的に調査を実施し、ポスターによる掲示や院内感染防止委員会で結果をフィードバックすることが大切であるとの話がありました。あわせて、診療室内でのマスク・グローブの着用、注射針及びスケーラー等鋭利な器具を適切に取り扱うよう、啓発されました。



11/26
(火)

2019年度院内感染対策講習会

日時：11月26日(火) 16:00～17:00
場所：創立100周年記念館大講義室
出席者：教職員 103人 / 歯学部 5年生 142人 /
医療保健学部生 49人

演題：「針刺し切創対策について」
講師：谷本啓彰 先生（歯科保存学講座 講師）

針刺し切創については、マニュアル化等の対策をし注意喚起を行っていますが、未だ撲滅できていません。歯科の診療

室は針刺し事故がいつでも起こりうる環境であるため、常に細心の注意を払わなければならないことは周知の事実です。

附属病院

使用済み針の廃棄はルールに従い、使用した人はリキャップせずに針ボックスに捨てる。不幸にも針刺し切創が発生した際は周囲に応援を要請し、スピーディーかつ冷静な判断が大切であるとの説明がありました。また、発生したときは必ず報告することも強調されました。

最後に確認テストとして5択の選択問題が1題出され、正解率は92%でした。

3/28
(木)3/29
(金)

2018年度医療機器安全管理講習会

日 時：3月28日（木）16：15～17：00
3月29日（金）16：15～17：00（DVD 講習）

場 所：創立100周年記念館大講義室

出席者：（28日）96名 / （29日）66名

演 題：「補綴装置作製におけるCAD/CAM 機器、
材料の取り扱いについて」

講 師：浦田俊太郎氏
（株式会社ジーシー開発企画部材料企画課 課長）

先進医療であったCAD/CAM が保険適用となり身近な治療となったことを受けて、CAD/CAM 機器や材料について、株式会社ジーシーの浦田俊太郎氏に講演いただきました。

セラマートは高い審美性を有し、低い再製率、高強度の優れた物性、幅広い加工機に対応するという特徴と、保険算定条件、歯科診療報酬点数について説明がありました。また、支台歯形成のポイントについて歯科技工士目線での詳細な解説があり、安全使用のための要点も説明されました。

4/1
(月)

歯学部第5学年登院式

日 時：4月1日（月）13：00
場 所：創立100周年記念館大講義室

川添堯彬理事長・学長の挨拶の後、中嶋正博病院長が臨床実習生の心構え等について述べました。第5学年の139人は心新たに、これから天満橋学舎において臨床を体験し、歯科医学生としての知識を一層深め学業の集大成を行うことになります。

4/1
(月)

歯科医師臨床研修 研修歯科医登院式

日 時：4月1日（月）10：00
場 所：附属病院臨床講義室

第112回歯科医師国家試験に合格し研修歯科医となった98人に対し、川添堯彬理事長・学長は祝辞を述べたうえで、患者さんとの信頼関係を築くのはマスク・アイプロテクトを外して、表情が分かる状態でコミュニケーションをとることが重要と説きました。中嶋正博病院長は、研修歯科医就業規則の遵守、歯科医師臨床研修の目標、医療人としての「身なりと白衣がよく似合う」医者のイメージ、身だしなみの大切さを訴えました。



4/3
(水)

研修歯科医に対する薬物乱用防止講習会

日時：4月3日（水）9：00～10：30

場所：附属病院臨床講義室

演題：「薬物に対する正しい知識」

講師：大地輝倫氏（大阪府東警察署刑事課 警部補）

大麻（ゲートウェイドラッグ）の誘惑は恐ろしく、違法薬物の入口、そして犯罪の入口となります。加えて、ネット、SNSで違法薬物の誘惑も身近なものになっています。一度使用してしまうと断ち切るのは困難なため、誘惑に負けない対応、近寄らないことが大切。また、違法薬物の運び屋とされる事例もあり、国によっては重罪となることもあるので、うっかりでも不審な荷物は預からないよう注意すること。新聞、ネット等で社会情勢について情報収集し自身の安全の確保に努めるよう説かれました。



4/12
(金)

第21回健康セミナー

4月12日、2019年度第1回健康セミナーが開かれ、附属病院歯内治療科の西川郁夫診療主任が「こんなに進んでいる“歯の根の治療”」と題してお話しました。

“歯の根”（歯根）とは、歯ぐき（歯肉）に覆われたあごの骨に埋まっている部分のこと。“歯の根の治療”（歯内治療）は、細菌に感染した歯髄を取り除くなどして根（根管）の中を掃除することをいいます。目には見えないけれど、歯の大切な基礎工事ともいわれる治療で、虫歯の代表的な治療法の一つです。①歯に穴を開ける、②根の中をきれいにする、③根の中に薬を詰める、④仮のフタをする、までが根の治療にあたります。その後、歯に土台を作り、冠を被せて治療完了です。

根の数や長さ、太さなどは人によってマチマチ。曲がっている根も多く、「根の治療は根気のいる仕事」と西川先生。治療費用やニッケルチタンファイル等最新器械を用いた治療法なども紹介し、「根の治療は時間がかかるが、歯を残すた



めには避けて通れない。しっかり治療をすれば歯の寿命は延びます」と締めくくりました。

講演後は、参加者から、「初めて歯内治療という言葉を知った」という素朴な感想から、「ガッタパーチャとMTAの違いは？」という専門的な質問まで、いろいろ寄せられました。「治療中の自分の歯の状態が分かった。先生の話聴いて救われた感じがした」「もう少し早く聴ければなお良かった」との声も聞かれました。

4/25
(木)

大阪歯科大学臨床准教授等辞令交付式及び第1回研修管理委員会

【臨床准教授等辞令交付式】4月25日（木）17：30

研修歯科医受入協力型施設 49 施設

臨床准教授 2 名、臨床講師 76 名

川添堯彬理事長・学長から、出席の臨床准教授及び臨床講師に対して辞令を交付し、当院との地域包括及び地域連携医療への協力を依頼しました。また、専門医制度への関心度が増加しているなど、歯科会の現状も報告し、研修歯科医の研修指導、連携に対し謝辞がありました。

※本学では、当該年度に研修歯科医を受け入れた協力型臨床研修施設の指導歯科医に称号を付与しています。資格条件は、次のとおり。



臨床准教授：①臨床経験 15 年以上の者
②原則として研修施設の開設者又は管理者

③過去に相当数の研修歯科医を受け入れた実績（平均 2 名以上／年度）がある。
④特に本学に格段の貢献ができた者
（研修管理委員会月例会に協力型施設代表委員として毎月出席するなど）。

臨床講師：臨床経験 5 年以上の者

【第1回研修管理委員会】18:10

全協力型臨床研修施設研修実施責任者も含め2018年度研修歯科医の修了判定、2019年度研修歯科医の採用等を議題に委員会を開催しました。中嶋正博病院長が挨拶し、平素よ

出席委員:111名(委任状含む)/欠席委員:42名

りの研修歯科医の受入、研修指導、病診連携に謝辞を述べました。協力型施設の指定要件、研修歯科医の相談内容等について報告、確認し、協議事項は承認されました。

5/13
(月)

医療保健学部第3学年「登院式」

5月13日、創立100周年記念館中講義室において、医療保健学部1期生の登院式を行いました。式では、川添堯彬理事長・学長及び中嶋正博病院長から訓辞があり、口腔保健学科・口腔工学科3年48人は、本学の「建学の精神」に謳われているように思いやりと使命感をもって臨床実習に臨むと、登院への誓いの言葉を述べました。



9/17
(火)

10/22
(火)

2019年度医療安全講習会

日時:9月17日(火)16:15~17:00

場所:創立100周年記念館大講義室

出席者:106人

演題:「本学病院の医療安全の問題点」

講師:佐久間泰司先生(医療安全管理学 専任教授)

医療安全の基本は「ルールを守る者のみルールに守られる」。インシデント報告は報告者をとがめたり非難することではないことを理解してほしい。

インシデント報告は、インレーの誤飲、患者間違い、部位間違い、誤抜歯等が散見されます。患者間違い防止のため「フルネームと生年月日を確認する」、部位間違いをしないため「指差し確認を行う」というルールがあります。ルールを守らず誤抜歯等を行えば、医療行為ではなく業務上過失傷害罪に問われることを肝に銘じておいてほしい。クレームは氷山の一角であると考え、水中に隠れた部分を推し量るべき。また、クレーム対応を相談できるシステムを確立すべきであると考えます。

患者さんの声等の意見は本学病院への期待であると真摯に受け止め、改善に努めたい。



日時:10月22日(火)16:15~17:00

場所:創立100周年記念館大講義室

出席者:116人

演題:「大学病院における医療安全 ~最近の話題から~」

講師:長島久先生(富山大学医療安全管理室 特命教授)

医療安全の歴史は医療事故の歴史です。医療事故防止に対する考え方は1990年代までは「あってはならないこと」でしたが、2000年以降は「起こりうること」に変化し、個人の責任ではなくシステムエラーと考えて対策を行うべきです。ヒューマンエラーを引き起こす人間の特性は、間違えることや、また集団的特性として上司・先輩には逆らえないなどがあり、対策としては次のものがあります。①止める(なくす):作業手順の単純化・機械化。②やりやすくする:システムデザイン、標準化。③認知・予測させる:KYT。④安全を優先させる:フェイルセーフ、職業的正直。⑤能力を持たせる:教育、訓練。⑥エラーを検出する:定位置、整理整頓、ダブルチェック。⑦備える:緊急時を想定した訓練、保険等。「報告、正義、柔軟、学習する文化を医療安全にも導入したい」との言葉で締めくくられました。



2019年 新年互礼会

年頭所感

理事長・学長 川添堯彬



本日、こちらにご参集の大勢の皆様方へ申し上げます。新年、明けましておめでとうございます。日本国の今年は、平成の御代の終結と5月1日からの新時代の幕開けの年でございます。昨年来、いろいろなイベント、あるいは計画が本学にございましたけれども、それぞれの予定は、本学の役員理事の先生方の絶大なる後押し、ご支援と、教職員の方全てが一丸となり、大学のためという一つの方向に向かって努力していただいた結果、今までにないたくさんの達成、実行を見ることができました。そのために、随分と停滞していたところもだんだんと多くのものが進んでおります。そして今年もまた、それにも増して新しい重点計画を計画しております。それにつきましてはこの後、パワーポイントでその具体について、新年互礼会に当たりまして、私から申し上げたいと存じます。皆様方、大変お寒いところ恐縮でございますけれども、しばらくご清聴いただけましたら大変ありがたく存じます。この後、食堂におきましてお一人、お一人と新年のご挨拶をまた申し上げる予定になっておりますので、何とぞそちらのほうもよろしくお願ひしたいと思います。

毎年同じような形で、年頭所感としてしばしストーリーをご覧いただきたいと思ひます。極力、長くならないように簡潔に申し上げたいと思ひます。



2019年は途中から元号が変わりますので、平成は一応、今のところ31年が明けました。昨年はいぬの年で、今年はいのししの年でございます。これを占いの暦で見ますと、平成31年は己亥（つちのとい）という年でございます。己（つちのと）は、「巴（うずまき）」とか「起（おきる）」、あるいは「忌（とどめる）」という意味です。少し変っている点は、温存と異変により淘汰されるということで、いいことと悪いことと、両方中にとどめているというふうに占いの本にございます。

それで、もう一つの亥（い）というイノシシのほうの字ですけど、これは種子の核で、生命力は非常に旺盛ですけども、内部に閉蔵され再生を待つという意味があると。また昔から「猪突猛進」というように、勇猛・武勇の象徴とも言われるわけでありまして。いろいろな企業活動というのは起死回生で道を開くことができる。ただし、時々あまり一方的過ぎるために失敗するから、対応は柔軟に、以心伝心を心がけることが重要である。そういうことでございます。

さて、今日の中心はこれでございます。

大阪歯科大学を さらに発展させる 重点計画とは

今年は五つに分けて重点計画を立てております。

〈これからの重点計画〉

2019(平成31)年～

- 1 教育力—国試合格率90%・最少修業年限
- 2 研究力—海外研修・外国人留学生増強
- 3 臨床力・病院力—附属病院改革・黒字化
- 4 医療保健学部一定員充足・大学院(博士)設置
- 5 地域包括医療参入—医療系新学部の増設
医療系総合大学化—全学財務基盤の強靱化

まず、教育力、それから研究力、これには国際交流とか、海外研修、留学生の増強ということも入っています。それから臨床力、病院力。附属病院の改革があるということです。やはり臨床力を世間に示さないと専門性がないということになるかと思ひます。それから医療保健学部、3年目になるわけですが、さらに定員を充足させる、あるいは少しぐらいオーバーしてもいいだろうということです。もう一つは、大学院の設置認可とありますけれども、博士課程を設置するという計画がござひます。それから、政府のほうは、医療全体が地域包括医療に参入するから、歯科においてもそちらの方向へどんどん進めなさいということで、そういう意味からも医療系総合大学化を目指す。現在医療保健学部2学科が加わって、大阪歯科大学は歯学部と合わせて3学科、大学院も修士課程と2課程という構成になっております。順次、もう少しこれを増やしてみたいと思ひます。

まず、1番目の教育力でござひます。この中身の最終的な結論は、国試合格率をとにかく90%にのせたい。もう一つ文科省から言われているのが、国試に合格するだけではだめだと、それを最少修業年限で合格する。ただし、これは100%は無理でござひまして、ほかの大学とか司法試験の大学院大学でも、70%ぐらいにいったらいいだろうということになっております。しかし、現実には50%ぐらいしかいっておりません。歯学部は全部50%台になっているわけ

であります。

次のスライドは文科省の通信簿です。

文部科学省からの通信簿														
平成30年度 入学状況及び国家試験結果(過去5年間)														
大学名	削減率	充足率	競争倍率	上級総合診療(1級)	上級専門診療(2級)	上級専門診療(3級)	上級専門診療(4級)	上級専門診療(5級)	上級専門診療(6級)	上級専門診療(7級)	上級専門診療(8級)	上級専門診療(9級)	上級専門診療(10級)	上級専門診療(11級)
大阪大	20%	100%	1.91	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
国大	26.6%	100%	1.91	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00

前から、削減率と充足率と競争倍率。まず削減率はもう10年以上前から、大分圧力がかかってきているわけですが、でも、ゴールはどこを指しているかといいますと、歯学部の場合は昭和60年の時の入学定員が160名でございました。そこから何%減らすのかということについて、もう10年以上かけて議論をしましりましたが、ついに、これからの削減率は28%以上減にすべしということでかかっております。現在の全国平均は、国立を入れますと26.6%ぐらいです。私立はもう少し低いですが、我が大阪歯科大学は現在のところ、20.0%のところまでとどまっています。この20%を、なかなか政策や文科省のいうように、これ以上増やせない理由はこの次に申し上げますけれども、ここは達成している星印がついていないところです。この星印は合格ということです。

充足率は、本学は昭和26年からですが、過去5年間の成績においても、全部100%で充足しております。1名も多く採っておりません。128名をきっちり守って、ずっと続けております。

ところが、入試競争倍率は1.何倍の段階ですと1.9倍でも全入と同じで、競争原理が働いていないとされるわけで、最低2倍以上、2.0以上ないと、これはだめだという感じでいっております。本学は過去5年を振り返りますと、ずっと2倍を超えていますけれど、平成26年の1年間だけ1.91と2倍を切った年がありました。全国平均は2.49倍というのが出ておりますから、このときはちょっとお叱りを受けたわけですが、その後は、非常に回復いたしました。これは後に述べます国家試験の合格率が本学はかなり上がってきたために、

受験生が随分増え、倍率が上がってきたということでございます。

それで、もし入学定員をこれ以上削減すると、こういう財政上の危機が起こってまいります。

入学定員削減による経営危機		
2019(平成31)年1月		
口昭和60年度	現在	さらに削減指示
160名	128名(20%減)	115名(28%減)
(目標28%以上減)		
1 政府補助金の削減		
2 教員定員の削減		
3 授業料収入の減少(毎年段階的)		
4 附属病院の赤字		

なぜ28%かということで、昭和60年は160名だったと、これをずっと議論して30%と言っていたんですけども、我々も、ちょっとそれは急に言われても無理だという感じで頑張っていて、28%にとどまっています。現在20%できっちり128名。1名も多めに採れません。そしてさらにこれを28%に、文科省や厚労省も含めて、内閣はまた、最低28%、もっと30%、国立は35%削減しているんだから、私立は28%以上でなければいけないと、毎年こういう圧力がかけられております。しかし、現在のところ本学だけではなく、旧六校に当たるところはほとんど20%にとどまっています。これはやはり、歴史が古い大学、国立より随分古いところは、なかなかこれを急に削減するのは、その子弟とか親戚の方が随分入っているので難しい。いつときはもっと定員を増やさないという時代があったので、急にここになって、定員を減らさないというのはあまりにも身勝手な感じがしているんですが、こうした六つの古い歴史を持つ大学は20%にとどまって、しかし毎年いろいろつかれていくわけでありまして。もし、これ以上私立大学で定員を減らし、政府の言うとおりの28%に近づけますと、1名当たりについてという感じでそれぞれ計算式があるんですけど、まず政府の補助金が削減されます。それから、教員の今の定員はやはり160名でいっているところが多く、128でも少し多過ぎると言われているので、さらにこれは減られる可能性があります。これ以上先生の数減らしま

すと教育の質が落ちるということで、また国家試験に通らなかったり、臨床の技術が低下したり、そういったことになっていきますので、これも本学にとっては存亡にもかかわることですから、やっぱり教員の定員をおいそれと削減するわけにはいかない。それから、授業料収入はもう直接に、これはこたえてきます。毎年1年ずつ、6年間ずっと減り続けていくということになるわけでありまして。

それから、ここまではしょうがないかなんと思っているんですけど、全体として何とかやれている大学は附属病院が黒字か、またはほとんど、とんとんであるというような医院経営をしていて、上からの三つが減少しても削減されても何とかやれているんですけど、本学の場合は、ざっと見て毎年4億以上赤字を出しておりますので、このままでは、だんだん大学も国からの補助金を減らされ、あるいは授業料収入のほうも減ってきますので、これはせめて附属病院が黒字と言わないまでも、とんとんに持ってくることを、今、理事を含めて、附属病院の組織改革を毎月のように検討している最中でございます。昨年まではまだ、その実効が上がっていないという段階です。

それと、これはソーシャル・コミュニティというのですけど、清掃活動を毎朝順番に、学生が、教員も手伝ってくれて実施しています。これによって、随分教育的な効果が出てきました。



学生さんが非常にまじめになったとか、あるいはクラスのレベルが、態度がよくなった、授業態度もよくなったとか、遅刻・欠席が減ったとか、そういったことに非常に効果があります。楠葉で最初に始めましたが、医療保健学部ができてからは自主的にそちらも、牧野学舎周辺とか、あるいは牧野駅の周辺とか、そういったところの清掃活動をやり出しました。それに加えて、5年生、6年生と教

職員が清掃活動をしています。近隣の評価もよくなりましたし、これは今後もぜひ続けるべきだと思います。

それから、今のは態度教育の一つになるわけですが、これからはおおよそそういうふうに、これだけの関門を突破しないと国家試験に合格しないということを示しています。



この中で CBT、コンピューター・ベース・テストという、これは問題がパソコンでどんどん送られてきて、それを 30 秒以内にどんどん解答していくという感じですが、これが今まで以上に卒業資格とか国家試験受験資格に大きく影響するようになるというのが昨年決まりました。すなわち、まず 4 年生の授業が終わったときに、1 年生から 4 年生で習ったことの知識試験をパソコンですると、全国の、その大学の学生の実力が出てくるという点があります。これをぜひとも、90% 合格するような力をつけたい。今は再試験をやって辛うじて何とか上がっている段階ですが、本試験は、これができません。CBT が第 1 番の関門になって、少し今まで以上に難しくなりそうです。

それから、ここにスチューデント・デンティストとあるように、臨床実習ががらりと変わります。それはほとんど実患者を診なければいけない。医学部ではスチューデント・ドクターという名前で、先生がいなくても一定のレベルのものは勝手にどんどん診てよしいという、そういうのを国のほうから資格として与えられている、表示してあります。スチューデント・デンティストはまだ国家試験を通った一人前の歯科医師ではありませんけれども、この病院内においては一連のカリキュラムの中で、実際に患者さんに治療することが法的に認められています。これは世界のレベルと同じようにそろえる意図が文科省にあると見えて、こ

れをどうしてもやると。

それからもう一つは、ポストクリニカル・クラークシップ、ポスト CC 方式というのがありまして、これは実習試験なんですけれども、昔から臨床実習終了後にちょっとはしていましたけれど、それを少し拡張し、一つの課題に沿って実患者を一通り全部一人で診ていくという実習試験です。例えばクラウンを入れるときには診察・診断・支台歯形成・印象・咬合採得・ストップングから装着までずっと実患者でやるということです。それから、学生も相当態度がよくないと、あるいは学科の成績がよくないと患者さんから、この学生さんをかえてくださいということになる。そうすると卒業できないということになるので、これをどのように訓練するか。先ほどお見せしました清掃活動もその一環です。やはり、患者さんに好感を与えないと拒否されますので、それでうちから親戚か、肉親か、そういった人を患者に連れてこないといけません。けれども、ちょうどいいケースの人を探すのは相当難しい。臨床実習が難しくなります。

そして学士 1 というのは、これは 6 年生の初めにやる、基礎的な科目での卒業試験です。それから学士 2 というのは、国家試験と全く同じような形式でやる卒業試験です。卒業試験は、本学では昔から 1 と 2 と、両方やらないといけない。そして合格となります。

そこで、これからの教育に課せられた目標は、まず先ほどあった入試倍率は 3.0 以上、これはほぼ本学は達成しています。

＜歯学部卒前教育目標＞ 2019 (平成31)年

- 1 入試倍率 3.0 以上
- 2 進級率 (2 学年, 3 学年, 4 学年へ) 各 100%
- 3 CBT の本試合格 90% 以上
- 4 国試合格率-新卒 90% 以上
- 5 最少修業年限での国試合格率 60% 以上
- 6 既卒者への無償教育支援

それから進級率は、本学は各学年 90 ~ 95% まではいっている、すなわち、留年する人は 10% 未満ですが、これを 1 年から 2 年、100% 進級、2 年から 3 年も 100%、3 年から 4 年も 100%、これぐらいいかないと最少修業

年限での合格率はとれないということです。これはどこかで 1 回留年しますと 7 年もかかることになりますので、大変なことです。それで文科省から叱られるわけです。それから、CBT も再試験で通っているようでは今の状態から上へ上がれないということで、これは 90% 本試験で通らないといけません。国家試験も今や 80%、全国平均を超えるというのが一つの目標ですが、それがだんだんと、医学部は完全に 90% 以上で勝負していますが、本学は今、70 から 80 の間であります。この 5 番目には最少修業年限での合格率を上げていく、これは全国平均が 50% ですから、これよりちょっとでも高くしていく。

この競争倍率までは先ほど説明しました。

文部科学省からの通信簿																					
平成30年度 入学状況及び国家試験結果-過去5年間																					
入試競争率		入試倍率					国試合格率					国試合格者数(新卒)					国試合格者数(既卒)				
年度	入試競争率	2018	2017	2016	2015	2014	2018	2017	2016	2015	2014	2018	2017	2016	2015	2014	2018	2017	2016	2015	2014
大阪大 総合 入試 競争率		100%	100%	100%	100%	100%	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%
		★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★
大阪大	2018	100%	100%	100%	100%	100%	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%
国試 合格	2018	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%

国試合格率はこのように過去 5 年で、全部全国平均よりも上に上がったんです。これが非常に周りに好影響を与えて、翌年からの受験者も増え、非常に全体としてかさ上げがされるということになりました。あと、残された課題は最少修業年限ですが、これは 1 年生から影響しています。ですから、留年したらこれが落ちてきますので、この中で一度だけ、50.7% を超えて 51.6% になった年があります。一昨年です。それ以外は少し、ここは浪人もおられますし、既卒者もおられますのでそういう形になったわけです。

それで、教育のほうはまずまず、文科省の成績表も満点になってまいりますので、そこまでを目標に、今五つの目標をつくりました。

次に、研究力というのがあります。これは、今現在やっている短期の海外研修、そして留学生が大学院でもだんだん増えてきておりますので、ここを上げていきますと、インパクトファクターの高い雑誌に論文が載るとか、そうしたこともできるようになりますので、本学全体の大

学院力が向上するという事です。

今でも非常に人気が高まっているのは、学生の短期海外研修ということで、1週間から10日、いろんな本学の協定国とやっていて、初めはシドニー大学へ行って、次はコロンビア大学とか、中国の四川大学・上海大学・北京大学とか、そういったところとも相互交流をやっておりますので、これに参加すると、やはり国際レベルで皆競争していますので、帰って来てから俄然勉強をしますというようなことがあります。国家試験もこれに行った人は平均して91.4%の合格率を示しているとか、国試合格率と、この短期海外研修とは密接に相関があるということが調べてわかってきておりますので、本学ではこれを随分推奨している次第であります。しかし、これはかなりよくできる人の一群になりますので、大体10人前後が1大学と交流するという事になっています。

＜国際交流・外国人留学生の増強＞ 2019(平成31)年

- 1 学生の短期海外研修-相互
- 2 両学部への留学生
- 3 大学院博士科への留学生
- 4 大学院修士科への留学生

それから、次は大学院の博士課程の留学生が、特に中国とか、あるいは台湾からよく来られて、今度は大学院の中で論文のレベルを競争するようになる。本学の日本人の大学院生もそれに引っ張られて成績がよくなると、そういうふうになります。それから医療保健学部もどんどんそういう方向に進んでいくんですけれど、まずは修士課程を設けることができました。そうしたら、早速留学したいという人が出てきましたので調印しました。医療保健学研究科のほうもコンスタントに大学院生の留学生が増えてくるようにこれからなっていくと思います。

次は、附属病院の改革があります。臨床力をつけるのも、財務的な黒字化を図る病院力のほうにも附属病院は大きな役割があります。ここに改革のメスを入れたいと、本学の先は非常に暗くなるということで、猛烈にそちらのほうに力を入

れ始めております。全体として始めたのは、患者さんをできるだけ多く、それから症例も豊富な附属病院でないといけないということが文科省にしてみても言われているので、まずは患者さんが多くなれば必然的にその中に含まれる症例の内容も豊富になるということで、これが一つ、今、猛然と取り組んでいます。

＜附属病院の役割＞

- 1 患者が多く、症例が豊富であること
- 2 診療参加型臨床実習-Student Dentist
- 3 PostCC-OSCE-実患者+一斉技能試験
- 4 医科歯科介護連携、地域包括・地域完結型医療
- 5 多職種協働、歯科衛生士研修センター開設
- 6 S・ニース-口腔内科、睡眠時無呼吸症
- 7 mRNA検査でゲノム診断を行い未病を早期発見

本学は10年この方、徐々に患者数が減ってきておりましたので、これを何とか食い止めて、右肩上がりになるように努めております。それから、先ほど少し言いました学生に対しては、スチューデント・デンティストが国から必須とされてまいります。これをやらないと卒業できないということです。ポストCC方式という実患者を使ってやると。そして実際の国家試験には一斉の技能試験を全員同時に模型を使い、楠葉の実習室でやります。これだけ実技のほうにシフトしているのがこれからの改革で、2020年から始まる改革です。

それから、社会は今と同じですけど、医科歯科連携、医科歯科介護連携の時代になってきます。地域包括、あるいは地域完結型医療にどんどん変わってきておられますので、近い将来こうした方向になっていく。それと同時に、他職種の方がどんどん生まれてくる。歯科衛生士さん、歯科技工士さんだけでなく、看護師さんとか、OT・PT・STとかいうのがありますけれども、言語聴覚士という職業とか、作業療法士というのがあります。理学療法士さんとか、そういった他職種の方とも一緒にやっていくと。

それと、本学で昨年うれしいことに、歯科衛生士の研修センターという、学校の中に学校ができた、すなわちスクールインスクールみたいなものです。3カ月で完結する研修センターが、国の経営でもってつくられました。これは東京と大

阪に1校ずつできまして、東京医科歯科大学と大阪歯科大学の、現在2校でしかやられておりません。これは、歯科衛生士学校をつくっても全く追いつかないぐらい歯科衛生士さんの需要が増えてきたので、それを緩和するために、過去に国家試験を通った歯科衛生士さんが20万人眠っていると言われておりますので、そのうちの10万人だけでも何とか復職支援する学校ができないかということが国会を通りまして、これが本学では昨年12月1日にスタートして、やっております。これは非常に方々から見学に来るし、意味のある職場になります。

それから、スペシャルニーズというのが出ており、これも患者さんを増やすため、あるいは症例を多くするための一つの取組みです。全国の歯科大学附属病院には、みんなこのスペシャルニーズというのがあり、一つには、口腔リハビリテーションワークというのが大分関心が高まってきております。もう一つは、睡眠時無呼吸症候群の症状を、これは内科の先生と歯科の先生とが両方で一つの科をつくるという感じになりますので、これは本学の内科の先生でもって力を入れていって、全国的な診療実績に少しでも追いつこうという感じです。そして、患者さんを増やすことにもつながると。

それから、歯科、内科、薬科を含めての、未来志向の遺伝子検査、マリーナ検査、ゲノム診断を取り入れようとしています。未病をできるだけ早期に発見して、当初はがんの患者が圧倒的に多いでしょうけれど、ほかの疾患もわかります。これは少し先を走っているんですけれども、数年でどんどん、導入するところが増えてくると考えております。

このように、附属病院には役割がものすごくあります。全部を達成することは一朝一夕にはなかなかならないとは思いますが、しかし本学も黒字化を図っていく方向へ進まないと、だんだん補助金を減らされるとか、いろいろところからの財務窮乏に陥ると。一番難題で頭の痛いところでございますけど、やらないといけません。

＜附属病院の改革・黒字化＞

2019(平成31)年1月

- 1 患者数・延患者数増強
- 2 診療時間の延長・含土曜日
- 3 「診療分野教員」の増員
- 4 自費診療の増加・インセンティブ
- 5 訪問・在宅診療へ積極参入

そこで、附属病院については患者数をとにかく増やす。診療時間を少しでも増やす。場合によっては土曜日の診療を広げる。今現在、矯正科と小児歯科で土曜日を開院しておりますけれども、ほかの科はまだ始めていないということです。それから医療収入の増加を目的に、臨床系講座に診療分野教員を置いています。まだ数は少ないですが、効果は上がってきております。それから自費診療にはインセンティブをつける。それから5番目は訪問在宅診療へ。これは地域包括ケアの実行でございますので、積極参入になろうかと思っておりますけれども、その方向へ行って、多くの私立の歯科大学でもあいった5人乗りのマイクロバスというんですか、車を購入しているようです。東京歯科大学はまだやっていないと思っていまして、この前見てきたら、千葉にそういうのをつくって、盛んに千葉県のあたりへ車で、ドクターと衛生士さん、技工士さん、それから臨床実習生、5年生と卒直後の先生、そういう5人を乗せて周りへ出向いていました。往診については政策だから、これに消極的な大学はだめだという感じで、本学はちょっと今、消極的なほうだったのでお叱りを受けたんですけれども、そういうような形をやっていかないといけない。今年中に何か、小さなことでも行動しないといけないかもわかりません。

＜医療保健学部の発展計画＞

2019(平成31)年

- 1 アドミッション(募集力)増強
- 2 留学生増強・口腔工学科、大学院(博士)
- 3 教育力・国試合格率100%
- 4 キャリア支援の積極推進
- 5 国際交流の推進

それから、医療保健学部です。これが4年制の医療保健学部を私立大学で導入

して、これは冒険だろうと危ぶまれた、当初はそうだったんですけれども、これがだんだん聞こえていって、徐々にこちらのほうに行ってきたので、いろいろ時代を先取りしたかなと思っています。これはこれからどんどん発展すると思います。募集力は、どうしても口腔工学科のほうに少し遅れておりますけれども、これもいろんな方法がありますので、あと2年で完成年度、4年間を迎えます。それまでには全部アドミッションというか、入学定員が満ちるところまで持っていけるのではないかと、かなり楽観しております。

それから、留学生に工学科で留学したいというところがありますので、そういうところと協定を結びまして、やりたいと。それから、早急にこの大学院博士課程を新設したい。これは将来こちらへ必ず向かうと思っておりますので、今の医学部と看護学部の関係を見ましても、あるいはこれをつくっていかないと大学院、薬学部も6年制のあるところは皆そういうふうになっていきますので、早晩看護大学、看護学部にもこの博士課程がどっとできてくると思います。したがって、医療保健学部、我々のほうもこれは早くつくっておくのが有効である。それにはできるだけ、国家試験も今のうちに100%合格するんだということを、4年間もかかって100%とれないのかと言われたら、これはちょっと申す言葉もないので、これは力を入れないといけない。それから、就職先をできるだけ積極的に開発して、専門学校を出た人とは一味違う役割とか給料とか、そういった待遇面でも違うんだということを根づかせないといけないということで、これも早くから積極的にやっておかないといけないです。国際交流はいろんな面でやっていけるんじゃないかと思っております。

募集定員は4年制の医療保健学部、2学科合わせて100名を何とか超えればという気持ちです、今のところ。口腔保健学科は、もっと2倍、3倍ぐらいの倍率になっていくんじゃないかと思っております。

それから最後に、地域包括医療、地域

完結型の方向に進んでいっております。ですから医療系の新学部を、少しでも黒字が出せるようなところを模索して広げていく必要ができてきますので、どうしても歯学部だけの単科大学というのはほとんどやっていかれないような時代になってきているわけでございます。

これは、よく授業で使われる、従来は歯科治療の需要が、こういうふうな保存、補綴、口腔外科といった部類で組まれていたわけです。80%以上はこういう形の教育、臨床形態であったと。それがどんどん健康者型が減り、その分は高齢者型に変わってくるとか、高齢者型はやはり往診してもらわないとなかなか行けないとか、全身的な疾患によるリスクがあるとかいう方が、大分増えていると感じております。こういう方向へ歯科も関与していかないといけない。

これは歯科医師会単位ではとても追いつかないようになっていわれておりますので、地域包括支援センターというのができて、ここには医者もいれば、歯科医師もいれば、看護師もいるという、こういうところが各地域にできてくる。2025年という後期高齢者が、75歳以上の人がどかっと増えてくることで、介護との連携が必要になってくる。1980年のような歯科医院完結型というのは、もうほとんどこれは減ってきて、需要は地域包括・地域完結型へ行くということが、厚生労働省の展望でございます。

以上、ざっと見てきて、今年の抱負は「進」という、いろいろ進めるという、英語でいうとアドバンスです。アドバンスに努めたい。いろんなところを、計画をアドバンスしていくという、そういう年にしていきたい。

今年も春日大社で大吉を引いてまいりました。どんなことかという、「あさみどり 澄みわたる 大空の 広きをおのが 心ともがな」ということでございます。ご清聴ありがとうございました。

2018年度 事業報告

はじめに

大阪歯科大学は、建学の精神である「博愛」と「公益」を基調とした107年の歩みの中で、歯科医学・医療の発展に寄与してきた。

2018（平成30）年度においては、教育、研究、臨床の発展充実、経営の効率化を目指した各種事業を推進した。

歯学部における学生の受け入れについて、広範な入試広報活動の結果、入学志願者の大幅な増加と実質入試倍率の前年度比増を達成した。歯学部教育においては、初年次教育の充実、オナーズ教育への注力、歯学系共用試験、臨床実習の成績向上に取り組み、歯科医師国家試験に関して、新卒者合格率80.4%という好成績を収めることができた。

大学院歯学研究科においては、一般、社会人、外国人留学生の各区分で入学者を募集するとともに、大学院生の研究活動の活性化を図った。

医療保健学部においては、学生の受け入れ活動を積極的に行い定員の充足を図った。教育面では、教養科目のほか、本学附属病院における早期臨床体験学習や、ODUソーシャルコミュニティを開設した。初年次教育に力を入れるとともに、キャリアセンターではキャリアセミナーを開催した。

大学院医療保健学研究科（修士課程2年）においては、口腔科学に関する教育・研究者の能力、技能、見識を備えた人材養成を目指しており定員を充足した。また、博士課程及び新学部設置に向けた準備を行った。

国際交流については、グローバル大学に相応しい教員・学

生研修派遣を展開した結果、参加者にとって多くの学術研究上の知見を吸収することができた。

枚方市所在の4大学（関西医科大学、摂南大学、大阪工業大学、本学）、枚方市、北大阪商工会議所及び資生堂ジャパンとの間で枚方産学公連携プラットフォームに関する協定を、また、関西医科大学、常翔学園及び本学との間に連携協定（研究における医歯薬連携を含む）を締結した。

第8回臨床ゲノム医療学会大阪学術大会が本学の主管で開催され、渥美和彦・東京大学名誉教授、井村裕夫・京都大学名誉教授のほか、多数の講師陣を迎え、本学教員、同窓生など434名の参加で活発な議論が展開された。

附属病院においては、理事会傘下の病院組織改革委員会の検討を受け、医療の質向上と経営効率化に向けて取り組んだ。診療時間の延長、臨床系講座の教員で診療を主担当とする診療分野教員の配置を計画し、診療収入の一層の増収を目指した。

また、公益社団法人大阪介護老人保健施設協会と連携協定を締結し、連携教育体制の構築を目指すことになった。歯科衛生士の復職支援については、厚生労働省受託事業の一環として「大阪歯科大学歯科衛生士研修センター」を発足、第1期の研修が無事終了した。

以上、今後とも教育・研究・臨床の一層の充実発展を目指していくものである。

第1部 事業の概要及び附属資料

建学の精神

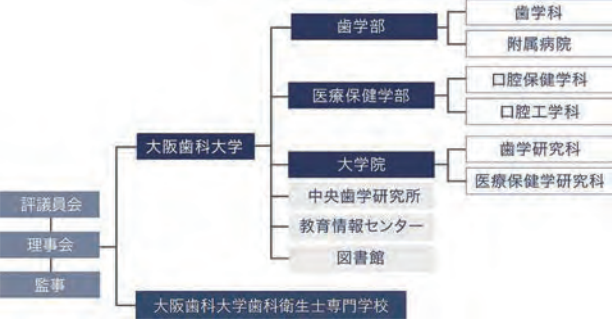
歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕的人生観を体得して、「博愛」と「公益」に努める。

沿革

1911（明治44）年12月12日	大阪歯科医学校設立	1964（昭和39）年4月17日	大阪歯科大学附属歯科技工士養成所（大阪歯科大学歯科技工士専門学校）開設
1912（明治45）年1月14日	大阪歯科医学校開校式（創立記念日）	1968（昭和43）年5月1日	大阪歯科大学附属歯科衛生士学校（大阪歯科大学歯科衛生士専門学校）開設
1917（大正6）年9月7日	財団法人大阪歯科医学専門学校設立	1997（平成9）年4月1日	楠葉学舎、天満橋学舎附属病院竣工、牧野学舎（体育・課外活動施設）と合わせて3学舎体制となる。
1917（大正6）年9月25日	大阪歯科医学専門学校開校	2011（平成23）年11月11日	創立100周年記念式典挙行
1947（昭和22）年6月18日	大学令に基づく旧制大阪歯科大学設立（大学昇格記念日）	2016（平成28）年8月31日	大阪歯科大学医療保健学部（口腔保健学科、口腔工学科）設置認可
1951（昭和26）年3月2日	私立学校法に基づく学校法人大阪歯科大学へ組織変更認可		
1952（昭和27）年2月20日	学校教育法に基づく新制大阪歯科大学設置認可		
1961（昭和36）年3月31日	大阪歯科大学大学院歯学研究科（博士課程）設置認可		

2017（平成29）年8月29日	大阪歯科大学大学院医療保健学研究科（修士課程）設置認可	2018（平成30）年3月31日	大阪歯科大学歯科技工士専門学校廃止
		2019（平成31）年3月31日	大阪歯科大学歯科衛生士専門学校廃止

学校法人大阪歯科大学組織図（2018年度）



学校法人名称及び所在地

学校法人大阪歯科大学 大阪市中央区大手前1丁目5番17号

大学・学部等名称及び所在地

（楠葉学舎）

大阪歯科大学歯学部 枚方市楠葉花園町8番1号

大阪歯科大学大学院歯学研究科

（牧野学舎）

大阪歯科大学医療保健学部 枚方市牧野本町1丁目4番4号

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科

大阪歯科大学歯科衛生士専門学校

（天満橋学舎）

大阪歯科大学附属病院 大阪市中央区大手前1丁目5番17号

役員・評議員（2019年3月31日現在） [順不同、敬称略]

【役員】		
理事：定数7名以上11名以内 現員10名		
監事：定数2名 現員2名		
氏名	現職・主な職歴・就任年等	
理事長 川添 堯彬	大阪歯科大学学長（2007.10）	
常務理事 下村 錢三郎	学校法人大阪歯科大学理事・評議員（2010.4）	
常務理事 田中 昭男	大阪歯科大学副学長（2016.4）	
	同歯学部長（2017.4）	
理事 小正 裕	大阪歯科大学医療保健学部長（2017.4）	
理事 田中 昌博	大阪歯科大学副学長（2019.1）学生部長（2014.4）	
理事 三谷 卓	学校法人大阪歯科大学理事（2006.4）、歯科医師	
理事 岡 邦恭	学校法人大阪歯科大学理事（2002.4）、歯科医師	
理事 橋本 猛伸	学校法人大阪歯科大学理事（2006.4）、歯科医師	
理事 前田 眞治	学校法人大阪歯科大学理事（2014.4）、歯科医師	
理事 上田 雅俊	学校法人大阪歯科大学評議員（2014.5）	
	学校法人大阪歯科大学理事（2018.4）	
監事 本井 文夫	学校法人大阪歯科大学監事（2014.4）、弁護士	
監事 生駒 等	学校法人大阪歯科大学評議員（1998.4～2018.4）	
	学校法人大阪歯科大学監事（2018.4）	

【評議員】定数30名以上40名以内 現員40名
○選任区分 氏名

○本法人理事会理事互選（2名）

川添 堯彬（理事長）、岡 邦恭（理事）

○本学教授会推薦（歯学部教授12名）

池尾 隆、清水谷公成、山本 一世、松本 尚之、岡崎 定司、
藤原 眞一、梅田 誠、有田 憲司、辻林 徹、今井 弘一、
前田 博史、馬場 俊輔

○本学同窓会推薦（本学卒業生・歯科医師16名）

松田 毅、土居 桓治、岡本 学、久富 明宏、藤井 征、
澤田 隆、和手 甚京、城村 幸治、酒井 昭則、奥井 寛、
恩田 信雄、加藤 信次、太田 謙司、窪 盛偉、大塚 俊裕、
岡田 太郎

○本法人理事会推薦（本学卒業生10名）

玉置 敏夫、下村錢三郎、鈴木 實、河合 正治、北條 博一、
上田 雅俊、末瀬 一彦、和唐 雅博、柿本 和俊、吉本 一馬

学生の状況（2018年5月1日現在）

設置学部等	修業 年限	入学 定員	入学者数			収容 定員	在籍 者数
			男子	女子	合計		
歯学部 歯学科	6年	160	57	71	128	960	839
医療保健学部 口腔保健学科 口腔工学科	4年	100	11	83	94	200	147
		70	2	75	77	140	120
		30	9	8	17	60	27
大学院 歯学研究科 博士課程	4年	30	17	11	28	120	111
大学院医療 保健学研究科 修士課程	2年	10	3	11	14	10	14
歯科衛生士 専門学校	3年						41
合 計		300	88	176	264	1,290	1,152

教職員数（2018年5月1日現在）

専任教員数（大学歯学部・医療保健学部）	192名
（歯科衛生士専門学校）	4名
計	196名
専任職員数（法人本部）	2名
（大学歯学部・医療保健学部）	158名
（歯科衛生士専門学校）	1名
計	161名
専任教職員数合計	357名

大阪歯科大学

大学全体での取り組み

大阪歯科大学は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針に則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的としている。この目的達成のため教育・研究・臨床の発展を図った。

歯学部の第1学年から第4学年までと大学院歯学研究科は、大阪府枚方市の楠葉学舎にて、また、医療保健学部・大学院医療保健学研究科は、枚方市の牧野学舎にて教育研究活動が行われている。さらに、歯学部の第5・6学年の教育活動及び附属病院での診療活動は、大阪市中央区の天満橋学舎にて行われている。

大学・大学院全体の教学マネジメント組織として「大阪歯科大学 大学協議会」を適宜開催し、アセスメント・ポリシーの検討やIR情報に基づく教育課程の適切性（アクティブ・ラーニングの導入）の検証を行った。また、学修成果を可視化するためホームページにIR情報（授業評価アンケート等）を掲載し、今後情報の充実に努めることとしている。また、医療系総合大学としての新展開を期して、新学部の設置を計画中である。

歯学部・歯学研究科

歯学部の教育方針

本学の教育方針は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針に則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的とする。したがって、本学の学生は歯科医師たる適性の素質を持ち、本学の教育方針に沿い得るものでなければならない。歯科医師として必要な適性とは、次の三つに要約される。

- 一、能力的な適性 歯科医学の学理と技術を理解し応用できる知能、学力、技能
- 一、人格的な適性 歯科医師としての使命感、社会観、世界観、態度、意志など幅広い人間性
- 一、身体的な適性 歯科医師としての職務を遂行しうる体力と活動力

以上の、三つの適性はいずれに優劣があるものではなく、どれひとつとして欠かすことのできないものである。本学では6年間の一貫教育を通じて、学生のそれぞれの個性を尊重しながら以上の適性を涵養、発展させ、人間性豊かな歯科医師を養成することを教育の目標としている。

歯学部の教育改革

歯学部においては、教学支援体制の充実を図り、建学の精神である「博愛」と「公益」に適う歯科医療人育成を目指し、様々な取り組みを行った。

1. 入学志願者増加への取り組み

アドミッション・ポリシーのもと、優秀な学生の確保に取り組んだ。

アドミッションセンターは、アドミッションセンター長（副学長・教務部長兼任）と専任職員（課長1名、課長補佐1名、課員2名）で構成され、入試委員会による決定を受け、オープンキャンパス、高校訪問、高校生向け入試・入学説明会、ホームページ、SNSを通じた広報活動を積極的に展開した。

オープンキャンパスについては、楠葉学舎で7月、9月にそれぞれ1回、天満橋学舎で8月に1回、合計3回行われ、延べ参加人数は539名であった。楠葉学舎でのプログラムは、入試概要説明、本学学生による講演、入試に向けてのポイント講座、体験実習、ミニ講義、キャンパスツアー、個別受験相談会を実施した。さらに、2015年度から始まった本学附属病院での入試説明会と院内見学は4年目を迎え、前年度を上回る144名の参加で好評であった。

また、全国23箇所（東京、千葉、埼玉、神奈川、愛知、福井、大阪、京都、奈良、和歌山、三重、兵庫、広島、岡山、山口、香川、徳島、愛媛、高知、福岡、熊本、鹿児島、沖縄）の特設会場では、高校生対象の進学相談会を行い、入試状況最新情報とキャンパスライフ、歯科医師の将来展望などの情報提供を行った。

2019年度入試（2018年度実施）は、インターネット出願を導入し、受験生の利便性の向上を図った。

入試科目については、推薦・一般入試において、英語の各種資格・検定試験（注）の結果に基づいて、一定の基準を満たしている場合は、「外国語（英語）」の受験免除制度を昨年度に引き続き実施した。

（注）英語の各種資格・検定試験について

GTEC（4技能版）、GTEC（3技能版）、GTEC for STUDENTS、GTEC CBT、TOEIC、TOEFL（iBT）、TOEFL（PBT）、英検®、英検 CBT®

（注）GTECはオフィシャルスコア（検定受験の成績）のみを認める。

※いずれも取得時期は問わない。

受験免除基準検定試験 スコア・級

GTEC（4技能版）1070以上、GTEC（3技能版）、GTEC for STUDENTS 650以上、GTEC CBT 1000以上、TOEIC 550以上、TOEFL（iBT）55以上、TOEFL（PBT）484以上、英検®、英検 CBT® 2級以上となっている。

センター試験オプション方式＜プラス1＞を新たに導入した。これは、本学一般試験の得点に、センター試験受験科目の6教科（外国語、数学①・②、国語、理科②、地理歴史、

公民)より高得点1(2)科目の得点を合計し、可否を判定するものである。

また、入試の試験場は、一般入試(前期日程)において、東京会場(駿台予備学校お茶の水1号館)、名古屋会場(代々木ゼミナール名古屋校)、広島会場(TKP ガーデンシティ広島)、福岡会場(代々木ゼミナール福岡校)を設置した。一般入試(後期日)は、東京、福岡を開設した。

入学試験成績優秀者特待生制度については、その充実を図り、優秀な学生の確保に努めた。一般入試及び大学入試センター試験利用入学試験においての措置で、概要は以下のとおりである。

- ・A種(初年度学納金(入学金を除く)免除:515万円、2年次以降は授業料全額免除:380万円×5年、対象人数1名、2年次以降は優秀な成績を維持することを条件)
- ・B種(初年度は学納金(入学金を除く)免除:515万円(2年次以降は在学中の学業成績優秀者に対し年間授業料から100万円免除、対象人数25名)

以上のような取り組みにより、2019年度入試の志願者は昨年度を上回り、募集人員である128名を充足した。

2011(平成23)年度(2012年度入試)から実施されている編入学試験では、6名が第2学年へ編入となった。

2. インスティテューショナル・リサーチ(IR)室の活動

専任職員1名を配置して、教育、学生支援にかかわる情報の収集、分析、研究(教員業績を含む)にかかわるデータの収集、分析、データベースを利用したデータ収集及び検証並びにデータベースの整備、本学の計画策定、政策決定、意思決定業務等の支援等の活動を行った。

2018年度は、学生の生活実態調査や、授業への皆勤者調査、学業成績に関するデータ集約、「育み教育」「寄り添い教育」の該当者の授業出欠状況等、教務部委員会への検討資料として提示した。また、「IR情報」として、「海外研修参加者の成績」「授業評価アンケートの集計結果」「第6学年の出席状況」をホームページに公開した。これらを受けて委員会では、全学生の生活実態を把握した上できめ細かな学修指導を計画し、実行した。

3. カリキュラムについて

歯学部では、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを定め、建学の精神の具現化に努めた。態度教育科目の「コミュニケーションⅠ～Ⅳ」は、第1学年から第4学年まで横断的に開講した。

その中で、特に「ODU ソーシャルコミュニティ」は、態度教育科目の「コミュニケーション」の中で、第1学年から第4学年までの全学生が、学長及び教職員とともに枚方市の主催する環境美化活動であるアダプトプログラムに登録し、朝8時から楠葉学舎周辺の歩道での清掃及び通行する

地域住民の方々に挨拶を行った。学生の皆出席を義務づけ、欠席者には予備日に振り替えて実施し、参加態度はもちろんのこと、総合的に成績評価を行った。

第1学年の「コミュニケーションⅠ」は、「履修指導」「ホームルーム」「学長と語ろう」「The 2nd Forum for International Students(略称FIS:アジア5大学と本学歯学部学生、大学院生の研究発表を全て英語で行うフォーラム)」等の受講を通じて自学自習や社会人としての健全な生活態度の涵養を目指している。

「人権論(1単位)」「社会福祉施設体験学習(2単位)」「早期臨床体験学習(1.5単位)」は、引き続き学生の態度教育の柱として十分機能している。「現代教養(3単位)」では、マナー指導、学習態度の確立、プレゼンテーション能力、オナズ教育などを通して、歯科医師として必要な素養と思考力、判断力、表現力など様々な状況に臨機応変に対応、解決できる能力を養うことを目的にしている。その中では、第1学年全員の漢字検定準2級受検やTOEICの受験を実施した。

情報リテラシー教育としては「情報科学(2単位)」を必修としており、その中でパソコンのスキルとともに情報化社会に特有の危険性と対処法を学んでいる。

第2学年では「基礎系歯科医学教育」を、第3学年では、「情報科学教育」「社会系歯科医学教育」「臨床系歯科医学教育」「総合医学系教育」を重点的に履修した。

第3学年の「ゼミナール(2単位)」「研究チャレンジ(2単位)」は、演習科目として学生を研究室に配属して行うものである。特に「研究チャレンジ」は、研究マインドを学生に涵養することを目的にしており、リサーチリテラシーを涵養し、1999年度から学生が参加しているSCRP(スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム)での成果発表を行った。

第4学年では、全国共用試験歯学系CBTを臨床実習へ至る前の重要な試験として、指導体制の強化を行い成績は着実に上昇した。特に成績下位者には宿泊形式の重点的学習を行い、弱点の強化を図り成果を上げた。

DESS モバイルにより、第4、5、6学年への自学自習のツールとして活用されている。また、歯学部全学年に対してクリッカーを設置し、ICTを活用したアクティブラーニングの授業科目は53%となった。

第5学年においては、臨床実習必修を整え学生に配付し、学修の徹底を図った。患者中心型診療システム(POS: Patient Oriented System)に基づいて検査、診断、治療計画にいたる情報収集と基本的歯科診療技術の訓練を行った。そして、臨床知識試験(年間5回実施)、臨床実習終了時試験を実施した。臨床実習の合格基準は、診療参加経験数、観察記録による評価、臨床実習終了時試験の合格、講義出席率80%以上である。また臨床知識試験の合格基準は平均得点率65%以上である。臨床実習の完了と臨床実習終了時試験、臨床知識試験の合格をもって歯科臨床教育の単位40単位を修得できる。これらはいずれも進級要件である。2018年

12月に、臨床実習後能力試験トライアルが本学で実施され、第5学年全員が「臨床実地試験」と「一斉技能試験」を受験した。

本学のオナズ教育の一環として「グローバル活躍プログラム」を実施した。これは、本学大学院へ進学を希望する意欲ある第5学年の学生にオンライン英会話サービスを使い、外国人との「生きた英会話レッスン」を受講することにより、近年要求される英語での論文発表や、短期海外研修、SCRIPへのエントリーなどグローバルに活躍できる人材の育成を目指している。今回のプログラム費用は45万円で、11名の学生が対象となった。

第6学年は、難化する国家試験に対応するための「総括講義」と「特別講義」や学士試験と本学指定の模擬試験により、成績の向上に努めきめ細かな指導（特別アドバイザーによる弱点の克服方法のフィードバック、ティーチング・アシスタント（TA）による学修補助等）を行った結果、第112回歯科医師国家試験の合格率は、新卒者が80.4%となり全国平均を超えた。なお、本学既卒者についても従来から丁寧な指導を行っている。

＜新卒者合格率＞

【区分】	【合格者数 / 受験数】	【合格率全国平均】
2019(平成31)年3月 第112回	80.4%(78人/97人)	79.4%
2018(平成30)年3月 第111回	82.2%(74人/90人)	77.9%
2017(平成29)年3月 第110回	91.4%(74人/81人)	76.9%

4. 大学基準協会認証評価（大学評価）時の改善勧告・努力課題への対応

2014（平成26）年度の上記大学評価において、歯学部・歯学研究科に対し、改善勧告1件、努力課題として9件の改善報告を求められた。このことについては、自己点検・評価委員会が中心になって関係委員会と一体で改善のための審議を行った。すなわち、改善勧告である教育課程・教育内容に関して、歯学部の新カリキュラム移行後の教育課程や卒業要件単位数等が規則等に定められていなかった点と、単位の計算方法が学則に定められていなかった点について、速やかに「大学学則」と「大阪歯科大学歯学部学業成績評価に関する規程」を改正したほか、努力課題についても改善に向けて努力する旨を基準協会に報告した。

5. 学習環境の整備

各学年について、教員が楠葉学舎及び天満橋学舎の研究室に在室し、学生の質問や相談に応じるオフィスアワーを設けた。

今年度の教務関連機器の更新は、歯科技工用モーター交換、楠葉学舎第7実習室 AV モニター、第4実習室 AV 設備について整備を実施した。

6. 学生生活指導体制

各学年の指導教授、助言教員、特別アドバイザー、教育アドバイザー、大学院生の TA により日々行われている。「学

生カルテ」を活用するとともに、学生には「学習ポートフォリオ」の作成を通じて自己成長を確認させ、適切な助言を行った。特に「育み教育」「寄り添い教育」による支援が必要な学生については、徹底した個人指導を行った。

「ODU ソーシャルコミュニティ」は、態度教育科目の「コミュニケーション」であり、第1学年から第4学年までの全学生の参加が必須である。

朝の挨拶運動は、2015年度から教授を含めた全ての教員が輪番制で、楠葉学舎正門前に立ち、登学する学生に対して行っており、今年度も人間関係の基本である挨拶の重要性を認識させるとともに、学生と教員の信頼関係の構築にも役立った。

学生部委員会では、『学生生活ハンドブック』を作成して全学年に配付し、ホームルームの際にその活用を促した。4月から学生の健康面への配慮として、天満橋附属病院は全面禁煙となった。

近年、若年層への薬物蔓延が深刻化していることを踏まえ、2018年5月に第1学年を対象に大阪府警、枚方署から各1名の特別講師を招き、薬物の危険性について「薬物乱用防止講演会」を開催した。

地震・災害時等の安否確認システム（ANPIC）を2018年12月から導入し、全体的に学生・教職員の状況をリアルタイムで把握することが可能になった。

健康管理については、「医務室」に平日は看護師1名が、また、毎週火・金曜日は医師（非常勤）が在室し学生・教職員への対応を行った。また、楠葉学舎と天満橋学舎の「学生相談室」に専門の臨床心理士（非常勤）を置き、学生の抱える問題に対応した。定期的に学生部長、教務学生課長、臨床心理士及び看護師により、相談内容について共有を図り、解決に向けての協議を行った。

7. 学生スポーツの振興

全日本歯科学学生総合体育大会は、国公立歯科大学・歯学部29校の体育系クラブが参加するスポーツの祭典である。この第50回大会（当番校：神奈川歯科大学）が7月31日から8月9日まで開催され、本学は総合第4位であった。

大学院歯学研究科の改革

大阪歯科大学大学院歯学研究科は、大学院生に歯学・口腔科学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的としている。

そして、入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている。

1. 大学院生の入学者増加策等について

2019年度入試は、定員30名の中、38名の入学者であった。このうち、外国人留学生入学者の13名をはじめ、2016年

度から実施した社会人特別入試での入学者は7名であった。
また、歯科基礎系専攻への志望者を確保する観点から、授業料の半額免除制度を継続し、この制度を利用して4名の基礎系志願者が入学した。

2. 海外学会発表及び学術研究奨励助成金について

大学院生の海外学会発表は、2018年度は8件あり、これに対して74万5,000円の助成を行った。さらに大学院生の研究14件に対しても学術研究奨励助成金として総額で200万円の助成を行った。

3. 研究不正行為防止、公的研究費の管理について

文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン(平成26年8月26日文部科学大臣決定)」に基づき、学内規程は、「大阪歯科大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」「大阪歯科大学における研究データ等の保管等に関する申し合わせ」を運用し、その徹底を図った。研究倫理教育として、「研究倫理講習会」を9月に開催した。また、大学院生には第1学年を対象に「研究倫理」の講義3コマ(1コマ90分)を行った。

公的研究費の管理については、文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づき、毎年度チェックリストを、主任教授会、監事の確認後に同省へ提出している。

4. 大学基準協会認証評価(大学評価)時の改善勧告・努力課題への対応

2014(平成26)年度の上記大学評価において、歯学部・歯学研究科においては、改善勧告1件、努力課題として9件の改善報告を求められた。このことについては、大阪歯科大学自己点検・評価委員会が中心となって各種委員会と一体となって改善のための審議を行った。

改善勧告を付された単位の計算方法が規則等に定められていなかったことについては、すみやかに「大学院学則」を改正し、さらに努力課題について見直しを実施する旨の改善報告を行った。

5. ティーチング・アシスタント、

ポスト・ドクトラルフェロー採用について

ティーチング・アシスタントは、学部学生に対する教育補助として8名を、また、ポスト・ドクトラルフェローは、2名を採用した。

医療保健学部・医療保健学研究科

1. 設置の経緯・趣旨

大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科・口腔工学科は、超高齢社会が必要とする優れた歯科医療人を養成し、口腔の健康を通じて国民が健康で安心して暮らせる社会づくりに貢

献することを設置の趣旨とし、アドミッション・ポリシーを策定した。

医療保健学部が求める学生は、「思いやりの心を持ち、人と温かく接して協調性とコミュニケーション能力に優れ、医療と福祉に高い関心と学習意欲を持ち、社会に貢献できる医療人となるための絶え間ない学習と努力ができる者」とする。各学科においてのアドミッション・ポリシーは以下の通りである。

【口腔保健学科】

口腔の健康に寄与するためには、自己管理ができることが必要である。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、歯科医療の発展のために独創性がある発想を持つことが必要であり、口腔保健学科として次のような学生を求める。

- ・口腔保健学を学ぶための十分な基礎学力を有する人
特に「外国語(英語)」、「数学」、「国語」及び「生物」について高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する人
- ・既存の概念にとらわれず、知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ人
- ・他者の話を聞き、協調して問題に取り組める人
- ・自己の健康管理ができる人
- ・人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある人
- ・口腔の衛生管理に強い関心がある人

【口腔工学科】

口腔の健康に寄与するためには、自己管理ができることが必要である。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、口腔装置の製作技術に優れ発展させるためには科学技術への関心と開発への興味が必要であり、口腔工学科として次のような学生を求める。

- ・口腔工学を学ぶための十分な基礎学力を有する人
特に「外国語(英語)」、「数学」、「国語」、「生物」、「物理」及び「化学」について、高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する人
- ・既存の概念にとらわれず、知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ人
- ・科学技術に関心がある人
- ・他者の話を聞き、協調して問題に取り組める人
- ・自己の健康管理ができる人
- ・人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある人

2. 学生の受け入れ

上記のアドミッション・ポリシーに基づいて、2018年度のオープンキャンパスを実施した。

【2018年】

第1回 3月18日(日)	牧野学舎	91名
第2回 5月27日(日)	牧野学舎	55名
第3回 7月15日(日)	牧野学舎	81名
第4回 7月22日(日)	牧野学舎	130名(入試対策講座開催)
第5回 8月14日(火)	天満橋学舎	119名(附属病院見学)
第6回 8月26日(日)	牧野学舎	82名
第7回 9月24日(月・祝)	牧野学舎	88名(入試対策講座開催)

【2019年】(2020年度の学生募集に向けたもの)

第1回 3月17日(日) 牧野学舎 96名
 以上8回開催し、参加延べ人数は、高校生・保護者を含め742名であった。

そのほか、大阪府・京都府・兵庫県を中心に延べ286校の高校訪問、近畿・中四国を中心に53会場での進学相談会、大阪府・京都府・兵庫県を中心に高等学校87校の入試ガイダンスに参加した。

高等学校の進路指導教諭への入試説明会の開催、さらに受験情報検索サイトへの入試情報の掲載、広報チラシの近畿圏の延べ1,000校を超える高等学校、大阪府歯科医師会、本学歯科技工士専門学校同窓会会員等への送付など積極的に広報活動を展開した。

2019年度入試(2018年度実施)は、インターネット出願を導入し、受験生の利便性の向上を図った。

そして、2019年度医療保健学部入学試験は、入試科目については、一般入試において、歯学部と同様に英語の各種資格・検定試験の結果に基づいて、一定の基準を満たしている場合は、「外国語(英語)」の受験免除制度を実施した。

また、入試の試験場は、一般入試(前期日程)において、東京会場(TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター)、広島会場(TKPガーデンシティ広島)、福岡会場(TKPガーデンシティPREMIUM博多駅前)を設置した。

一般入学試験及び大学入試センター試験利用入学試験において、成績優秀な受験者は、学費の免除措置を実施した。

・口腔保健学科

A種 初年度：入学金を除く学費免除

1年次105万円、2年次以降学費免除105万円×3年
 4年間免除総額420万円、対象者1名

B種 初年度：入学金を除く学費免除

1年次105万円、対象者2名

・口腔工学科

A種 初年度：入学金を除く学費免除

1年次105万円、2年次以降学費免除105万円×3年
 4年間免除総額420万円、対象者1名

B種 初年度：入学金を除く学費免除

1年次105万円、対象者3名

昨年度同様、2019年度入学者で下記に該当する対象者全員の学納金を減免免除することとした。

1) 近畿圏以外在住の入学者

三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山以外の在住者は、初年度の前期・後期授業料より12万円、合計24万円を本来の授業料より減免する。

2) 沖縄県在住の入学者

沖縄県の在住者は、1)の授業料の減免の上、更に入学金の20万円、合計44万円を本来の学費より減免する。

以上、積極的な入試広報活動の結果、医療保健学部の3期目の入学者数は、口腔保健学科77名、口腔工学科は16名となった。

3. 学修への取り組み

医療保健学部では、前記のアドミッション・ポリシーのほか、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを定め、様々な課題解決のため精力的に取り組んだ。

基礎科目として、「キャリア教育」、「教養教育」、「情報教育」、「語学教育」、専門基礎科目として「基礎系口腔科学」、「社会系口腔科学」、専門科目として「臨床系専門教育」、「総合医学教育」、「臨床教育」、「総括教育」の125単位が4年間の要卒単位数である。

歯学部と同様に「ODUソーシャルコミュニティ」と「早期臨床体験学習」も実施している。

「ODUソーシャルコミュニティ」では、医療人としてのボランティア精神を涵養するため、第1、2学年学生と教職員が牧野駅周辺の清掃活動及び地域住民の方々へ朝の挨拶を行った。また、本学附属病院での「早期臨床体験学習」は、第1学年の基礎科目のキャリア教育として、卒業後の歯科技工士、歯科衛生士としての役割の一つである多職種連携へのモチベーションを高めるために大いに役立った。

口腔工学科においては、天満橋学舎に「デジタル技工実習室」を整備し、2019年度から「CAD/CAMシステム」による教育を行うこととなった。

全学生へのタブレットPCの貸与を生かし、学修支援ポータルサイト「A-portal」による最新の授業時間割、試験関係のお知らせの配信、授業用SNS「melly」を使ったタイムラインによる科目担当教員からの注意事項や、学生からの質問受付、課題提出が容易に行えるシステムを最大限に活用した。

学生生活の指導体制として学科・学年別に「指導教授」と「助言教員」が置かれ、学生の学習状況に応じたアドバイスや指導を行った。また、学生支援室を置き、学業だけでなく生活面、健康面など学生生活全般にわたったきめ細かな支援を行った。

オフィスアワーを設けて、学生からの授業に関する質問を受け付ける体制を整備したほか、学生が快適に学習できるように、学生ホール、コンピュータ演習室、図書館牧野分室にそ

れぞれ自習スペースを設けた。

就職、進学に関する支援を行うキャリアセンターでは、2018年度は「キャリアセミナー」において「学ぶこと・働くことの意味」「労働法制セミナー」などを開催した。

4. 学部独自の取り組み

1) 第1回国際口腔保健工学コンソーシアムへの参加

2018年9月、口腔工学科2年生1名が、東京医科歯科大学で開催された『1st Meeting of International Oral Health Engineering Consortium』において、「Learning at ODU so far and in future」というタイトルで発表を行った。

2) 社会連携活動

2018年7月には、枚方市内の小学生を招いての「歯科大わくわくキッズセミナー@まきの」の開催、9月には枚方市イベント「よどがわ防災まつり」への学部学生の参加など社会連携に取り組んだ。

3) 第1回生涯学習セミナー

2018年9月1日に行われた歯科医療関係者向けのセミナーであり、本学医療保健学部教員の講演と、外部講師の京都市南口腔ケアセンター・徳地正純センター長により「地域に求められる在宅歯科医療とは～南口腔ケアセンターの活動より～」と題する講演が行われた。

4) ODU 緊急セミナー

2018年12月15日に「歯科技工士に新たな歯科医療の役割を！」とのテーマで開催された。その中では、これからの歯科技工士のあり方などについて、東京医科歯科大学の鈴木哲也教授の講演の後、5名のパネリストを加えてシンポジウムが行われた。

5. 大学院医療保健学研究科

医療保健学部を基礎とする大学院医療保健学研究科（修士課程：2年）が2017年8月に設置認可となった。同研究科は、高度な専門的知識と技能を持つとともに歯科医療の変革に応じられる歯科医療人、並びに歯科衛生士や歯科技工士の専門性を生かした研究を通じて歯科医療の発展に貢献できる人材を養成して歯科医療の発展と人々の健康の増進に寄与することを目的としている。

入学受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めて学生募集活動を行った結果、2019年度入試では、定員10名を超える12名を確保した。

研究科の教育課程は、基礎科目、専門科目、専門研究の3つの科目群にカリキュラムを分類するとともに74の研究領域を設け、楠葉・牧野・天満橋の3キャンパスにおいて展

開されている。

また、同研究科博士課程の設置準備を行い、学部と大学院を通じた一貫教育体制の構築を目指している。

歯科衛生士専門学校

大阪歯科大学歯科衛生士専門学校は、1968（昭和43）年の開設以来、特色ある歯科医療専門職教育を行い、多くの卒業生を輩出してきた。

2018年度国家試験の合格率は100%であり、求人数は795件、卒業後の進路は全員が決定しており、短期大学への進学者、歯科医院、企業、本学及び本学以外附属病院への就職となっている。

そして、2019年3月31日付で同専門学校は廃止となり、現在、4年制大学・医療保健学部口腔保健学科として新たな展開を進めている途上にある。

国際交流

本学は、従来からグローバル人材の育成に積極的に取り組んでいる。2018年度も下記の日程で学生・教員の活発な交流が行われた。

なお、オープンキャンパスにおいては、「大阪歯科大学の学生国際交流力」という小冊子を配布しており、その際に短期海外派遣に参加した学生が講演を行っている。

・中国昆明医科大学との学生交流協定を締結した。

（川添理事長・学長訪中：2018年5月3日～7日）

・海外協定校等との交流

【受入】

＜期間：2018年7月22日～7月28日＞

上海交通大学口腔医学院（学生5名、教員1名）、南方医科大学口腔医学院（学生5名、教員1名）、四川大学华西口腔医学院（学生5名、教員1名）、北京大学口腔医学院（学生5名、教員1名）、山西医科大学口腔医学院（学生5名、教員1名）、昆明医科大学口腔医学院（学生2名）が来学し、特別講義（英語での講義）、天満橋学舎附属病院、本学OBの運営する歯科医院を見学した。

なお、期間中の2018年7月24日には、The 2nd Forum for International Studentsが本学楠葉学舎において開催された。これは上記のアジア5大学と本学歯学部学生、大学院生の研究発表を全て英語で行うフォーラムである。

中国6大学学生・教員、本学歯学部第1学年学生、医療保健学部学生、大学院生、歯科衛生士専門学校生徒、本学教職員合わせて425名が出席した。

（上記受入研修は、一部日本・アジア青少年サイエンス交流事業の助成金を使用している。）

<期間：2018年12月8日～12日>

四川大学華西口腔医学院 学生2名、教員1名が来学した。

<期間：2018年12月10日～14日>

シドニー大学歯学部 of 学生5名が来学した。

本学教員による特別講義のほか、本学OBの運営する歯科医院、歯科材料企業の見学が行われた。

【派遣】

<期間：2018年7月8日～20日>

四川大学華西口腔医学院

参加学生：3名（5年1名、3年2名）、引率教員1名

<期間：2018年8月18日～27日>

シドニー大学歯学部

参加学生：6名（4年3名、3年3名）、引率教員1名

<期間：2018年8月18日～24日>

南方医科大学口腔医学院

参加学生：5名（4年1名、3年2名、2年2名）、引率教員1名

<期間：2018年8月18日～24日>

台北医学大学口腔医学院

参加学生：6名（1年）、引率教員1名

<期間：2018年8月18日～24日>

山西医科大学口腔医学院

参加学生：3名（2年2名、1年1名）、引率教員1名

<期間：2019年3月9日～19日>

コロンビア大学歯学部

参加学生：7名（5年）、引率教員1名

<期間：2019年3月26日～29日>

ゼンメルヴァイス大学歯学部

参加学生：大学院生1名

・日中友好大学生訪中団（中国・北京）3年3名を派遣した。
（期間：2018年8月26日～31日）

・院長等の来学

山西医科大学口腔医学院 教員 4名

（期間：2018年4月3日～6日）

南方医科大学 教員 5名

（期間：2018年4月13日）

四川大学華西口腔医学院 教員 4名

（期間：2018年6月4日）

カーディフ大学 教員 3名

（期間：2018年8月31日）

広東省日本歯科考察団 中国歯科医師 25名

（期間：2018年10月19日）

山西医科大学口腔医学院 教員 7名

（期間：2018年12月9日～11日）

山東省済南行政職業学院等 教員等 6名

（期間：2019年1月24日）

浙江大学 教員 8名

（期間：2019年3月27日）

社会連携・社会貢献

・枚方市との連携事業への参画

枚方市と枚方市所在の5大学との地域連携を図るため設置されている「学園都市ひらかた推進協議会」の第18回目の会合が、2018年6月11日に枚方市役所において開催された。協議会では「中高生を対象とした大学体験事業」、「こども大学探検隊」、「ひらかた市民大学」などの生涯学習講座について、これらを実施していくことが確認された。

本学においては、下記の連携事業が開催され、地域に開かれた大学として市民に開放した。

【中高生を対象とした大学体験事業】（2018年9月17日）

楠葉学舎において、学生スタッフによるキャンパスツアー、入試概要説明、在学生による学生生活や短期海外留学体験報告などを行い、本学の魅力をアピールした。（受験生向けオープンキャンパス2018と併催）

【こども大学探検隊】（2018年10月27日）

枚方市内在住・在学の小学生（4年生～6年生：定員40名）が、楠葉学舎において、本学学生有志が運営スタッフとなり、大学生によるクイズと動物の歯型による歯の勉強を行った。（楠葉祭（文化祭）と同時開催）

【ひらかた市民大学】（2018年10月27日）

楠葉学舎3号館の大学院講義室において、本学教員が「そのいびきZZZ睡眠時無呼吸症かもしれません！」をテーマに講演を行った。

枚方市が推進するもうひとつの連携事業である「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」については、今年度も本学公開講座と共催事業として開催された。なお、本学附属病院医員が「健康医療キャラバン事業」に参画している（後掲）。

枚方市の審議会（環境審議会、健康増進計画審議会）、委員会（保健所運営委員会）へ本学から教員を派遣し、市政に協力している。

・枚方産学公連携プラットフォーム

枚方市所在の四大学（関西医科大学、摂南大学、大阪工業大学、本学）、枚方市、北大阪商工会議所及び資生堂ジャパンとの間で枚方産学公連携プラットフォームに関する協定を締結した。枚方市の重点課題の克服に向けた方策の検討、四大学共同での入試説明会、地域の高等教育の発展に関するシンポジウムの開催、連携団体の共同事業の企画立案、外部資金の獲得に向けた検討を行い、次年度以降も重点的取り組みとして推進していく。

・第26回大阪歯科大学公開講座

本学の恒例事業となっている公開講座は、「歯科からの全身健康へのアプローチ - 認知症予防、よい睡眠 -」とのメインテーマで、外部機関から1名（松本一生氏・松本診療所ものわすれクリニック院長）、本学教員1名が講師を務め開催した。天満橋（9月8日、15日）・楠葉（2019年2月16日、23日）両講座の延べ受講者は722名を得て好評であった。

・高大連携の取り組み

大阪聖母学院中学校・高等学校（現・香里ヌヴェール学院中学校・高等学校）と本学は、2016年9月に「教育の連携協力に関する協定」を締結した。

2018年10月4日に、本学細菌学講座の担当で同高校第1学年スーパーサイエンスコースの生徒24名を対象に、「あなたの虫歯菌、歯周病菌を観察しよう」というテーマで実習に挑戦した。

外部資金による教育研究の進展

1. 外部資金の獲得状況

平成30年度の文部科学省・日本学術振興会の科学研究費を含む外部資金の獲得状況は以下のとおりであった。

○平成30年度科学研究費補助金（新規＋継続）

基盤研究（B）	2件
基盤研究（C）	40件
若手研究（B）	18件
研究活動スタート支援	4件
合計	64件
補助金交付額	直接経費 8,146万円
	間接経費 2,439万円
合計	1億 585万円

○労災疾病臨床研究補助金事業（厚生労働省）

（分担） 1件 50万円

○平成30年度日本・アジア青少年サイエンス交流事業実施補助金

（国立研究開発法人科学技術振興機構（JST））

347万9,340円

○平成30年度私立大学等経常費補助金

（日本私立学校振興・共済事業団）

3億2,001万4,000円（一般補助＋＊特別補助）

（うち特別補助は2,364万9,000円）

＊特別補助の項目

- ・社会人の組織的受入れ（正規学生としての受入れ）
- ・大学等の国際交流の基盤整備（海外からの学生の受入れ、海外からの教員の招へい、学生の海外派遣、大学等の教

育研究環境の国際化）

- ・大学院等の機能の高度化（大学院における研究の充実（女性研究者支援）、研究施設運営支援（中央歯学研究所））
- ・授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実（卓越した学生に対する授業料減免等（本学特待生制度））

○平成30年度歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業委託費（厚生労働省） 8,194万3,000円

○平成30年度臨床研修費等補助金（歯科医師）

（厚生労働省） 7,839万円

研究に関すること

1. 科学研究費の獲得に向けた取り組み

平成31年度文部科学省科学研究費助成事業への申請及び採択件数の増加促進のための説明会を10月2日、3日の2回開催した。

2. 知的財産関係

2018年度は、発明届受付2件、特許出願2件、特許登録1件であった。

3. 医の倫理委員会（委員長：附属病院長）関係

7月に「人を対象とする医学系研究に関する講習会」を開催した。

4. 実験安全管理について

2018年8月、2019年9月には「組換えDNA実験安全講習会」を開催した。

5. ヒトES細胞の使用に関する規程の施行について

本学におけるヒトES細胞を使用した基礎的研究が行われるに当たり、「ヒトES細胞の分配及び使用に関する指針」（文部科学省指針）に基づき、生命倫理上の観点から遵守されるべき基本的な事項を新たに規程として整備した。施行年月日は、2019年2月28日付である。

6. 大阪歯科大学学術リポジトリの開設と教育研究業績の公開について

文部科学省が推進する学術情報の公開については、学術リポジトリにより、学位論文内容要旨及び審査結果の要旨は学位授与後3ヶ月以内に、また、学位論文全文は、学位授与後1年以内に掲載した。また、『大阪歯科大学教育研究論文目録』を刊行し、その内容を本学ホームページ（大学トップ＞大阪歯科大学について＞研究室紹介）に掲載した。

7. セレッソ大阪スポーツクラブとの連携研究について

この連携研究は、一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラ

ブと推進するもので、「スポーツと歯科医学の関係性を具体的なデータに基づき共同研究を推進し、口腔環境とフィジカルパフォーマンスとの関連を明らかにする」ことを目的にしている。現在、本学附属病院において所属選手の長期的な健康データを蓄積している段階である。

8. 臨床ゲノム医療学会大阪学術大会について

2019年12月9日に、本学（大会長：川添理事長・学長）の主管で開催された。大会には、臨床ゲノム医療学会理事長の渥美和彦・東大名誉教授をはじめ、井村裕夫・京都大学名誉教授、松浦成昭・大阪国際がんセンター総長、高橋政代・理化学研究所・網膜再生医療研究開発プロジェクトリーダー、白澤卓二・お茶の水健康長寿クリニック院長、熊ノ郷淳・大阪大学大学院医学系研究科教授、福沢嘉孝・愛知医科大学教授など多数を講師に迎え、本学教員等434名の参加で白熱した議論が展開された。

テーマは、「先制医療としてのゲノム予防医学・歯学への展開'2018～ゲノム歯科医は、マーナ（mRNA）検査で病気を入口・口腔で止める～」であり、名誉大会長基調講演1題、特別基調講演1題、特別講演5題、教育講演8題、ランチョンセミナー1題であり、本学教員、大学院生を中心にポスター発表は24題を数えた。

今後の展望としては、本学におけるゲノム研究の充実はもとより、先制医療としてのマーナ検査の本学附属病院での診療面への導入が期待される。

9. 枚方市内 三学校法人連携包括協定について

平成31年1月、学校法人関西医科大学、学校法人常翔学園及び本法人の三学校法人により学術及び教育・研究の一層の充実を図るとともに、地域社会と国際社会の発展に貢献するため、連携・協力を行うこととした。

10. 枚方市内・三大学による医歯薬に関する学術・研究の連携協定について

平成31年3月、関西医科大学、摂南大学及び本学の三大学により、相互に連携協力し、世界水準の産学連携総合研究拠点を整備する目的で協定書を締結した。

附置施設の活動

【図書館】

本学図書館は、楠葉学舎に本館、天満橋学舎、牧野学舎に分室を置き、利用サービスの充実を図った。教育研究活動及び学生の自学自習のために必要な図書、学術雑誌、電子媒体を備えた。

・蔵書冊数	182,438冊（前年度比 0.2%増）
・受入資料冊数	3,683冊（前年度比 28.6%増）
・電子ジャーナル（購入のみ）	5,212冊（前年度比 0.9%増）

楠葉学舎本館、天満橋分室において、試験期等の期間を定めての休日特別開館、情報提供サービス（医学中央雑誌Web版、電子ジャーナル等）を継続実施した。

学術ジャーナル評価データベース（Journal Citation Reports(JCR)）の導入を実現した。

学内利用者向けオーダーメイド講習会（図書館職員によるカスタム講習会）を開催した。

設備関係では、楠葉学舎本館2階のブラウジングコーナーに歯学部第66回卒業生から回転式書架の寄贈を受けた。また、同3階利用者用PC机フラット化工事、図書館システムリプレースを行った。インターネット環境整備として、本館にiPad10台、ノートPC3台を追加した。天満橋分室ではiPad3台の貸出を開始し、牧野学舎分室において利用者用PC3台を増設した。

【中央歯学研究所】

口腔科学分野に必要な10の実験施設と中央材料室があり、単独の講座・教室で維持することがむずかしい実験機器を多数設置し、本学の研究の中核施設としての役割を担っている。なお、この施設における研究業績については、毎年刊行している『中央歯学研究所報』に掲載している。教育研究用機器備品（クリーンベンチBH900-UVAD、軟X線撮影装置デジタル化、全自動磁気分離装置、スパイラルプレーター EDDY JET2一式）を整備した。

本学教員を講師に中央歯学研究所講演会を9月3日、11月28日、2月25日の合計3回開催した。

・演題『“Stomatology”「口腔科学」への再挑戦』

日時：2018年9月3日（月）17:00～18:00

・演題『自分の臨床研究に適した尺度を開発してみよう！』

日時：2018年11月28日（水）16:00～17:00

・演題『顎変形症治療に関わって』

日時：2019年2月25日（月）16:30～17:30

【教育情報センター】

本学全体におけるネットワーク機器更新・交換、ソフトウェアのバージョンアップ、既存インフラの維持及び運用管理を行った。

ODUnet（大学系システム、病院系システム）の運用管理のほか、学内ホームページには、頻繁にセキュリティ情報を発信し、利用者への注意を喚起した。

私立大学情報教育協会の会員校として、本学教員が委員会運営に参画するとともに、協会の調査研究事業や各種研修会へ積極的に参加し、日進月歩で変化する情報教育の状況を把握し、教育改善に資する情報提供に努めた。

機器の更新として、VPN装置（機器備品:SSL-VPN）、天満橋・楠葉学舎間ルータ、ファイアウォール、セキュリティ対策ソフトの更新を行った。

教員力の向上

1. 教員の資質向上への取組み

教員の資質向上への取組みとしてのファカルティ・ディベロップメント（FD）セミナーについては、下記の内容で外部講師を招聘するなどし、合計7回開催した。会場は本学天満橋学舎創立100周年記念館である。

・第1回：5月1日（火）17：00～18：00

テーマ：2018年度（H30年度）歯学系 CBT 問題公募要領と問題作成のポイント

講師：本学教員2名（前田教授、梅田教授）

出席者数：166名

・第2回：6月14日（木）18：00～19：00

テーマ：成人教育学に基づいた授業（教授方法）の実践

講師：藤本眞一 教授（奈良県立医科大学）

出席者数：153名

・第3回：10月12日（金）17：00～18：30

テーマ：シラバス作成について

講師：齊尾恭子 准教授（大阪電気通信大学）

出席者数：157名

・第4回：10月15日（月）17：00～18：30（SD合同）

テーマ：アウトカム基盤型教育とアクティブラーニングの実践

講師：泉美貴 教授（昭和大学医学部）

出席者数：170名

・第5回：10月18日（木）17：10～18：30

テーマ：厚生労働行政と地域包括ケアの推進

講師：厚生労働省 近畿厚生局

護邦英俊 医事課課長、

河本慶子 医事課上席地域包括ケア推進官

吉森茂文 地域包括ケア推進課課長

出席者数：199名

・第6回：11月6日（火）17：00～18：30

テーマ：大学の生き残り戦略

～ブランド化・社会連携・グローバル化～

講師：肥塚浩 教授（立命館大学）

出席者数：185名

・第7回：12月5日（水）17：00～18：30

テーマ：コミュニケーションの心理学

講師：吉川左紀子 教授（京都大学）

出席者数：185名

2. 教員任用関係諸規程の改正

教員の研究業績向上を図るため「教員任用規程」「教員候補者資格審査に関する申し合わせ」「任期制教員の再任用基準に関する申し合わせ」をそれぞれ2019年2月20日付で改正した。

3. 教員評価の実施について

教員評価は、「大阪歯科大学教員評価実施規程」に基づいて実施した。評価領域は、教育活動、研究活動、臨床活動、学内・社会活動の4領域であり、教員の諸活動の活性化と高度化や、任期制教員の業績、能力判定等の資料、教員に対する諸活動の改善及び指導に活用している。

授業評価については、授業担当者に授業改善策の提出を義務付けている。なお、「IR情報」として、「授業評価アンケートの集計結果」をホームページに公開した。

4. 大阪歯科大学大学院ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程の制定

2019年3月28日付で、大学院歯学研究科及び医療保健学研究科教員を対象としたファカルティ・ディベロップメント（FD）、教職員を対象としたスタッフ・ディベロップメント（SD）を推進するため委員会を設置した。

施設・設備の整備

2018年度においては、大阪府北部地震、台風21号の自然災害の被害により施設の破損による修理工事が頻発した。

楠葉学舎（面積：33,378.47㎡）においては、1号館空調設備更新工事、1号館、2号館トイレの改修（ウォシュレット設置）工事、エアコン更新工事を行った。

牧野学舎（面積：49,985.33㎡）においては、グラウンド防球ネットの修理工事、1号館3階空調改修工事、2号館階段教室改修工事、守衛室・自転車置場設置工事などを行った。

天満橋学舎（面積：5,729.08㎡）においては、南館が1960年、西館が1973年、本館が1997年の建設であり、建物の補修、設備の取替を計画的に実施した。西館エレベーターリニューアル工事のほか、施設・設備の老朽化に伴う各種補修工事を実施した。

附属病院の取り組み

本学附属病院では、患者の方々へ懇切丁寧な医療を提供して地域社会への貢献を図るとともに、臨床実習を中心とした歯科医学の教育研究を充実させることを目的として、日々の業務に取り組んでいる。そのために「病院理念」においては、「患者さまの病に共感し、あたたかい医療を提供する」ことを理念として掲げ、さらに安全・安心な医療に努め、良質な高度な先進的医療を提供し、口腔保健の向上に努め、健康増進と長寿に貢献し、人権を尊重し、公正な医療を行い、さら

に人間性豊かな、優れた医療人を育成することを基本方針として示し、これらの理念と基本方針を踏まえて2018年度も附属病院に与えられた使命を全うしてきた。

設備的には密閉式自動固定包埋装置・パラフィン包埋ブロック作製装置、Aadva スキャン D2000、ジェットウォッシャー洗浄装置、画像ファイリング・レポートシステム等の機器の新規導入や更新を実施し、さらに電子カルテシステムでの機能の追加等も行っており、診療支援システムの拡充を図った。

また、附属病院の建物の竣工は南館が1960年、西館が1973年、本館が1997年であり、それぞれ相応の年数を経ているものの、日々の診療や教育・研究等に支障を来さぬように建物の補修、設備の取替を計画的に実施してきた。

1. 附属病院組織改革委員会の取り組み

2016年4月から、理事会のもとに法人関係委員会である附属病院組織改革委員会（以下「改革委員会」）を設置し、患者数増加を第一の目標として取り組みを行ってきた。

改革委員会では、毎月の来院患者数目標達成状況等の検討資料を確認してきたが、同時にそれらは附属病院の全診療科長（臨床系講座主任教授及び診療科責任者）が出席する病院運営委員会にフィードバックして、診療科主体の経営改善の重要な資料となることも目途とされており、毎月の同委員会では病院長提言として改革委員会での議論が報告され、附属病院の現状についての共通認識のもと、改善への協力要請が行われているものである。

特に2018年度の改革委員会では、(1) 患者数・延べ患者数の増加、(2) 診療時間の延長、(3) 「診療分野教員」の増員、(4) 自費診療の増加、(5) 訪問・在宅診療への積極的参入、(6) 新診療部門の開設等の喫緊の課題が活発に議論され、速やかな実施に向けた取り組みが行われた。

人事的には診療に携わる臨床系講座の教員を「教育部門」と「診療部門」に区分し、診療部門に特化された教員を中心に診療収入増に向けて取り組んでいく方向性が示された。

また、近年睡眠時無呼吸の患者に対し、口腔内装置が保険収載されるなど、歯科的アプローチの有用性が評価され、当院においても受診者が増えていることを踏まえ、改革委員会での議論を経て、2017年9月に新たな専門外来として、「睡眠歯科外来」を開設した。さらに2019年度からは内科において「睡眠時無呼吸外来」を開設し、医科歯科連携での診療体制を確立し、患者数・医療収入の増加を目指すべく協議が進められている。

一方、診療・受付時間についても、改革委員会での協議を踏まえ、2019年1月から午前の診療時間と初診・再診受付時間を30分延長し、患者がより一層受診しやすい環境を整えることとした。

2. 2018年度患者数・医療収入等

2018年度の開院日数は241日であったが（土曜日診療含めず）、医療収入は19億4741万6000円であり、外来延べ患者数は259,844人で1日平均は1,062人であった。なお、歯科外来だけでみると来院患者数は244,628人となり、1997年の新病院開院以来で最多となった。

一方、矯正歯科と小児歯科で行っている土曜日診療は2018年度においては累計患者数が7,269人で前年度より10.6%も増加しており、高い評価を得ているものと思量され、今後も継続していくこととしている。

3. 病院情報システム（電子カルテ）について

眼科を除く全診療科で電子カルテが導入されているが、患者の診療情報には各科で撮影したデンタルフィルムや外部医療機関からの紹介状等の電子データとして統合できないものが依然として含まれている。それらは患者フォルダに紙媒体を中心とした資料として保管され、診療時には従前の院内カルテ搬送システムを使用して担当医まで届けられるようになっている。そして、このカルテ搬送システムの維持・管理には相当なコストを要している。

そこで、2018年度より、各科のデンタル撮影のデジタル化を図り、病院全体の電子カルテ化を推進することを目途とし、2018年度は本館7階から10階までの診療科でのデジタル化を実施したため、電子カルテ上でデンタル画像を閲覧することが可能となった。今後もデジタル化を進める予定であり、カルテ搬送システムの運用を終了できる環境を整えつつある。

4. 歯科医師の派遣、訪問歯科診療

社会福祉法人阪神福祉事業団センター診療所、日本放送協会（大阪放送局）へ医員派遣を行い、地域医療の体制確保に寄与することができた。

一方、従前より国家公務員共済組合大手前病院（大阪市中心区）、及び関西電力病院（大阪市福島区）への歯科訪問診療を実施しており、入院患者の周術期口腔機能管理等の医療を提供してきたが、2018年6月28日に本法人が大阪府下の約200の介護老人保健施設が加盟する公益社団法人大阪介護老人保健施設協会と連携協定を締結したことを踏まえ、今後はこのような介護老人保健施設への訪問診療を拡充し、地域包括ケアシステムに貢献していく責を担うこととなった。そこで次年度以降、当院として歯科訪問診療を如何に推進していくかを検討していくこととした。

5. 歯科医師臨床研修

2018年度の研修修了者は単独型と複合型を併せて102名であり、研修歯科医を受け入れた研修協力施設は51施設であった。また、交付された臨床研修費等補助金は7,839万円であった。

下表に2014年度から2018年度までの当院の研修歯科医受入人数を示す。

▼ 研修歯科医受入数（人）

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
単独型	22	18	22	16	16
複合型	68	70	84	81	87
計	90	88	106	97	103

6. 健康セミナーの開催

当院では患者だけではなく、一般市民の参加も念頭に置いて健康セミナーを 2017 年 8 月からおおよそ 1 回の頻度で開催しており、本年度も当院の特色を活かしたテーマと内容で実施してきた。テーマ等にもよるが、参加者は概ね増加傾向にあり、多くの聴衆の好評をいただいているものと思われる。今年度開催分のテーマを附記する。

< 2018 年 >

- 4 月 20 日（金）第 9 回「顎関節症“口があきにくい”
- 5 月 11 日（金）第 10 回「歯で味わう『おいしさ』
- 6 月 29 日（金）第 11 回「歯医者さんが怖い人、えづいてしまう人へのスペシャルニーズ歯科」
- 7 月 27 日（金）第 12 回「義歯患者さんに知っておいて欲しいこと - 取り扱いから全身の健康まで -」
- 8 月 24 日（金）第 13 回「病気になる前に歯科治療」
- 9 月 21 日（金）第 14 回「子供の口腔習癖について」
- 10 月 19 日（金）第 15 回「私もインプラントできますか？
- 大学病院だからできること -」
- 11 月 30 日（金）第 16 回「健康は健口から
- 健口は口腔リハから -」
- 12 月 7 日（金）第 17 回「歯周病と 8020
- 健康な歯周組織を目指して -」

< 2019 年 >

- 1 月 18 日（金）第 18 回「歯医者嫌いをなくす怖くない・痛くないむし歯治療」について
- 2 月 22 日（金）第 19 回「入れ歯安定剤の話」
- 3 月 22 日（金）第 20 回「シニア世代の食事と歯の役割」

7. 病診連携講演会・懇談会

従前より病診連携講演会・懇談会を毎年実施してきたが、2018 年度で 16 回目となり、2019 年 2 月 9 日（土）に開催した。テーマは「睡眠時無呼吸症に対する歯科的アプローチ - 睡眠歯科外来について -」であった。

本院は毎年約 2,700 の医療機関からの患者紹介を受けている。2018 年に紹介された新患者数は 1 万 822 人で、紹介患者率は約 48% になっていることを重視し、今後もこのような医療機関との連携を確保するためにも本事業を継続していくこととしている。

8. 地域医療連携

・地域歯科医療の中核として、2018 年度も引き続き地域の歯科診療所等の先生方からの CT、MRI、コーンビーム CT 等の画像診断及び病理組織検査を積極的に受け入れ、近隣医療機関の支援に寄与してきた。特に関西医科大学天満橋総合クリニックからの MR 検査依頼はその件数だけでなく、高額な検査故に年間 1,100 万円ほどの収益を得ていることも鑑み、継続して連携体制を維持していくこととしている。

・「大手前病院・大阪歯科大学附属病院協力医療機関定例連絡協議会」を 3 ヶ月に 1 回の頻度で開催し、その連携・協力体制をするとともに、当院からの歯科訪問診療の機会を確保している。また、施設基準「感染防止対策加算 2」の届出に当たっては、要件となる院内感染防止に係る病院との連携を大手前病院との間で締結している。同様に大手前病院と連携しているコープ大阪病院と共に年 4 回の合同カンファレンスを開催するなど、院内感染防止の向上に努めている。

・枚方市との連携事業である「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」については、健康・医療等に関する学習機会を提供することを目的とした「健康医療キャラバン事業」として、7 月 3 日に附属病院総合診療科医員が、大阪府立むらの高等支援学校で、「歯磨き・口腔ケアに関する講座」を開講し、1 年生 30 人が受講し好評を博した。

9. 院内感染対策講習会、医療安全講習会、医薬品安全管理講習会、医療機器安全管理講習会

2018 年度は下記の日程で開催し、多数の教職員を受講させ、当院の医療安全と院内感染対策の一助とした（（ ）内は受講者数）。

・院内感染対策講習会

- 4 月 4 日「医療安全講習（院内感染対策①）」（103 名）
「医療安全講習（院内感染対策②）」（103 名）
- 4 月 12 日「歯科領域で行われるべき環境整備とは？
～清掃事業者の視点から～」（207 名）
- 4 月 16 日「中央手術室オリエンテーション」（73 名）
- 5 月 17 日「楽しく学ぶ細菌学」（202 名）
- 10 月 2 日「冬の感染症 - インフルエンザ - 対策
～今年度のインフルエンザ予防接種の日程について～」（132 名）

< 2019 年 >

- 3 月 7 日「歯科診療における院内感染対策と義歯修理における消毒について」（115 名）
- 3 月 13 日【DVD 講習】標準予防策（Standard Precaution）の重要性（31 名）

・医療安全講習会

- 4月2日「医療安全講習①（概論）」（103名）
「医療安全講習②（救急蘇生）」（103名）
- 4月4日「薬物に対する正しい知識」（103名）
- 4月16日「中央手術室オリエンテーション」（73名）
- 5月30日「医療現場のコミュニケーション 一人一人が
医院の顔」（142名）
- 6月26日「最近の医療安全のトピックス」（168名）
- 7月12日「医療ガスの安全管理について
－ヒヤリ・ハットを防ぐために－」（158名）
- 10月17日「医療安全推進
－病院スタッフが心がけるべきことは？－」（110名）
- 12月18日・20日「改正個人情報保護法とICT環境下
におけるリスクマネジメント」（12/18：91名、12/20：46名）

・医薬品安全管理講習会

- 4月2日「医療安全講習（医薬品①）」（103名）
「医療安全講習（医薬品②）」（103名）
- 2月5日・7日「最近の医薬品情報より
－医薬品の適正な使用に関して－」（2/5：132名、2/7：88名）

・医療機器安全管理講習会

- 4月2日「医療安全講習（医療機器①）」（103名）
「医療安全講習（医療機器②）」（103名）
- 3月28日・29日「補綴装置製作におけるCAD/CAM機
器 / 材料の取り扱いについて」（3/28：96名、3/29：66名）

なお、医療機器を更新した部署においてはそれぞれ当該機器等に係る操作説明を目途として計4回の講習会を実施している。

10. 大阪歯科大学歯科衛生士研修センターの発足について

本学は、平成30年度歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業の実施団体に選定された。これに伴い2018年10月、その拠点として本院内に「大阪歯科大学歯科衛生士研修センター」が発足した。

10月8日には、当該事業の開始にあたり「キックオフセミナー」を開催し、東京医科歯科大学の水口俊介教授をはじめ各方面から講師を招き講演が行われた。そして、12月から第1期生に対する本格的な研修がスタートし、2018年12月から2019年2月にかけて基礎研修、臨床研修のプログラムを受講した後、第1期生15名を修了させることができた。

11. 本院ホームページのリニューアルについて

建学の精神である「博愛」と「公益」、「病院理念」の具現化を柱に、本院関係者と広報委員会を中心に、患者の方々のニーズに対応したきめ細かな情報提供と健康増進に寄与することを目的として、附属病院ホームページのリニューアルに着手することとなり、2017年度にリニューアルを完了した本学のホームページのユーザビリティと意匠を基調に2019年度中の公開を前提に検討を進めた。

法人・大学の管理運営

本学は、前年度に引き続き、限られた収入の中から教育・研究・臨床の各活動の活性化に努めるとともに、人材育成、施設設備の整備、業務改善を進めた。

- ・働き方改革を推進することを目的に就業規則関係の改正を行った。
- ・大学ホームページを充実させ、本学の特色について広報活動を活発に行った。また、大学公式フェイスブックを随時更新し、ステークホルダーのニーズを的確に把握するように努めている。
- ・環境省が推進しているクールビズ、ウォームビズを本法人理事会決定で実施し、夏季及び冬季の省エネルギー意識の高揚に努めた。
2018年8月には、私立大学環境保全協議会夏期研修研究会の会場校を務め、本学理事長・学長及び関係教職員が各種講演・分科会に参加し、大学における環境保全・廃棄物対策の知見の吸収に努めた。
- ・学内諸会議のペーパーレス化の一環として、大学・楠葉学舎に続き、天満橋学舎附属病院においても次年度に向けてiPadペーパーレス会議システムの導入を検討した。
- ・人材育成について、職員のSDが大学設置基準で義務化されたことを受けて「大阪歯科大学SD実施方針」を定めている。教職員全員を対象に2019年1月には、理事長・学長により本学の目指す重点計画（2019年度事業計画を含む）についてSDを行った。
- ・教職員に対する人権意識向上の一環としての「人権講演会」は、本学人権教育室教員により、2018年8月に「大学教育における障害のある学生の支援事例について」と題して開催した。

【附属資料】

1. 2018年度学生数（2018年5月1日現在）（ ）は女子

歯学部	第1学年	133	(72)	歯学研究科	第1学年	28	(11)
	第2学年	133	(66)		第2学年	33	(12)
	第3学年	130	(60)		第3学年	29	(6)
	第4学年	147	(62)		第4学年	21	(5)
	第5学年	137	(69)			111	(34)
	第6学年	159	(60)				
		839	(389)				

医療保健学部	第1学年	口腔保健学科	79	(77)	口腔工学科	18	(9)
	第2学年	口腔保健学科	41	(41)	口腔工学科	9	(2)
			120	(118)		27	(11)

医療保健学研究科	第1学年	14	(11)
----------	------	----	------

歯科衛生士専門学校	3年	41	(41)
-----------	----	----	------

2. 第112回歯科医師国家試験の結果 2019年3月18日合格発表

	(総 数)			(新 卒)			(既 卒)		
	受験者数	合格者数	合格率%	受験者数	合格者数	合格率%	受験者数	合格者数	合格率%
本学	184	113	61.4	97	78	80.4	87	35	40.2
全国	3,232	2,059	63.7	2,000	1,587	79.4	1,232	472	38.3

3. 2019年度入学試験状況

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数	入学者数
歯学部	推薦	68	45	128
	一般前期	269	60	
	一般後期	132	7	
	センター前期	129	3	
	センター後期	45	3	
	プラス1前期	103	7	
	プラス1後期	40	3	
	外国人留学生	0	-	
	編入前期	9	5	6
	編入後期	4	2	

1

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数	入学者数
口腔保健学科	推薦A	45	38	77
	推薦B	9	9	
	推薦	20	20	
	一般前期	28	16	
	一般後期	6	6	
	センター前期	16	5	
	センター後期	3	1	
	社会人特別	0	-	
	婦国生特別	0	-	16
	外国人特別	0	-	
口腔工学科	特別	3	3	
	編入	0	-	
	推薦A	7	7	
	推薦B	1	1	
	推薦	7	7	
	一般前期	5	4	
	一般後期	1	1	
	センター前期	2	1	
	センター後期	1	0	38
	社会人特別	0	-	
歯学研究科	婦国生特別	0	-	
	外国人特別	2	2	
	特別	0	-	
	編入	0	-	
	一般一次	10	7	
	一般二次	12	7	
	一般三次	4	4	
	社会人特別一次	5	5	12
	社会人特別二次	2	2	
	外国人留学生特別選抜	13	13	
医療保健学研究科	一般一次	3	3	
	一般二次	4	4	
	一般三次	1	1	
	一般三次	3	3	
	一般三次	1	1	
	一般三次	3	3	
	一般三次	1	1	
	一般三次	1	1	
	一般三次	1	1	
	一般三次	1	1	

2

- 大学院医療保健学研究科開設 2018年4月1日
- 2017年度会計実査 2018年4月3日（火）
- 大学歯学部・大学院歯学研究科入学式 2018年4月4日（水）午前10時（於：橘葉学舎）
- 大学医療保健学部・大学院医療保健学研究科入学式
2018年4月4日（水）午後2時（於：橘葉学舎）
- 新入生研修
・歯学部 2018年4月5日、6日（於：橘葉学舎）
・医療保健学部 2018年4月5日、6日（於：牧野学舎）
- 2018年度FDセミナー（本文参照）
- 2017年度監事監査 2018年5月14日、15日（於：橘葉学舎）
- 解剖体慰霊祭 2018年5月18日（金）午後1時（於：四天王寺）
- 歯学部父兄会・共済会総会（於：橘葉学舎）
2018年6月30日（土）午後1時 父兄出席者数283名
- オープンキャンパス
1）歯学部オープンキャンパス（於：橘葉学舎、第2回のみ天満橋学舎）
・第1回 2018年7月16日（月）220名参加（うち、学生103名）
・第2回 2018年8月13日（月）144名参加（うち、学生70名）
・第3回 2018年9月17日（月）175名参加（うち、学生95名）
2）医療保健学部オープンキャンパス（本文参照）
- 第50回全日本歯科学生総合体育大会（当番校：神奈川歯科大学）
2018年7月31日（火）～8月9日（木） 本学は総合第4位
- 2018年度人権講演会
2018年8月29日（於：100周年記念館）
テーマ「大学教育における障害のある学生の支援事例について」講師：人権教育室 李嘉永講師
- 第26回公開講座（本文参照）

3

- 第6学年父兄会 2018年9月29日（土）午後1時30分（於：100周年記念館）
- 2018年度大学祭（テーマ：TRY ～50steps～）
・体育祭 2018年10月20日（土）（於：牧野学舎）
・文化祭 2018年10月27日（土）、28日（日）（於：橘葉学舎）
- 解剖体慰霊祭 2018年11月1日（木）午後2時（於：橘葉学舎）
- 実験動物慰霊祭 2018年11月16日（金）12時35分（於：橘葉学舎講堂）
- 2018年度防災・防火訓練 橘葉学舎 2018年12月3日（月）
牧野学舎 2018年12月11日（火）
天満橋学舎 2018年12月14日（金）
- 第8回臨床ゲノム医療学会大阪学術大会（本文参照）
- ODU研究セミナー「歯科技工士に新たな歯科医療の役割を！」（本文参照）
- 共用試験2018 歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験トライアル
・臨床実地試験 2018年12月21日（医療系大学間共用試験実施評価機構視察者等来学）
・一斉技能試験 2018年12月22日
- 2018年全学教職員忘年慰労会 2018年12月28日（於：天満橋学舎）
- 2019年新年互礼会 2019年1月7日（於：橘葉学舎）
- 教授定年退職記念講演会 2019年2月11日（於：100周年記念館）
今井弘一主任教授（14：10～）、竹村明道主任教授（14：55～）、西川哲成専任教授（15：40～）
- 2018年度共用試験歯学系CBT及びOSCE
・CBT 2019年2月26日（火）午前9時30分（於：橘葉学舎）
・OSCE 2018年3月17日（日）午前9時（於：天満橋学舎）
- 2018年度卒業式並びに大学院学位認証式
2019年3月8日（金）午前10時（於：橘葉学舎）
- 2018年度歯科医師臨床研修修了証授与式 2019年3月26日（於：天満橋学舎）

4

31. 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校廃止 2019年3月31日
32. 大阪介護老人保健施設協会と協定締結 (2018年6月28日)
33. 学校法人関西医科大学、学校法人常翔学園と包括連携協定締結 (2019年1月22日)
34. 附属病院診療時間延長 (2019年1月～)
午前・午後の診療時間と初診・再診受付時間を30分間延長
35. 特待生の採用
・歯学部 2年から6年の各学年3名、計15名に対し授業料100万円免除
・医療保健学部 各学科1年2名、2年1名の計6名に対し授業料105万円免除
36. 大学内奨学生選考
4名の学生に対して総額2,750,000円の奨学金を貸与
37. 2019年度研修歯科医の募集定員
単独研修方式20名、複合研修方式120名
38. 学位授与
学位記番号 甲第 833号～854号 22名に学位記授与
学位記番号 乙第1611号～1619号 9名に学位記授与
39. 歯学部教員が研究奨励賞受賞
・障がい者歯科 田中佑人助教 / 平成29年度日本スポーツ歯科医学会研究奨励賞
40. 2018年度法人理事会・法人評議員会・歯学部主任教授会・歯学部教授会・医療保健学部教授会・歯学研究科会議・医療保健学研究科会議
1) 法人理事会 18回開催
(2018年4月2日(2回)、4月26日、5月24日(2回)、6月28日、7月26日、8月23日(2回)、9月27日、10月25日、11月29日、12月28日、2019年1月31日、2月14日、2月28日、3月28日(2回))
2) 法人評議員会 5回開催
(2018年4月2日、5月24日、8月23日、2019年2月14日、3月28日)
3) 歯学部主任教授会 24回開催
(2018年4月11日、5月9日、6月13日、7月11日、7月25日、8月8日、8月22日、9月12日、9月26日、10月10日、10月24日、11月14日、11月22日、11月30日、

5

- 12月12日、2019年1月9日、1月16日、1月25日、2月6日、2月13日、2月19日、3月7日、3月15日、3月28日)
- 4) 歯学部教授会 2回開催
(2018年4月11日、2019年3月28日)
- 5) 医療保健学部教授会 18回開催
(2018年4月18日、5月16日、6月20日、7月18日、8月15日、9月19日、10月17日、11月2日(2回)、11月21日、11月30日、12月19日、2019年1月16日、2月7日、2月20日、3月8日、3月20日、3月25日)
- 6) 歯学研究科会議 18回開催
(2018年4月25日、5月23日、6月27日、7月25日、8月22日、9月26日、10月10日、10月24日、11月14日、11月28日、12月26日、2019年1月23日、2月13日、2月19日、2月27日、3月7日、3月15日、3月27日)
- 7) 医療保健学研究科会議 16回開催
(2018年4月18日、5月16日、6月20日、7月18日、8月3日、8月15日、9月7日、9月19日、10月17日、11月2日、11月21日、12月7日、2019年1月16日、2月20日、3月8日、3月20日)
41. 平成30年褒章・叙勲の受章者(本学関係)
・褒章 大学27回 中道 雄司 兵庫県 藍綬褒章 共2名
・叙勲 大学8回 高田 勝美 岐阜県 瑞宝双光章 共16名
42. 教職員数(2018年5月1日現在:352名)
1) 大学 348名
教職員 190名
学長1名
歯学部 138名
主任教授21名、専任教授5名、准教授21名、講師41名、助教50名
医療保健学部 21名
教授10名、准教授5名、講師2名、助教3名
附属病院 30名
専任教授1名、病院教授1名、准教授4名、講師12名、助教12名
職員数 158名
事務・技術76名、医療81名、労務1名
2) 歯科衛生士専門学校 5名
教員4名、事務1名

6

43. 人事
1. 法人関係
1) 法人役員就任(2018年4月)
理事長 川添 堯彬
常務理事(総務兼財務担当) 下村 健三郎
常務理事(教学兼財務担当) 田中 昭男
理事(教学担当) 小正 裕
理事(教学兼人事担当) 田中 昌博
理事(総務兼人事担当) 三谷 卓
理事(調査担当) 岡 邦恭
理事(調査担当) 橋本 延伸
理事(財務担当) 前田 真治
理事(総務兼財務担当) 上田 雅俊
監事 本井 文夫
監事 生駒 等
2) 評議員就任(本文参照)
2. 名誉教授称号授与 大浦 清 共4名
3. 退職
1) 定年退職 解剖学講座 主任教授 竹村 明道 共11名
2) 依願退職 生理学講座 准教授 内橋 賢二 共13名
3) 任期制教員任期満了退職 薬理学講座 准教授 天野 均
4) 再雇用契約満了退職 医事課 鶴野 祥子 共2名
4. 昇任
1) 歯学部専任教授 口腔解剖学講座 准教授 隈部 俊二
2) 歯学部講師 歯科理工学講座 助教 秋山 真理 共3名
3) 専門学校教務主任 歯科衛生士専門学校 梶 貴三子
4) 職員 経理課 課長 田中 敬子 共8名
5. 任用
1) 歯学部主任教授 細菌学講座 博士(歯学) 沖永 敏則 共4名
2) 歯学部専任教授 障がい者歯科 博士(歯学) 小野 圭昭
3) 医療保健学部教授 口腔保健学科 博士(医学) 元根 正晴 共3名
4) 歯学部准教授 口腔インプラント学講座 博士(医学) 山田 陽一 共2名
5) 医療保健学部准教授 口腔保健学科 博士(歯学) 頭山 高子 共2名
6) 歯学部講師 中央歯学研究科 博士(歯学) 岩崎 剣吾 共3名
7) 医療保健学部講師 口腔工学科 修士(福祉社会学) 樋口 鎮央
8) 歯学部助教 口腔病理学講座 博士(医学) 池田 千満子 共12名
9) 医療保健学部助手 口腔保健学科 学士(看護学) 尾形 祐己 共2名

7

- 10) 診療科助教 口腔リハビリテーション科 博士(歯学) 永久 景那
11) 大学院歯学研究科教員
大学院教授 竹村 明道 共22名、大学院准教授 戸田 伊紀 共19名
大学院講師 上村 守 共20名、大学院助教 岡村 友玄 共21名
12) 大学院医療保健学研究科教員
大学院教授 小正 裕 共9名、大学院准教授 神 光一郎 共5名
大学院講師 錦織 良、大学院助教 首藤 崇裕 共4名
13) 看護師 附属病院 石川 未奈 共4名
14) 任期付職員の専任職員登用 医事課 課長補佐 稲田 文二 共10名
15) 任期付職員新規採用 中央歯学研究科 研究技術職員 河出 直哉 共8名
6. 歯学部任期制教員任期更新 解剖学講座 講師 上村 守 共5名
7. リサーチ・アシスタント採用 口腔インプラント学 2年 黄 安祺 共4名
8. 診療系教員の臨床系講座異動 口腔インプラント学講座 助教 小林 信博
9. 所属異動 教育情報センター事務局 課長 今道 裕之 共6名
10. 兼務 専門学校事務室 主任 北山 恵美子
11. 定年延長 経理部長 中尾 昌彦
12. 定年退職後再々雇用 医事課 事務職員 鶴野 祥子 共2名
13. 委嘱
1) 大学役職者
副学長、歯学部長、総務部長、教務部長、
アドミッションセンター長 田中 昭男
副学長 今井 弘一
副学長、学生部長 田中 昌博
医療保健学部長、大学院医療保健学研究科長 小正 裕
図書館長 清水谷公成
附属病院病院長 中嶋 正博
大学院歯学研究科長 岡崎 定司
中央歯学研究科所長 梅田 誠
教育情報センター所長 辻林 徹
国際交流部長、附属病院副病院長 松本 尚之
附属病院副病院長 山本 一世
附属病院副病院長 田中 武昌
口腔保健学科長 和唐 雅博
口腔工学科長 柿本 和俊
2) 歯科衛生士研修センター長 山本 一世
3) 歯学部特任教授 歯科医学教育開発室 松本 秀範 共2名
4) 名誉客員教授 大阪歯科大学歯科理工士専門学校 名誉校長 玉置 敏夫 共3名

8

- 5) 客員教授 東京医科歯科大学 元教授 五十嵐 順正 共 10 名
6) 医療保健学部客員教授 歯科東洋医学室 特任教授 方 一知
7) 客員准教授 大阪歯科大学 元准教授 好川 正孝
8) 客員講師 大阪歯科大学 元講師 小川 文也
9) Visiting Professor
台北医科大学歯学部長 教授 Dayen Peter Wang 共 10 名
10) 2018 年度歯学部講師 (非常勤) 373 名
2018 年度医療保健学部講師 (非常勤) 50 名
2018 年度歯学研究科講師 (非常勤) 44 名
2018 年度医療保健学研究科講師 (非常勤) 24 名 (以上 2018 年 4 月 1 日付)
11) 臨床教授 なかじま歯科医院 院長 中島 康
12) 医員 23 名
13) 病院医員 63 名
14) ティーチング・アシスタント 歯科保存学 1 年 奥村 瑠恵子 共 8 名
15) ポストドクトラルフェロー 歯周病学 野口 正皓 共 2 名
16) 学生相談室カウンセラー 臨床心理士 辻野 達也 共 4 名
17) 医務室嘱託医師 大阪大学医学部 医師 木田 博 共 2 名
18) 各種委員会委員長

(1) 歯学部、歯学研究科関係

総務部委員会	委員長	田中 昭男
廃棄物処理委員会	委員長	田中 昭男
歯学部学内食堂管理運営委員会	委員長	田中 昌博
歯学部教務部委員会	委員長	田中 昭男
第 5・6 学年教務部委員会	委員長	田中 昭男
既卒者クラス教務部委員会	委員長	田中 昭男
共用歯学 C B T 委員会	委員長	前田 博史
F D 委員会	委員長	田中 昭男
共用歯学 O S C E 実行委員会	委員長	山本 一世
学生基礎実習運営連絡検討委員会	委員長	田中 昭男
ブラッシュアップ委員会	委員長	今井 弘一
カリキュラム委員会	委員長	田中 昭男
入試委員会 (大学入試センター試験実務委員会)	委員長	田中 昭男
学生部委員会	委員長	田中 昌博
図書館運営委員会	委員長	清水谷 公成
図書資料選択委員会	委員長	清水谷 公成
大学院委員会	委員長	岡崎 定司
学術研究奨励助成金交付審査委員会	委員長	今井 弘一
(共同研究助成審査委員会)		

9

知的財産委員会	委員長	田中 昌博
研究倫理委員会	委員長	今井 弘一
中央歯学研究所委員会	委員長	梅田 誠
動物実験委員会	委員長	竹村 明道
バイオセーフティー委員会	委員長	梅田 誠
国際交流部委員会	委員長	松本 尚之
医の倫理委員会	委員長	中嶋 正博
(臨床研究利益相反検討委員会)		
教育情報センター管理運営委員会	委員長	辻林 徹
ハラスメント防止委員会	委員長	川添 堯彬
教員評価委員会	委員長	川添 堯彬
健康管理委員会	委員長	中嶋 正博
公開講座委員会委員長	委員長	三宅 達郎

(2) 医療保健学部、医療保健学研究科関係

入試委員会	委員長	小正 裕
教務部委員会	委員長	柿本 和俊
カリキュラム委員会	委員長	柿本 和俊
学生部委員会	委員長	和唐 雅博
学生支援小委員会	委員長	元根 正晴
キャリア支援委員会	委員長	中塚美智子
生涯学習委員会	委員長	栗田 洋江
隣地・臨床実習評価委員会	委員長	頭山 高子
隣地・臨床実習検討会	委員長	頭山 高子
口腔保健学科連絡会	委員長	和唐 雅博
口腔工学科連絡会	委員長	柿本 和俊
社会福祉コース連絡会	委員長	栗田 洋江
大学院委員会	委員長	小正 裕

(3) 人間関係

財務企画委員会	委員長	川添 堯彬
財務企画委員会病院の運営に関する事項部会	部会長	小正 裕
財務企画委員会牧野学会将来計画作業部会	部会長	下村鏡三郎
財務企画委員会給与部会	部会長	三谷 卓
財務企画委員会経営部会	部会長	下村鏡三郎
退職資金管理運営委員会	委員長	三谷 卓
業者登録選考委員会	委員長	下村鏡三郎
学術研究奨励基金管理運営委員会	委員長	下村鏡三郎
環境管理委員会	委員長	小正 裕

10

牧方資料センター管理運営委員会	委員長	小正 裕
予算委員会	委員長	下村鏡三郎
人事委員会	委員長	三谷 卓
自己点検・評価委員会	委員長	川添 堯彬
ODU ウェルネス・ホール管理運営委員会	委員長	田中 昭男
広報委員会	委員長	川添 堯彬
人権啓発推進委員会	委員長	川添 堯彬
個人情報保護委員会	委員長	川添 堯彬
大阪歯科大学附属病院財務改善検討委員会	委員長	下村鏡三郎
資産運用検討委員会	委員長	下村鏡三郎
学校法人大阪歯科大学利益相反検討委員会	委員長	田中 昭男
附属病院・専門学校経営改善委員会	委員長	川添 堯彬
学校法人大阪歯科大学省エネルギー推進委員会	委員長	下村鏡三郎
大阪歯科大学体育館 (多目的施設) 建設に関する検討委員会	委員長	下村鏡三郎
附属病院組織改革委員会	委員長	川添 堯彬

19) 歯学部学年指導教授

1 年・2 年 藤原 真一、富永 和也 3 年・4 年 三宅 達郎、今井 弘一
5 年・6 年 前田 博史、梅田 誠

20) 2018 年度学生会会長 主任教授 藤原 真一

44. 学外活動

- 1) 教授海外視察 小児歯科学講座 主任教授 有田 憲司
2) 教員海外出張 薬理学講座 講師 河井 まりこ 共 34 件
3) 共同研究員受入 南方医科大学口腔医学院 研究員 Huang Yao 共 9 名
4) 国際交流 (本文参照)

45. 補助金・助成金

- 1) 2018 年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金交付 (14 件) 2,00,000 円
2) 平成 30 年度科学研究費補助金交付 (文部科学省) (本文参照)
3) 平成 30 年度私立大学等経常費補助金交付額 320,014,000 円
4) 平成 30 年度臨床研修費等補助金交付額 78,390,000 円
5) 国際交流助成
高齢者歯科学講座 助教 奥野健太郎 共 13 件に対し 2,883,243 円の助成
6) 寄贈
大阪歯科大学歯科技工士専門学校共済会から 58,791,867 円 共 9 件

11

46. 諸規程

- 1) 大阪歯科大学学則 (一部改正)
2) 大阪歯科大学院学則 (一部改正)
3) 学校法人大阪歯科大学管理運営規則 (一部改正)
4) 学校法人大阪歯科大学経理規程 (一部改正)
5) 学校法人大阪歯科大学予算執行規程 (一部改正)
6) 昇格・降格に関する取扱細則 (一部改正)
7) 昇格に伴う基本給移行に関する内規 (施行) (以上 2018 年 4 月 1 日付)
8) 学校法人大阪歯科大学個人データの取扱いに関する細則 (一部改正) (2018 年 4 月 6 日付)
9) 大阪歯科大学附属病院治験審査委員会規程 (一部改正)
10) 大阪歯科大学附属病院プログラム C (複合型) 副プログラム責任者部会規程 (一部改正) (以上 2018 年 5 月 24 日付)
11) 大阪歯科大学学生会会則 (一部改正) (2018 年 6 月 1 日付) (2018 年 10 月 25 日付)
12) 大阪歯科大学教員評価実施規程 (一部改正) (2018 年 6 月 7 日付)
13) ティーチング・アシスタント (T A) 代行に係る申し合わせ (施行) (2018 年 7 月 1 日付)
14) 大阪歯科大学学位規程 (一部改正) (2018 年 7 月 26 日付) (2018 年 12 月 28 日付)
15) 学校法人大阪歯科大学自己点検・評価委員会規程 (一部改正)
16) 新入学生待滞に関する内規 (一部改正)
17) 大阪歯科大学における勉学と課外活動に関する内規 (施行) (以上 2018 年 7 月 26 日付)
18) 公印規程 (一部改正) (2018 年 8 月 23 日付)
19) 大阪歯科大学客員教授規程 (一部改正) (2018 年 8 月 23 日付)
20) 学校法人大阪歯科大学就業規則 (一部改正) (2018 年 9 月 27 日付) (2018 年 11 月 29 日付)
21) 大阪歯科大学共同研究員受入規程 (一部改正)
22) 共同研究員受入に係る研究科に関する申し合わせ (一部改正) (以上 2018 年 9 月 27 日付)
23) 学校法人大阪歯科大学契約職員就業規則 (一部改正) (2018 年 10 月 25 日付)
24) 大阪歯科大学歯科衛生士研修センター歯科衛生士の復職支援・離職防止等に関する運営協議会規程 (施行) (2018 年 12 月 1 日付)
25) 大阪歯科大学学長候補者選考規程 (一部改正)
26) 大阪歯科大学総務部委員会規程 (一部改正) (以上 2018 年 12 月 28 日付)
27) 大阪歯科大学教員の定員等に関する規程 (一部改正) (2019 年 1 月 31 日付)
28) 職員の定年の延長に関する申し合わせ (一部改正) (2019 年 1 月 31 日付)
29) 大阪歯科大学教員任用規程 (一部改正)
30) 教員候補者資格審査に関する申し合わせ (一部改正)
31) 任期制教員の再任用基準に関する申し合わせ (一部改正) (以上 2019 年 2 月 20 日付)
32) 教員の業務、出張及び研修に関する内規 (一部改正)
33) 大阪歯科大学ヒト ES 細胞の使用に関する規程 (施行) (以上 2019 年 2 月 28 日付)
34) 学校法人大阪歯科大学寄附行為 (一部改正) (2019 年 3 月 26 日付)
35) 大阪歯科大学大学院ファカルティ・ディベロップメント (F D) 委員会規程 (施行) (2019 年 3 月 28 日付)

12

第2部 財務状況の概要

(1) 決算概要

① 資金収支計算書

収入項目では、平成29年度に開設した医療保健学部の新学生数増加等が寄与し学生生徒等納付金収入が前年度比増加したことに加え、寄付金収入や補助金収入も増加しましたが、付随事業・収益事業収入及び受取利息・配当金収入が減少しました。

支出項目では、経費支出や施設関係支出が増加しましたが、人件費支出が減少しました。

これにより、翌年度繰越支払資金は前年度比微増の3,059,177千円となりました。

平成30年度 資金収支計算書

科 目	平成30年度		平成29年度 決算	29年度決算 との差異
	予算	決算		
学生生徒等納付金収入	4,831,630	4,656,405	4,484,385	172,020
手数料収入	34,951	39,320	36,122	3,198
寄付金収入	109,915	117,385	49,942	67,443
補助金収入	532,307	484,017	451,099	32,918
資産売却収入	0	0	3	△ 3
付随事業・収益事業収入	2,039,398	2,018,242	2,053,841	△ 35,599
受取利息・配当金収入	88,944	91,938	118,241	△ 26,303
雑収入	397,518	435,637	387,971	47,666
前受金収入	496,300	500,982	488,702	12,280
その他の収入	1,120,468	1,090,022	1,273,124	△ 183,102
資金収入調整金勘定	△ 1,033,113	△ 1,080,528	△ 1,005,780	△ 74,748
前年度繰越支払資金	3,031,584	3,031,584	3,402,131	△ 370,547
収入の部合計	11,649,902	11,385,008	11,739,785	△ 354,777
人件費支出	4,397,095	4,329,223	4,357,897	△ 28,674
教育研究経費支出	2,330,034	2,172,024	2,126,079	45,945
管理経費支出	450,960	449,178	443,728	5,450
施設関係支出	235,909	162,896	92,102	70,794
設備関係支出	296,290	271,574	278,475	△ 6,901
資産運用支出	967,607	962,599	1,046,494	△ 83,895
その他の支出	307,045	385,894	764,520	△ 378,626
資金支出調整金勘定	△ 276,088	△ 407,560	△ 401,096	△ 6,464
翌年度繰越支払資金	2,932,567	3,059,177	3,031,584	27,593
支出の部合計	11,649,902	11,385,008	11,739,785	△ 354,777

13

② 活動区分資金収支計算書

教育活動による資金収支は、学生生徒等納付金収入の増加等が貢献し教育活動資金収入が前年度比増加したこと等により737,900千円の資金増となりましたが、施設整備等活動による資金収支が607,682千円の減少となったことに加えその他の活動による資金収支も102,625千円の減少となったため、支払資金の増減額は27,593千円の増加にとどまりました。

平成30年度 活動区分資金収支計算書

科 目	平成30年度		平成29年度	差 異
	平成30年度	平成29年度		
教育活動資金収入計	7,751,008	7,463,362	287,646	
学生生徒等納付金収入	4,656,405	4,484,385	172,020	
経常費等補助金収入	484,017	451,099	32,918	
医療収入	1,947,416	1,984,742	△ 37,326	
教育活動資金支出計	6,950,425	6,927,705	22,720	
人件費支出	4,329,223	4,357,897	△ 28,674	
教育研究経費支出	1,760,913	1,698,710	62,203	
医療経費支出	411,110	427,369	△ 16,259	
管理経費支出	449,178	443,728	5,450	
差引	800,582	535,656	264,926	
調整勘定等	△ 62,682	84,432	△ 147,114	
教育活動資金収支差額	737,900	620,080	117,811	
施設整備等活動資金収入計	0	0	0	
施設整備等活動資金支出計	656,807	598,470	58,337	
差引	△ 656,807	△ 598,470	△ 58,337	
調整勘定等	49,124	△ 363,928	413,052	
施設整備等活動資金収支差額	△ 607,682	△ 962,398	354,716	
その他の活動資金収入計	657,616	792,942	△ 135,326	
受取利息・配当金収入	91,938	118,241	△ 26,303	
その他の活動資金支出計	760,180	820,861	△ 60,681	
差引	△ 102,563	△ 27,919	△ 74,644	
調整勘定等	△ 61	△ 318	257	
その他の活動資金収支差額	△ 102,625	△ 28,237	△ 74,388	
支払資金の増減額	27,593	△ 370,547	398,140	
前年度繰越支払資金	3,031,584	3,402,131	△ 370,547	
翌年度繰越支払資金	3,059,177	3,031,584	27,593	

14

③ 事業活動収支計算書

基本金組入前当年度収支差額は、教育活動収支差額が学生生徒等納付金等の教育活動収入の増加により146,703千円の黒字となったことに加え教育活動外収支差額も黒字を確保したため、前年度比125,956千円改善して214,415千円の黒字となりました。

平成30年度 事業活動収支計算書

科 目	平成30年度		平成29年度 決算	前年度決算 との差異
	予算	決算		
教育活動収入計	7,945,719	7,752,290	7,468,398	283,894
学生生徒等納付金	4,831,630	4,656,405	4,484,385	172,020
経常費等補助金	532,307	484,017	451,099	32,918
付随事業収入	2,039,398	2,018,242	2,053,841	△ 35,599
雑収入	397,518	435,637	392,331	44,551
教育活動支出計	7,876,087	7,605,588	7,499,309	106,277
人件費	4,401,203	4,290,627	4,218,558	72,069
教育研究経費	2,944,491	2,786,544	2,749,956	36,588
管理経費	530,392	528,364	530,593	△ 2,229
教育活動収支差額	69,631	146,703	△ 30,912	177,615
教育活動外収入計	88,464	91,458	117,761	△ 26,303
受取利息・配当金	88,464	91,458	117,761	△ 26,303
教育活動外支出計	0	0	0	0
教育活動外収支差額	88,464	91,458	117,761	△ 26,303
経常収支差額	158,095	238,162	86,848	151,314
特別収入計	10,000	15,603	15,464	139
特別支出計	0	39,350	13,854	25,496
特別収支差額	10,000	△ 23,747	1,610	△ 25,357
基本金組入前当年度収支差額	102,791	214,415	88,459	125,956
基本金組入額合計	△ 434,859	△ 59,104	△ 672,716	613,612
当年度収支差額	△ 332,068	155,310	△ 584,257	739,567
前年度繰越収支差額	△ 20,247,178	△ 20,247,178	△ 19,701,477	△ 545,701
基本金取崩額	0	84,111	38,556	45,555
翌年度繰越収支差額	△ 20,579,244	△ 20,007,756	△ 20,247,178	239,422
事業活動収入計	8,044,193	7,859,352	7,601,622	257,730
事業活動支出計	7,941,392	7,644,937	7,513,163	131,774

15

④ 貸借対照表

資産の部は、有形固定資産が減価償却の進展等により263,407千円減少する一方、特定資産が418,674千円増加し、流動資産も微増したため前年度比219,979千円増加しました。純資産は、前年度比214,416千円増加し53,941,984千円となりました。純資産が負債及び純資産の部合計に占める割合である純資産構成比率は91.4%となりました。

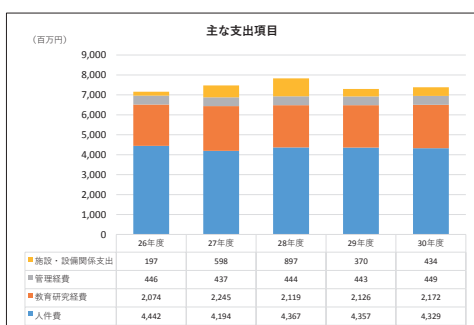
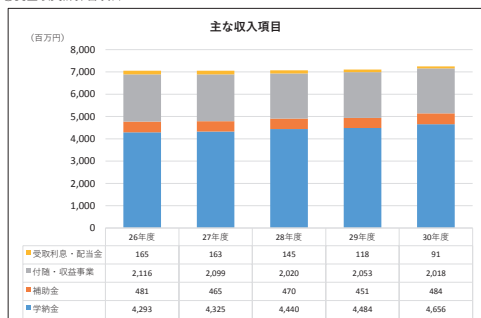
平成30年度末 貸借対照表

科 目	平成30年度末		平成29年度末	差 異
	平成30年度末	平成29年度末		
固定資産	55,364,693	55,240,512	124,181	
有形固定資産	18,382,031	18,645,438	△ 263,407	
土地	5,397,487	5,397,487	0	
建物	9,615,026	9,947,255	△ 332,229	
教育研究用機器備品	1,267,618	1,248,288	19,330	
図書	1,121,782	1,131,633	△ 9,851	
特定資産	36,497,995	36,079,321	418,674	
第3号基本金引当特定資産	29,839,000	29,839,000	0	
退職金引当特定資産	2,718,661	2,536,444	182,217	
減価償却引当特定資産	3,354,829	3,152,830	201,999	
その他の固定資産	484,667	515,752	△ 31,085	
流動資産	3,670,093	3,574,295	95,798	
現金・預金	3,059,177	3,031,584	27,593	
未収入金	592,171	524,741	67,430	
資産の部合計	59,034,786	58,814,807	219,979	
固定負債	3,812,419	3,857,631	△ 45,212	
退職給付引当金	3,771,634	3,819,240	△ 47,606	
流動負債	1,280,382	1,229,606	50,776	
未払金	395,846	356,000	39,846	
前受金	500,982	488,702	12,280	
負債の部合計	5,092,802	5,087,238	5,564	
基本金	73,949,740	73,974,747	△ 25,007	
第1号基本金	43,566,740	43,591,747	△ 25,007	
第3号基本金	29,839,000	29,839,000	0	
第4号基本金	544,000	544,000	0	
繰越収支差額	△ 20,007,756	△ 20,247,178	239,422	
純資産の部合計	53,941,984	53,727,568	214,416	
負債及び純資産の部合計	59,034,786	58,814,807	219,979	

16

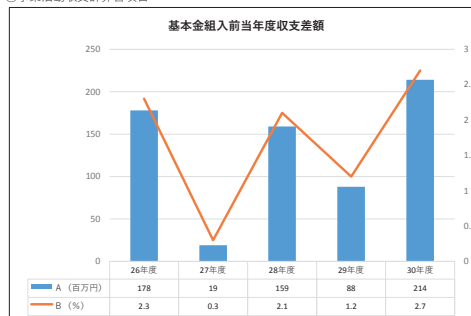
(2) 経年比較

①資金収支計算書項目



17

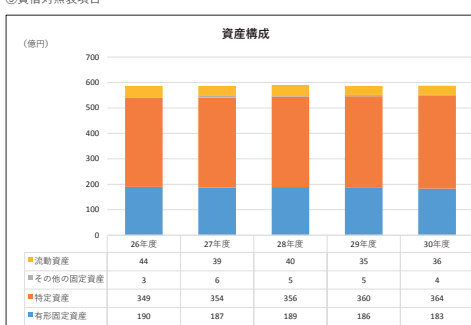
②事業活動収支計算書項目



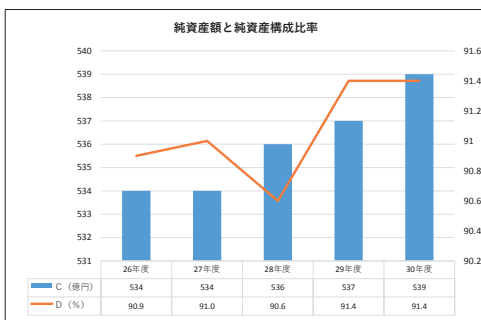
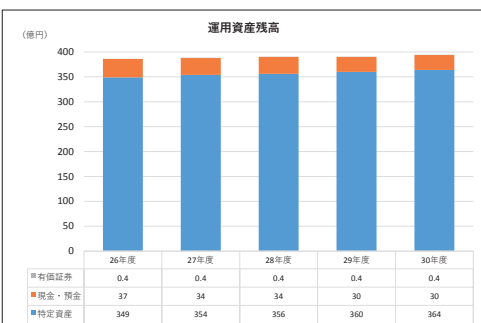
A：基本金組入前当年度収支差額

B：事業収支差額比率

③貸借対照表項目



18



C：純資産額

D：純資産構成比率

19

(3) 財務比率

①主な財務比率

項目	単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
固定資産構成比率	%	92.4	93.2	93.2	93.9	93.8
固定比率	%	101.6	102.4	102.9	102.8	102.6
流動比率	%	394.5	349.5	250.9	290.7	286.6
負債比率	%	10.0	9.8	10.4	9.5	9.4
内部留保資産比率	%	56.7	57.3	56.6	57.9	58.4
運用資産余裕比率	年	5.1	5.2	5.2	5.2	5.1
純資産構成比率	%	90.9	91.0	90.6	91.4	91.4
人件費比率	%	55.9	54.8	55.5	55.6	54.7
教育研究経費比率	%	34.4	37.6	35.0	36.2	35.5
管理経費比率	%	7.1	7.2	7.1	7.0	6.7
事業活動収支差額比率	%	2.3	0.3	2.1	1.2	2.7
学生生徒納付金比率	%	56.0	58.0	58.4	59.1	59.4
補助金比率	%	6.3	6.2	6.2	5.9	6.2
経常収支差額比率	%	2.5	0.4	2.4	1.1	3.0

②主な財務比率の内容説明

項目	内容説明
固定資産構成比率	資産構成のバランスをみるための指標
固定比率	固定資産に対する純資産の割合を評価する指標
流動比率	短期的な支払い能力を評価する指標（200%以上であれば優良）
負債比率	他人資金と自己資金の割合を評価する指標（低いほど良い）
内部留保資産比率	運用資産の蓄積度を評価する指標（高いほど良い）
運用資産余裕比率	経常的な支出規模に対し運用資産の蓄積度を表す指標（高いほど良い）
純資産構成比率	財政的な安定度を評価する指標（高いほど良い）
人件費比率	人件費の経常収入に占める割合（低いほど良い）
教育研究経費比率	教育研究経費の対経常収入割合（収支均衡を失わない範囲で高いほど良い）
管理経費比率	管理経費の経常収入に占める割合（低いほど良い）
事業活動収支差額比率	事業活動収入に対する基本金組入前当年度収支差額が占める割合
学生生徒納付金比率	学納金の計上収入に占める割合（安定的推移が望ましい）
補助金比率	補助金の事業活動収入に占める割合
経常収支差額比率	形状的な収支バランスを表す割合

20

平成30年度 決算報告

平成30年度決算は、令和元年5月30日に開催された法人理事会で承認され、同日に開催された評議員会に報告されました。

平成30年度決算における「資金収支計算書」、「活動区分資金収支計算書」、「事業活動収支計算書」、「貸借対照表」の概要は次のとおりです。

1. 資金収支計算書

「資金収支計算書」の目的は、当該会計年度中のすべての収入と支出に係る内容と資金の顛末を明示することにあります。

平成30年度は、収入の部で「学生生徒等納付金収入」が予算を下回りましたが、支出の部で「教育研究経費支出」が予算を下回ったため、「翌年度繰越支払資金」は予算を上回る30億5,917万円となりました。

平成30年度 資金収支計算書 (平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)			
収入の部		(単位：円)	
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,831,630,000	4,656,405,000	175,225,000
手数料収入	34,951,000	39,320,200	△ 4,369,200
寄付金収入	109,915,000	117,385,132	△ 7,470,132
補助金収入	532,307,000	484,017,751	48,289,249
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	2,039,398,000	2,018,242,729	21,155,271
受取利息・配当金収入	88,944,000	91,938,748	△ 2,994,748
雑収入	397,518,000	435,637,929	△ 38,119,929
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	496,300,000	500,982,500	△ 4,682,500
その他の収入	1,120,468,000	1,090,022,953	30,445,047
資金収入調整勘定	△ 1,033,113,000	△ 1,080,528,503	47,415,503
小計	8,618,318,000	8,353,424,439	264,893,561
前年度繰越支払資金	3,031,584,450	3,031,584,450	
収入の部合計	11,649,902,450	11,385,008,889	264,893,561

支出の部			
(単位：円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	4,397,095,000	4,329,223,244	67,871,756
教育研究経費支出	2,330,034,946	2,172,024,269	158,010,677
管理経費支出	450,960,355	449,178,338	1,782,017
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	235,909,384	162,896,886	73,012,498
設備関係支出	296,290,558	271,574,515	24,716,043
資産運用支出	967,607,000	962,599,555	5,007,445
その他の支出	307,045,000	385,894,812	△ 78,849,812
「予備費」	(91,519,243)		8,480,757
資金支出調整勘定	△ 276,088,000	△ 407,560,324	131,472,324
小計	8,717,335,000	8,325,831,295	391,503,705
翌年度繰越支払資金	2,932,567,450	3,059,177,594	△ 126,610,444
支出の部合計	11,649,902,450	11,385,008,889	264,893,561

2. 活動区分資金収支計算書

「活動区分資金収支計算書」は現金預金の流れを3つの活動区分（「教育活動」「施設整備等活動」「その他の活動」）ごとに把握するものです。

平成30年度 活動区分資金収支計算書 (平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)		
(単位：円)		
教育活動による資金収支	科 目	
	収入	学生生徒等納付金収入
		手数料収入
		特別寄付金収入
		一般寄付金収入
		経常費等補助金収入
		付随事業収入
		医療収入
		雑収入
		教育活動資金収入計
	支出	人件費支出
		教育研究経費支出
		医療経費支出
		管理経費支出
		教育活動資金支出計
	差 引	
	調整勘定等	
	教育活動資金収支差額	
施設整備等資金収支	科 目	
	収入	施設整備等活動資金収入計
	支出	施設関係支出
		設備関係支出
		減価償却引当特定資産繰入支出
		医療機器購入資金引当特定資産繰入支出
		施設整備等活動資金支出計
	差 引	
	調整勘定等	
	施設整備等活動資金収支差額	
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）		130,218,261

その他の活動による資金収支	科 目	
	収入	退職金引当特定資産取崩収入
		貸付金回収収入
		仮払金回収収入
		小 計
		受取利息・配当金収入
	支出	その他の活動資金収入計
		退職金引当特定資産繰入支出
		有価証券購入資金引当特定資産繰入支出
		記念行事資金引当特定資産繰入支出
		貸付金支払支出
		預り金支払支出
		小 計
		その他の活動資金支出計
	差 引	
	調整勘定等	
	その他の活動資金収支差額	
	支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	
	前年度繰越支払資金	
	翌年度繰越支払資金	

3. 事業活動収支計算書

「事業活動収支計算書」の目的は、学校法人の経営状況を表し、当該会計年度における事業活動収支の均衡状況とその内容を明らかにすることにあります。

平成 30 年度の「経常収支差額」は 2 億 3,816 万円の収入超過となり、7 期連続で収入超過を維持することができました。

平成 30 年度 事業活動収支計算書 (平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで)					
(単位：円)					
教育活動 収支	収入業の活動 部 動	科 目	予 算	決 算	差 異
		学生生徒等納付金	4,831,630,000	4,656,405,000	175,225,000
		手数料	34,951,000	39,320,200	△ 4,369,200
		寄付金	109,915,000	117,422,314	△ 7,507,314
		経常費等補助金	532,307,000	484,017,751	48,289,249
		付随事業収入	2,039,398,000	2,018,242,729	21,155,271
		雑収入	397,518,000	436,882,853	△ 39,364,853
	教育活動収入計		7,945,719,000	7,752,290,847	193,428,153
	支出業の活動 部 動	科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	4,401,203,000	4,290,627,757	110,575,243
		教育研究経費	2,944,491,946	2,786,544,020	157,947,926
		管理経費	530,392,355	528,364,445	2,027,910
		徴収不能額等	0	50,686	△ 50,686
教育活動支出計		7,876,087,301	7,605,586,908	270,500,393	
教育活動収支差額		69,631,699	146,703,939	△ 177,072,240	
教育活動 外 収 支	収入業の活動 部 動	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	88,464,000	91,458,748	△ 2,994,748
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	88,464,000	91,458,748	△ 2,994,748
	支出業の活動 部 動	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		88,464,000	91,458,748	△ 2,994,748
	経常収支差額		158,095,699	238,162,687	△ 80,066,988

特別 収支	収入 業の 活動 部 動	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	10,000,000	15,603,014	△ 5,603,014
		特別収入計	10,000,000	15,603,014	△ 5,603,014
	支出 業の 活動 部 動	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	0	39,350,124	△ 39,350,124
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	0	39,350,124	△ 39,350,124
	特別収支差額		10,000,000	△ 23,747,110	33,747,110
	「予備費」		(34,695,301) 65,304,699		65,304,699
基本金組入前当年度収支差額		102,791,000	214,415,577	△ 111,624,577	
基本金組入額合計		△ 434,859,000	△ 59,104,703	△ 375,754,297	
当年度収支差額		△ 332,068,000	155,310,874	△ 487,378,874	
前年度繰越収支差額		△ 20,247,178,448	△ 20,247,178,448	0	
基本金取崩額		0	84,111,379	△ 84,111,379	
翌年度繰越収支差額		△ 20,579,246,448	△ 20,007,756,195	△ 571,490,253	

4. 貸借対照表

「貸借対照表」は、会計年度末時点における財政状況（保有する資産と負債の状況）を表示するものです。平成 31 年 3 月 31 日現在の資産総額は、2 億 1,997 万円増加して 590 億 3,478 万円となり、負債総額は 556 万円増加して 50 億 9,280 万円となりました。

この結果、「純資産の部合計」は前年度に比べ 2 億 1,441 万円増加し 539 億 4,198 万円となりました。

貸 借 対 照 表 (平成 31 年 3 月 31 日)			
資産の部 (単位：円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	55,364,693,741	55,240,512,109	124,181,632
有形固定資産	18,382,031,683	18,645,438,422	△ 263,406,739
特定資産	36,497,995,029	36,079,321,619	418,673,410
その他の固定資産	484,667,029	515,752,068	△ 31,085,039
流動資産	3,670,093,043	3,574,295,413	95,797,630
資産の部合計	59,034,786,784	58,814,807,522	219,979,262
負債の部 (単位：円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	3,812,419,920	3,857,631,636	△ 45,211,716
流動負債	1,280,382,387	1,229,606,986	50,775,401
負債の部合計	5,092,802,307	5,087,238,622	5,563,685

純資産の部 (単位：円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	73,949,740,672	73,974,747,348	△ 25,006,676
第 1 号基本金	43,566,740,672	43,591,747,348	△ 25,006,676
第 3 号基本金	29,839,000,000	29,839,000,000	0
第 4 号基本金	544,000,000	544,000,000	0
繰越収支差額	△ 20,007,756,195	△ 20,247,178,448	239,422,253
純資産の部合計	53,941,984,477	53,727,568,900	214,415,577
負債及び純資産の部合計	59,034,786,784	58,814,807,522	219,979,262

2018年度

監事監査報告

2019年（令和元年）5月21日

2018年度（平成30年度）監事監査報告書

学校法人 大阪歯科大学

理事長 川添 堯彬 殿

学校法人 大阪歯科大学

監事 本井 文夫

監事 生駒 等

私たちは、私立学校法第37条第3項及び当学校法人大阪歯科大学寄附行為第13条の規定に基づき、2018年（平成30年）4月1日から2019年（平成31年）3月31日までの2018年度（平成30年度）における学校法人の業務、財産の状況及び計算書類等、すなわち事業報告書、資金収支計算書（人件費内訳表を含む）、事業活動収支計算書、貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）及び財産目録について監査を行った結果、次のとおり報告いたします。

1. 監査方法の概要

私たちは、理事会、評議員会及びその他重要な会議に出席し、理事から、事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど、必要な監査手続きを実施いたしました。

2. 監査の結果

- (1) 資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載と一致し、法令及び寄附行為に従い、収支状況及び財産状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の業務執行に関しては、不正の行為はなく、かつ、法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はありません。

以上

2019年度

事業計画

はじめに

大阪歯科大学は、建学の精神である「博愛」と「公益」を基調に、教育・研究・診療等の全ての諸活動を行い、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針とに則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知識、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的に、地道な努力を続けている。

平成31年度事業計画では、「教育力の向上」「研究力の向上」「臨床力、病院力の向上」「医療保健学部運営・大学院医療保健学研究科博士課程の設置」「地域包括医療参入に寄与する医療系新学部設置への取り組み」「経営基盤の強化」を重点計画として推進するものである。

- ・大学全体においては、建学の精神を基調に、教育、研究、診療の質の向上のために自己点検・評価を実施する。
- ・歯学部においては、従来から行っている学生への育み・寄り添い教育の一層の充実、オナーズ教育の推進、CBT、OSCE、歯科医師国家試験の高い合格率の維持、学生・教員の国際交流の活性化を図る。

- ・医療保健学部においては、歯学部と連携し、歯科医療の担い手となる優秀な歯科医療人を育成していくとともに、国際交流の積極展開を図る。
- ・大学院歯学研究科博士課程においては、基礎系大学院生、社会人大学院生の募集を進展させ、大学等における教育・研究・診療を担える人材養成を行う。
- ・大学院医療保健学研究科修士課程においては、高等教育機関における教育・研究者としての人材養成を行うとともに、博士課程の設置に向けた準備を本格的に進め、次年度開設を目処とする。
- ・地域包括医療参入に寄与する医療系新学部の設置（医療系総合大学化）により財務基盤の強靱化を図る。
- ・附属病院においては、患者数の全診療科20%増加、全科での土曜日診療、睡眠時無呼吸外来、診療参加型臨床実習、臨床研修プログラム、訪問診療・在宅診療の実施等に注力していく。

上記のような計画を強力に推進し、経営基盤の強化を図り一層の教育、研究、診療、管理運営の向上を目指すものである。

2019年度事業計画

2019年度の事業として次の細目を掲げ、着実に実行していくものである。

I 大学

【大学全体】

【歯学部】

1. 教学-a（第1学年～第4学年）の改革
2. 教学-b（第5学年、第6学年、既卒者）の改革
3. 研究に関すること
4. 国際交流に関すること
5. 社会連携・社会貢献・広報活動に関すること

【医療保健学部】

1. 学生の受け入れ
2. 教育課程の編成の考え方及び特色
3. 学位授与方針
4. 在学生への支援
5. 学部拠点の整備

II 大学院

【歯学研究科】

1. 大学院生の入学倍増への取り組み
2. ポストドクトラルフェロー事業
3. ティーチング・アシスタント事業
4. 学術研究奨励助成金事業
5. 学術研究振興資金及び若手研究者奨励金事業
6. 海外研究発表助成事業

【医療保健学研究科】

III 教員力、研究力

1. 教員評価の実施
2. 教員候補者資格審査基準及び任期制教員の再任用基準の見直し
3. 人材の登用

IV 附属病院

V キャンパス施設・設備

VI 法人・大学

I 大学

本学は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針に則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道德的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的としている。

【大学全体】

- ・教育・研究・診療の諸活動について、自己点検・評価を図り一層の質の向上に努める。
- ・アーリーエクスポージャー（早期臨床体験学習）、枚方市の環境美化事業（ODU ソーシャルコミュニティ）を通じた態度教育・キャリア教育を充実する。
- ・ディスカッション、ディベート等の要素を含むアクティブ

ラーニングの授業の推進を図る。

- ・学年指導教授、助言教員によるきめ細かな学生支援体制を拡充する。
- ・学生相談室カウンセラーを楠葉、牧野、天満橋の3学舎に配属し、年間を通して個別面談を行い学生支援の徹底を図る。
- ・「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に沿った取り組みとして、一般財団法人公正研究推進協会の「APRINe ラーニング教育」の導入により教員一人ひとりの倫理観を向上させ、もって国民の健康の保持増進に貢献する公正な研究を推進する。
- ・教育研究のグローバル化に即応する人材育成のため、FIS（Forum for International Students）をはじめとする学生・教員の国際交流を推進する。
- ・大阪歯科大学学術リポジトリの充実を図り、本学の保有する学術研究の成果を社会に還元し、国際的な発信力の強化に繋げていく。
- ・枚方市産学公連携プラットフォームにおいて、共同FD・SDの実施、認知症予防に関する市民講座、枚方未来創造事業などの取り組みを推進する。
- ・地域包括医療の参入に寄与する医療保健学部次ぐ医療系新学部設置への取り組みを開始する。

【歯学部】

1. 教学-a（第1学年～第4学年）の改革

（1）学生の受け入れ

- ・学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、一般入試（前期・後期日程）における大学入試センター利用入試を継続して実施するとともに、入試制度の多様化を図っていく。
- ・平成27年度から導入の入学初年度にかかる学費を免除する入学試験成績優秀者特待生制度を活用し、優秀な新入生の確保を図っていく。
- ・入試倍率3倍以上を目標として、本学の魅力を受験生にアピールすべく積極的な広報活動を推進していく。
- ・高大連携改革の取り組みとして、教育連携協力協定校の香里ヌヴェール学院高等学校、大阪府下の高等学校との相互交流を推進する。

（2）IR(Institutional Research)室と教学部門等との連携

教学部門及び歯科医学教育開発室等との連携を一層強化し、入学段階から卒業までの学生の実態や学修効果が俯瞰できるデータの蓄積を行い、日常の学生指導に役立つ情報を提供する体制を整備する。

（3）学生の教育支援について

- ・学部の教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、態度教育科目として、第1学年の「社会福祉施設体験学習」や「現代教養」において、学習態度の確立やオーナーズ教育を、また、第2学年の「問題解決基盤」においては、アクティブラーニングの要素を含んだ授業を実施する。

- ・6年間の学士課程を通じて、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に基づいて低年次からの学力レベルの向上(留年者の減少)、確実な進級を果たすべく教育支援に取り組む。
- ・学生カルテの機能を充実させ、指導教授、助言教員における学生情報の共有化を図り、教育支援の基幹システムとして活用することを目指す。
- ・「研究チャレンジ」を積極的に行い、学生の研究力の向上を目指す。
- ・「SCRP 参加研究」「TOEIC、TOEFL 受験」の拡充を図る。
- ・高い進級率を達成することを目指すとともに、第4学年に行われる共用試験(CBT、OSCE)の高位合格率(本試験合格)を目標にした対応を行う。
- ・学舎全体の自習室の利用状況をモニタリングし、学生の学修環境の見直しを図っていく。
- ・学修の手引き(シラバス)、学生生活ハンドブック等の学生生活指導の指針の更新を行い、学生に対してその活用を促していく。
- ・薬物乱用防止、女性被害防止に関する講演会を企画し、安全な学生生活を過ごすうえで必要な知識の啓発に努める。
- ・障害者差別解消法が施行されたことを受け、本学の「障がいのある学生の修学等の支援に関する指針」に基づいて支援体制の整備を図る。

2. 教学 -b (第5学年、第6学年、既卒者) の改革

(1) 第5学年への教育

- ・クリッカーの導入による出欠管理の徹底と、臨床実習の成績、臨床知識試験(年5回)と臨床講義、臨床実習終了時試験の実施により学力の向上を目指していく。
- ・全診療科での「自験」を実施し、参加型臨床実習の充実を図る。
- ・2020年度から本格実施される予定の臨床能力試験に向けた体制を整備する。

(2) 第6学年への教育

学士試験1、2本試験全員合格と、歯科医師国家試験の高位の合格率(新卒者合格率90%、最低修業年限国家試験合格率の向上)を目指す。

(3) 既卒者への対応

既卒者教務部委員会により、既卒者のモチベーションを向上させる指導を継続し、個別指導・相談の徹底、相談会への定期出席を厳守させる。

3. 研究に関すること

- ・科学研究費補助金をはじめ各種競争的外部資金の獲得件数を高めるよう研究活動の活性化を図る。
- ・学長のリーダーシップのもと、競争的外部資金獲得のための研究推進体制を構築する。
- ・歯科医学の発展のため、臨床ゲノム医療学会に協賛し、ゲノム研究に向けた研究体制を整備する。
- ・中央歯学研究所における研究機器を用いて、優れた研究の推進を図る。

4. 国際交流に関すること

- ・中国、韓国、ベトナム、台湾、アメリカ、イギリス、ハンガリー、オーストラリア、ウルグアイの海外16大学との学術交流協定締結校との事業を継続して行い、一層の充実を図る。
- ・国立研究開発法人科学技術振興機構の「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」への申請を行い、アジア地域と日本の科学技術の発展に寄与する。

5. 社会連携・社会貢献・広報活動に関すること

- ・枚方市の学園都市ひらかた推進協議会、健康医療都市ひらかたコンソーシアム、関西医科大学、摂南大学、本学による医歯薬連携による共同研究等の地域連携事業を推進する。
- ・1993(平成5)年から開講している本学公開講座の内容を充実させ、市民の健康(健口)づくりに貢献する。

【医療保健学部(口腔保健学科・口腔工学科)】

1. 学生の受け入れ

- ・医療保健学部の学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)に基づき、学部の認知度と入学定員充足率を向上させるため、受験生の確保に向けて西日本各地・東京都・沖縄県等の高校、予備校訪問などを通して積極的な入試広報活動を行う。
- ・オープンキャンパスを頻繁に実施することにより、参加者に学部の特徴をアピールする機会を増やす。
- ・入学試験成績優秀者特待生制度、外国人への学費免除制度の継続実施

2. 教育課程の編成の考え方及び特色

- (1) 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、医療人としての素養の形成、歯科の基礎的な知識の獲得、歯科臨床の知識の獲得、歯科臨床の技能の獲得、実践能力の獲得、教育内容の整理と知識と技能の固定化を体系的に行う。
- (2) 国家試験合格率100%達成にむけた教育、英会話力アップのための教育、学生の国際交流の推進を学部運営の基本軸とする。
- (3) 医療人としての素養の養成、口腔リハビリテーションや訪問歯科診療などの高齢化に応じた知識と技能の獲得に重点を置く。
- (4) 歯科衛生士、歯科技工士国家試験受験資格とともに、意欲ある学生に対して社会福祉士国家試験受験資格の取得コースの受講を促す。

3. 学位授与方針

「博愛」と「公益」の精神を持った人材の輩出という学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を堅持し、学生教育を推進する。

4. 在学生への支援

- ・学年指導教授、助言教員制度のきめ細かい個人への修学指導を行う。
- ・学生1人に1台のノートPCを貸与し、学修支援システム「A-Portal」、授業用SNS「melly」により学生のサポート体制の充実を図る。
- ・1級キャリアコンサルティング技能士及びキャリアコンサルタントを配置し、キャリアセンターによる就職支援体制の一層の充実を図る。

5. 学部拠点の整備

経費の抑制を図りながら、既存校舎改修及び設備の更新等の環境整備を行い、可能な限りキャンパスのアメニティの向上を図る。

II 大学院

【歯学研究科】

歯学研究科博士課程は、独創的研究によって、従来の学術水準に新しい知見を加え、文化の進展に寄与するとともに、研究者養成を主眼とし、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的としている。

1. 大学院生の入学倍増への取り組み

- ・基礎系を専攻する学生への優遇策の継続実施（授業料等の減免）
- ・臨床系の新専攻科目の開設などを検討する。
- ・楠葉・天満橋両学舎における大学院講義を継続して実施する。
- ・社会人大学院生の受け入れを促進する。
- ・外国人留学生の受け入れを促進する。
- ・大学院生の優秀論文表彰制度の継続実施
- ・大学院歯学研究科ホームページの充実による広報

2. ポストドクトラルフェロー事業

大学院修了者のうち2名の枠を設け、研究活動の継続及び後継者養成のため本学大学院に採用する。

3. ティーチング・アシスタント事業

15名の枠を設けることで、学部学生に対する教育補助業務を行う。

4. 学術研究奨励助成金事業

大学院生に対して若手研究者育成のために研究助成を行う。

5. 学術研究振興資金及び若手研究者奨励金事業

日本私立学校振興・共済事業団事業で、研究計画を学内公募のうえ選考し、事業団へ申請する制度を積極的に活用する。

6. 海外研究発表助成事業

大学院博士課程第3・4学年を対象に、海外で行われる学会でのファーストオーサーで研究発表を行う場合に研修費として助成する。

7. その他の事業

大学院生インターンシップ、大学院留学生への日本語勉強会に対する助成、留学専攻生への授業料減免（授業料と施設費の半額を免除）を実施する。

【医療保健学研究科】

医療保健学研究科修士課程は、高度な専門的知識と技能を持つとともに、歯科医療の変革に応じられる歯科医療人を養成できる人材、並びに歯科衛生士や歯科技工士の専門性を生かした研究を通じて歯科医療の発展に貢献できる人材を養成して、歯科医療の発展と人々の健康の増進に寄与することを目的としている。

- ・修士課程口腔科学専攻では、基礎科目（研究者及び指導・教育者としての素養を養成する科目）、専門科目（高度な専門性の高い知識と技能を学修する科目）、専門研究（修士論文をまとめる科目）の三つの科目群からなるカリキュラムにより体系的な教育を推進する。
- ・現役の歯科衛生士、歯科技工士等の有職者に対して、長期履修制度（最大4年間）や、大学院設置基準第14条による夜間等の特定の時間での教育指導体制により、きめ細かなりカレント教育を実施する。
- ・医療保健学研究科博士課程の開設（2020年4月）に向け、申請スケジュールを見据え準備を行う。既設の修士課程を「博士前期課程」、新設の博士課程を「博士後期課程」と位置づけ、医療保健学部から大学院博士前期課程、そして博士後期課程の一貫した教育研究体制の整備を目指す。

III 教員力、研究力

1. 教員評価の実施

「新授業評価表」による優れた教員の発掘で教員力を高める。アクティブラーニングなどを取り入れた授業を行う人材を育成するためのFD研修会を頻繁に実施する。

2. 教員候補者資格審査基準及び任期制教員の再任用基準の見直し

研究業績基準の厳格化、臨床系講座教育分野・診療分野教員、診療科教員の任用基準に本学附属病院での診療実績を規定し、資質の向上を図る。

3. 人材の登用

- ・大学院修了者・ポストドクトラルフェローへ海外留学を推奨し、本学の「海外留学経験者の特別採用に関する規程」に基づき帰国後に教員任用を図っていく。
- ・客員教授、Visiting Professor、Honorary Visiting Professorによる講義など特色ある教育の展開を促していく。

IV 附属病院

本学附属病院は、本学大学学則の第1条の目的に則り、患者診療を通じて歯科医学の教育研究を達成するとともに、地域社会に貢献することを目的としている。このことを踏まえ、地域における患者ニーズに合った良質な歯科診療を行うとともに、臨床研修施設として歯科医師の養成と資質向上に取り組んでいる。附属病院の機能を一層充実させる取り組みを推進し、経営効率の一層の向上を図り、次の事項を実現し、医療収入の増加（黒字化）を目指す。

- ・17診療科の延べ患者数の2割増加を目指す。
- ・土曜日における17診療科の開院
- ・附属病院ホームページの内容を充実させ、患者ニーズ（診療医員の担当曜日スケジュールの表示など）に即応できる体制を整える。
- ・先進的な歯科治療を提供する役割を発揮するため、地域医療機関からの受け入れを円滑に進める。
- ・公益社団法人大阪介護老人保健施設協会との協定のもと、地域包括ケアシステムにおける連携モデルを推進する。
- ・口腔リハビリテーション科、障がい者歯科の拡充を図る。
- ・2019年度から新たな診療科として睡眠時無呼吸外来を設け、新しい診療分野として拡充を図る。
- ・臨床研修プログラムに、現代医療の今日的課題である訪問診療・在宅診療を積極的に取り入れ、臨床研修施設として、優秀な歯科医師を養成する機能の充実を図る。
- ・訪問歯科診療（国家公務員共済組合連合会大手前病院）、MRI特殊検査（関西医科大学天満橋総合クリニック）の継続実施
- ・地域の診療所への支援として、CT、MRI、歯科用CT、検体検査及び病理組織検査を継続実施
- ・歯科医師派遣（沖縄県、社会福祉法人阪神福祉事業団、日本放送協会大阪放送局）の継続実施
- ・患者への説明責任、医療倫理の遵守とその徹底を行う。
- ・歯学部附属病院医療事故防止相互チェックに参画する。
- ・医療安全に関する講習会により、医療人としての意識の向上を図る。
- ・病院情報システムの活用による医療サービスの一層の質的向上を図る。
- ・省エネルギー対策を徹底し、エネルギー使用量と経費の抑制、削減を図る。
- ・厚生労働省受託事業の「歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業」の一環として設置された「歯科衛生士研修センター」の拡充を図る。
- ・公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受けるべく基盤整備を行う。

V キャンパス施設・設備

平成31年度における施設・設備の整備予定（抜粋）は、次のとおりである。

○楠葉学舎

【歯学部】

- ・第1～4大講義室AV設備更新
- ・第4実習室AV設備の全面改修
- ・プロキシサーバ更新
- ・中央歯学研究所における研究用機器備品の拡充（Bio-Plex200 ベーシックシステム、磁気刺激装置）
- ・排水処理施設整備工事
- ・ガス吸収式冷温水発生機整備工事
- ・防災システム機器更新工事
- ・1号館高圧受電設備改修工事
- ・3号館パッケージエアコン更新工事（3カ年の更新計画の2年目）

○牧野学舎

【医療保健学部】

- ・口腔工学科実習用機器備品
- ・2号館1階男子学生更衣室改修
- ・体育館高圧受電設備改修工事
- ・周辺柵改修工事（2カ年の改修計画の初年）

○天満橋学舎

【附属病院】

- ・デジタル口内法撮影CR装置
- ・REPORT MWM Server システム
- ・受電設備リレー更新工事
- ・手術室1、2LED照明取替工事
- ・ガス吸収式冷温水発生機整備
- ・本館PAC空調機更新工事
- ・非常用発電機蓄電池交換工事
- ・歯科診療用吸引装置更新工事

VI 法人・大学

法人・大学の運営を効率的に行っていかなければならない。引き続き、経費を削減・抑制し、業務の改善に努力する。

- ・徹底した経費の削減・抑制を図る観点から、学内会議で配付される膨大な紙ベースの資料について、タブレット端末を使用したペーパーレス会議の実施を推進する。
- ・歯学部・大学院歯学研究科のメインキャンパスの楠葉学舎、医療保健学部のメインキャンパスの牧野学舎、歯学部・同附属病院の拠点である天満橋学舎の3学舎の有機的な連携を図るため、情報ネットワーク環境の整備を行う。
- ・教職員の資質向上や人権意識高揚に向けた研修会・講演会を行う。
- ・事務職員の知識修得のためのSDを実施し、近年変化の著しい業務内容の変化に即応できる人材の育成を図る。
- ・教職員の省エネルギーへの意識を高める啓発活動を組織的に行い、エネルギー使用量と経費の節減の実績を上げるよう努力する。

平成31年度

科学研究費補助金交付

研究種目	継続 新規	課題番号	研究代表者 氏名	所属	研究課題名	助成額(円) 直接経費/ 間接経費
基盤研究(C)	継続	17K04256	宮川 淑恵 (濱島 淑恵)	口腔保健学科	「ヤングケアラー（ケアを担う子ども）」の実態と発見手法の開発	600,000 180,000
基盤研究(C)	継続	17K11770	橋本 典也	歯科理工学	iPS細胞由来間葉系幹細胞を用いた広域顎骨組織欠損再生に向けた基礎的研究	1,400,000 420,000
基盤研究(C)	継続	17K11779	橋本 正則	中央歯学研究所	酵素活性阻害作用と抗菌性を発現する新規金属ナノ粒子の開発	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	継続	17K11818	梅田 誠	歯周病学	糖尿病患者のインプラント周囲炎を見据えた先制歯科医療戦略の構築	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	継続	17K11864	窪 寛仁	口腔外科学第二	顎骨再生における頬脂肪由来脱分化脂肪細胞・PRP複合体のトランスレーショナル研究	1,300,000 390,000
基盤研究(C)	継続	17K12027	合田 征司	生理学	慢性歯周炎抑制機序における p 38 MAPK family 新規機能の解明	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	継続	17K12034	高山 由希	口腔衛生学	唾液タンパク由来ペプチド抗原に対する分泌型IgA抗体の歯周病細菌付着阻害能の検証	800,000 240,000
基盤研究(C)	継続	17K12068	吉川 美弘	生化学	スフィンゴ脂質が骨代謝に及ぼすメカニズムに関する研究	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	継続	18K09516	納富 拓也	薬理学	RANKL/OPG リソソーム選別輸送制御による骨代謝動態の解明	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	継続	18K09563	堂前 英資	生化学	ヒトγδT細胞による口腔癌抑制作用をニュートリゲノミクスにより制御する	1,400,000 420,000
基盤研究(C)	継続	18K09570	岩崎 剣吾	中央歯学研究所	間葉系幹細胞-血管内皮細胞相互作用を応用した新規歯周組織再生治療開発	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	継続	18K09590	辻 則正	口腔治療学	硬組織誘導性新規合成ペプチドの歯内治療への適用についての検索	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	継続	18K09613	前田 博史	口腔治療学	Rothia mucilaginosa 感染症の病因解明と感染コントロール法の確立	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	継続	18K09629	牧田 佳真	化学	分子カプセルを利用したヨード造影剤の開発	700,000 210,000
基盤研究(C)	継続	18K09647	戸田 伊紀	解剖学	ウロココラーゲンの骨増生における生体足場材料としての効果	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	継続	18K09712	岡崎 定司	欠損歯列補綴 咬合学	軽量で金属のアレルギーの少ない患者重視型新義歯の開発	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	継続	18K09713	楠本 哲次	口腔工学科	高齢者における骨質の制御を期待する生体材料の創製とインプラントへの応用	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	継続	18K09736	大西 祐一	口腔外科学第二	口腔扁平上皮癌における癌幹細胞マーカーの解析と新規分子標的治療薬の開発	400,000 120,000
基盤研究(C)	継続	18K09803	野崎 中成	薬理学	多能性幹細胞が分泌するエクソソーム機能性RNAの細胞外機能に関する基礎的研究	900,000 270,000
基盤研究(C)	継続	18K09900	益野 一哉	歯科医学教育 開発室	人工知能の歯科医学教育への応用	800,000 240,000
基盤研究(C)	継続	18K09928	池尾 隆	生化学	ヒドロキシサリ酸系阻害剤による破骨細胞分化促進とその分子機構の解明	800,000 240,000
基盤研究(C)	継続	18K09929	王 宝禮	歯科医学教育 開発室	慢性歯周炎によるがん化シグナルメカニズムの解明から漢方薬物由来創薬開発	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	継続	18K10767	小野 圭昭	障がい者歯科	口腔内感覚が咀嚼嚥下の誘発におよぼす影響	200,000 60,000
若手研究(B)	継続	17K15254	円山 由郷	細菌学	アーキアにおける染色体高次構造変化を介した環境応答	1,200,000 360,000
若手研究(B)	継続	17K17200	西村 貴子	小児歯科学	新規アパタイトアイオノマーセメントAICの各種口腔内細菌に対する影響に関する研究	600,000 180,000
若手研究(B)	継続	17K17228	柏木 隆宏	口腔 インプラント学	新規骨補填材を基盤とした血管網内包型培養骨の開発	1,100,000 330,000
若手研究(B)	継続	17K17300	大郷 英里奈	歯科麻酔学	薬物療法に依存しない慢性疼痛緩和法の確立	900,000 270,000
若手研究(B)	継続	17K18247	篠永 ゆかり	小児歯科学	新規高機能齲蝕充填・予防充填材料の反応メカニズムの解明に関する研究	600,000 180,000
若手研究	継続	18K17080	嘉藤 弘仁	歯周病学	エムドゲイン由来合成ペプチドを応用した新規歯髄温存・石灰化療法の創製	1,500,000 450,000
若手研究	継続	18K17092	小林 信博	口腔 インプラント学	重度歯周病治療のための線維芽細胞増殖因子担持担体の歯周組織再生のメカニズム解明	1,400,000 420,000
若手研究	継続	18K17106	山脇 勲	歯周病学	全体表面酸化ナノ改質による先制医療志向型インプラント周囲炎予防戦略の創製	800,000 240,000

研究種目	継続 新規	課題番号	研究代表者 氏名	所属	研究課題名	助成額(円) 直接経費 / 間接経費
若手研究	継続	18K17160	原 朋也	口腔 インプラント学	新規ダブルアクチベート法を用いた多血小板血漿による歯槽骨再生法の開発	1,300,000 390,000
若手研究	継続	18K17207	小滝 真也	歯科放射線学	MRI による下歯槽神経障害の定量的評価法の確立	900,000 270,000
若手研究	継続	18K17274	河合 咲希	小児歯科学	乳歯歯髄由来未分化幹細胞における低酸素培養の影響	1,000,000 300,000
基盤研究 (B)	継続	17H04424	片岡 宏介	口腔衛生学	唾液腺における IgA 抗体形質細胞への最終分化メカニズムの解明と加齢が及ぼす影響	2,300,000 690,000
基盤研究 (B)	継続	18H02986	本田 義知	中央歯学 研究所	ストレス誘導性老化細胞の挙動解析から迫る未知なる骨形成阻害機構の解明	2,300,000 690,000
研究活動 スタート支援	継続	18H06334	中山 雄司	歯科矯正学	iPS 由来間葉系幹細胞を用いた口唇口蓋裂治療の基礎的研究	1,100,000 330,000
基盤研究 (C)	新規	19K00049	樫 則章	人権教育室	わが国における歯科医療倫理学の構築のための総括的研究	700,000 210,000
基盤研究 (C)	新規	19K10141	山田 さやか	口腔 インプラント学	歯髄幹細胞の同種移植に向けた免疫原性コントロールの解明	1,000,000 300,000
基盤研究 (C)	新規	19K10178	馬場 俊輔	口腔 インプラント学	Er:YAG- パルスレーザーデポジション法のインプラント歯周炎治療への応用	800,000 240,000
基盤研究 (C)	新規	19K10195	山田 陽一	口腔 インプラント学	エクソソームによる細胞創薬としての新規骨再生材料の開発	1,000,000 300,000
基盤研究 (C)	新規	19K10196	西田 尚敬	歯科保存学	チタニアナノチューブ粒子へのアパタイト被覆による骨誘導能の高度化	1,400,000 420,000
基盤研究 (C)	新規	19K10233	島田 明子	高齢者歯科学	進行性神経変性疾患における QOL 向上型口腔機能評価法の開発	1,400,000 420,000
基盤研究 (C)	新規	19K10255	奥野 健太郎	高齢者歯科学	閉塞性睡眠時無呼吸症の夜間血圧サージに対する口腔内装置の治療効果	1,900,000 570,000
基盤研究 (C)	新規	19K10298	百田 義弘	歯科麻酔学	一過性局所脳虚血 / 再灌流モデルを用いた遠隔虚血コンディショニングの効果	1,100,000 330,000
基盤研究 (C)	新規	19K10373	秋山 広徳	歯科放射線学	個別化された舌癌小線源治療への道 - 多様な口腔内環境を乗り越えて -	1,800,000 540,000
基盤研究 (C)	新規	19K10456	真下 千穂	細菌学	口腔菌叢培養モデルを基にした新規口腔健康指標の構築	1,000,000 300,000
基盤研究 (C)	新規	19K10473	高橋 一也	高齢者歯科学	肺炎予防に向けた高齢者の舌菌叢遷移を誘導する因子の探索的研究	1,100,000 330,000
基盤研究 (C)	新規	19K10474	三宅 達郎	口腔衛生学	新規粘膜アジュバントを用いた経鼻ワクチンによる動脈硬化アテローム形成抑制能の検証	1,700,000 510,000
基盤研究 (C)	新規	19K10475	草野 薫	口腔 インプラント学	次世代シークエンサーを用いた戦略的インプラント周囲炎細菌叢遷移	1,500,000 450,000
基盤研究 (C)	新規	19K11401	貴島 真佐子	医療保健学部	舌悪性腫瘍術後における生理学的変化の解明と口腔リハビリテーションの効果の検証	1,700,000 510,000
若手研究	新規	19K16133	平井 悠哉	生物学	RNA ヘリカーゼによる核小体とストレス顆粒の機能関連制御機構の解明	1,700,000 510,000
若手研究	新規	19K19063	武田 吉裕	口腔 インプラント学	個別化骨再生医療の実現に向け養殖サンゴを用いたオーダーメイド骨補填材の開発と評価	1,000,000 300,000
若手研究	新規	19K19112	覚道 昌樹	有歯補綴咬合学	咀嚼時舌運動と姿勢調整および 食品の物性との関連性の解明	1,600,000 480,000
若手研究	新規	19K19146	内藤 大介	欠損歯列補綴 咬合学	PLD 法を利用した新規アパタイトコートインプラントの創製	1,600,000 480,000
若手研究	新規	19K19147	首藤 崇裕	口腔工学科	新規 BMP-2 ペプチドおよび RANKL 結合ペプチドの固定化と骨関連細胞分化の制御	1,700,000 510,000
若手研究	新規	19K19217	石川 敬彬	口腔外科学第一	フェロトシスを利用した口腔がん治療	1,200,000 360,000
若手研究	新規	19K19964	田中 佑人	障がい者歯科	噛みしめ強度とスポーツパフォーマンスに関する探索研究	1,400,000 420,000
研究活動 スタート支援	新規	19K24083	杉本 貞臣	口腔治療学	ペプチド核酸を応用した S. mutans に対する特異的増殖抑制法の確立	1,100,000 330,000
合計 59 件 (うち継続 37 件)						68,800,000 20,640,000

2019年度 大阪歯科大学学術研究奨励助成金(大学院生)

課題番号	氏名	専攻	学年	研究課題	助成額(円)
19-01	中井 真理子	歯科理工学	2	金属ナノ材料の生体安全性に関する in vitro 評価について	200,000
19-02	横山 直史	歯科理工学	2	スキャフォールドを活用した組織モデルを用いた歯科修復材料の生物学的適合性	200,000
19-03	今井 一貴	歯周病学	4	天然由来物質 shikonin は ERK1/2 経路を介してヒト歯肉線維芽細胞の創傷治癒を促進する	200,000
19-04	塩見 慧	歯周病学	4	<i>P.gingivalis</i> LPS 存在下における高グルコース環境がヒト骨髄間葉系細胞の硬組織分化に及ぼす影響	200,000
19-05	阮 亜茹	歯周病学	3	高出力赤色 LED 照射はヒト骨髄間葉系細胞の硬組織分化および石灰化形成を促進する	200,000
19-06	池内 慶介	有歯補綴咬合学	4	咬合印象体の直接光学計測と石膏模型計測により製作された CAD/CAM クラウンに関する再現性	200,000
19-07	神田 龍平	有歯補綴咬合学	4	咬合違和感症候群の知覚的検査の客観的指標の確立と治療方針の探索	300,000
19-08	吉江 啓	有歯補綴咬合学	4	ヒト天然歯の歯面処理に対する低温大気圧プラズマ処理の有効性	200,000
19-09	波床 真依	欠損歯列補綴咬合学	3	インプラント周囲の硬組織および血管新生を誘導する新規インプラント材料の創製	200,000
19-10	尹 徳栄	欠損歯列補綴咬合学	3	イガイ接着性タンパク質を利用した新規生体材料の開発	200,000
19-11	梶野 晃佑	口腔外科学第二	4	三次元有限要素法を用いたハイドロキシアパタイトを填入した顎骨周囲組織にインプラント体が及ぼす影響に関する解析	200,000
19-12	竹村 美智子	小児歯科学	4	レジン添加型グラスアイオノマーセメントへのハイドロキシアパタイト添加による高機能性材料の創製に関する研究	200,000
計				12 件	2,500,000

令和元年度臨床研修活性化推進特別事業 補助対象施設に選定

平成 29 年度から始まった厚生労働省の臨床研修活性化推進特別事業において、附属病院が初めて補助対象施設に選定されました。この事業は「優れた臨床研修施設における指導歯科医育成の講習会に支援を行うことで、臨床研修の活性化を図り歯科医師の資質向上を推進することを目的とする」も

ので、補助対象施設は客観的な指標を用いて評価されます。令和元年度補助対象候補施設は 93 施設で、このうち、補助対象施設に選定されたのは当院を含む 8 施設でした。

なお、当該補助金対象事業として、第 14 回指導歯科医講習会を 2020 年 2 月 1 日～2 日に開催します。

令和元年 春、秋の叙勲受章者

令和元年春、秋の叙勲において、本学の関係者として以下の先生方が受章されました。

<令和元年春>

大学 7 回	安田 英幸	大阪府	旭日双光章
大学 11 回	新井 正朗	京都府	瑞宝双光章
大学 11 回	合田 興世	兵庫県	瑞宝双光章
大学 13 回	久保 憲昭	大阪府	瑞宝双光章
大学 13 回	内貴 清	滋賀県	瑞宝双光章
大学 21 回	加藤 信次	大阪府	旭日双光章
大学 22 回	石川 美晴	滋賀県	旭日双光章
大学 22 回	井上 隆史	大阪府	瑞宝双光章
大学 22 回	富田 洋道	広島県	瑞宝双光章

<令和元年秋>

大学 11 回	保 文夫	京都府	瑞宝双光章
大学 11 回	戸田 忠夫	大阪府	瑞宝中綬章
大学 12 回	和田 久幸	京都府	瑞宝双光章
大学 13 回	中村 正明	大阪府	瑞宝小綬章
大学 13 回	岸 幹二	岡山県	瑞宝中綬章
大学 14 回	伊藤 敏明	三重県	瑞宝双光章
大学 16 回	佐々木 英機	徳島県	瑞宝双光章
大学 21 回	赤根 賢治	大阪府	旭日双光章
大学 22 回	森 秀司	徳島県	旭日小綬章

令和元年度医学教育等関係業務功労者表彰

医学教育等関係業務功労者は、医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療などの補助的業務に関し顕著な功労者に、文部科学大臣が表彰状及び副賞(銀杯)を授与するものです。本学からは附属病院で長年にわたり歯科衛生士としての自覚と使命感に徹し、多くの患者の診療補助・口腔ケアに従事してきた歯科衛生部の濱田和子主任を推薦し、その功績が認められ、11 月 15 日、文部科学省で表彰を受けました。

濱田主任は表彰の感想を次のように話しました。「病院組織において上司を助け、後輩の指導と調整に当たり患者さんの目線で安全、安心な医療に努めてまいりました。こうして表彰されたのは先生、先輩、後輩の方々のご指導とご助力のおかげと深く感謝するとともに、お礼申し上げます。これからも表彰者としての自覚を持ちながらも改めて初心に帰り、業務に邁進してまいりたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます」



寄 贈

下記のとおり寄贈を受けました。心より感謝いたします。

- ・今井弘一 教授 | 定年退職にあたり、一般寄附金として | 金 1,000,000 円 (2019 年 3 月 1 日)
- ・竹村明道 教授 | 定年退職にあたり、一般寄附金として | 金 1,000,000 円 (2019 年 3 月 1 日)
- ・大阪歯科大学第 67 回卒業生 |
卒業を記念して | 天満橋学舎西館 5 階臨床講義室にモニタ機器備品一式 (2019 年 3 月 8 日)
- ・大阪歯科大学歯科衛生士専門学校保護者会 |
本学医療保健学部口腔保健学科の教育・研究の充実、施設の整備のため | 金 1,281,474 円 (2019 年 4 月 8 日)
- ・大阪歯科大学第 37 回卒業生 (平成会) | 卒業 30 周年を記念して、教育研究に対して | 金 300,000 円 (2019 年 8 月 24 日)
- ・大阪歯科大学ゴルフ部 | 創部 50 周年を記念して | 金 100,000 円 (2019 年 10 月 5 日)

人 事

2019 年の主な教員人事は次のとおりです。

名誉教授称号授与

今井 弘一
竹村 明道
以上 2019.4.1 付

大学役職者

副学長 田中 昌博
2019.1.1 付
副学長 今井 弘一
2019.4.1 付
医療保健学部長、大学院医療保健学研究科長 今井 弘一
2019.6.1 付

教員任用

《歯学部》

再生医療学室	主任教授	今井 弘一
生理学講座	主任教授	合田 征司
医療安全管理学	専任教授	佐久間泰司
口腔衛生学講座	講師	河村佳穂里
歯科矯正学講座診療分野	講師	護邦 英俊
物理学教室	助教	佐藤 衆一
歯科保存学講座診療分野	助教	森川 裕仁
口腔治療学講座教育分野	助教	杉本 貞臣
高齢者歯科学講座教育分野	助教	島田 明子
欠損歯列補綴咬合学講座教育分野	助教	乾 志帆子
口腔外科学第一講座教育分野	助教	石川 敬彬
歯科矯正学講座診療分野	助教	飯田 拓二
口腔リハビリテーション科	助教	寒川 晃
	以上	2019.4.1 付
耳鼻咽喉科	専任教授	服部 賢二
		2019.7.1 付
解剖学講座	主任教授	上村 守
		2019.11.1 付
歯科理工学講座	主任教授	橋本 典也
		2019.12.1 付

《医療保健学部》

口腔保健学科	講師	芦田 麗子
口腔保健学科	講師	梶 貢三子
口腔保健学科	助手	大西 愛
口腔保健学科	助手	寺島 雅子
	以上	2019.4.1 付
口腔保健学科	助教	大西 愛
口腔工学科	助教	藤田 暁
	以上	2019.10.1 付

昇任

《歯学部》

高齢者歯科学講座教育分野	講師	奥野健太郎
口腔インプラント学講座教育分野	講師	原 朋也
口腔外科学第二講座診療分野	講師	本橋 具和
障がい者歯科	講師	田中 佑人
	以上	2019.4.1 付
欠損歯列補綴咬合学講座教育分野	准教授	吉峰 茂樹
歯科保存学講座教育分野	講師	保尾 謙三
歯科保存学講座診療分野	講師	竹内 摂
高齢者歯科学講座教育分野	講師	島田 明子
有歯補綴咬合学講座教育分野	講師	藤井 孝政
	以上	2019.10.1 付

歯科衛生士研修センター長委嘱

附属病院副病院長 山本 一世
2019.4.1 付

附属病院診療科長任用

保存修復科	講師	谷本 啓彰
歯内治療科	講師	西川 郁夫
高齢者歯科	講師	川本 章代
補綴咬合治療科 (有歯)	講師	鳥井 克典
補綴咬合治療科 (欠損)	講師	吉峰 茂樹

口腔インプラント科	准教授	草野 薫
口腔外科第1科	講師	山田 耕治
口腔外科第2科	准教授	大西 祐一
矯正歯科	准教授	西浦 亜紀
歯科放射線科	准教授	四井 資隆
小児歯科	講師	園本 美恵
障がい者歯科	専任教授	小野 圭昭
歯科麻酔科	講師	内田 琢也
口腔診断・総合診療科	准教授	紺井 拓隆
口腔リハビリテーション科	教授	糸田 昌隆
内科	主任教授	志水 秀郎
耳鼻咽喉科	専任教授	服部 賢二
眼科	病院教授	岸本 直子
以上 2019.10.1 付		

大学院教員任用

《歯学研究科》

大学院教授

生理学	大学主任教授	合田 征司
2019.5.1 付		
解剖学	大学主任教授	上村 守
歯科理工学	大学主任教授	橋本 典也
以上 2019.12.1 付		

大学院講師

口腔インプラント学	大学助教	原 朋也
2019.4.1 付		
中央歯学研究所	大学講師	岩崎 剣吾
2019.9.1 付		

大学院助教

障害者歯科学	大学助教	田中 佑人
2019.4.1 付		
細菌学	大学助教	円山 由郷
2019.5.1 付		

《医療保健学研究科》

大学院講師

口腔科学専攻	大学講師	梶 貢三子
2019.4.1 付		

定年退職

《歯学部》

解剖学講座	主任教授	竹村 明道
歯科理工学講座	主任教授	今井 弘一
歯科医学教育開発室	専任教授	西川 哲成
以上 2019.3.31 付		

依願退職

《歯学部》

物理学教室	講師	松原 英一
人権教育室	講師	李 嘉永
障がい者歯科	講師	伊達岡 聖
口腔リハビリテーション科	講師	島田 明子
以上 2019.3.31 付		

任期満了退職

《歯学部》

薬理学講座	准教授	天野 均
2019.3.31 付		
薬理学講座	講師	河井まりこ
口腔解剖学講座	助教	松田 哲史
以上 2019.9.30 付		

あ と が き

今号から本誌・大阪歯科大学広報のタイトルが『博愛』に変わりました。1966年に『大阪歯科大学学内報』として創刊された本誌も、2004年に『ODU NEWS』とその名をあらため、今また、令和の御代に新たに本学建学の精神を冠して再出発しました。「学校経営事業は営利に非ず、博愛公益のために努力するものなること」。創立者藤原市太郎氏のこの遺訓「博愛公益」を建学の精神に取り入れたのは、創立100周年を迎えた2011年のことでした。以来、川添堯彬理事長・学長は入学式や年頭所感など、折々に学生・教職員にこの崇高な理念を説き、「博愛公益」の実践を呼びかけています。

さて、皆さんは普通「博愛」という言葉から何を、もしくは誰を連想されるでしょうか。「自由・平等・博愛（友愛）」を国の標語とするフランス共和国でしょうか。あるいは、そのフランス革命の拠り所となった思想家ジャン・ジャック・ルソーでしょうか。それとも、近代看護の先駆者フローレンス・ナイチンゲールでしょうか。広辞苑によると、日本においては古くは『性霊集』（空海作の詩歌等を弟子が編集した書）に「天仁慈を仮して博愛是を努む」とあり、時代下って明治の教育勅語では「博愛衆二及ホシ」と謳われています。また、博愛社を前身とする日本赤十字社は戦前、ナイチンゲール女史を社のシンボルとしていました。

フランス革命、近代社会の基本理念として語られることの多い「博愛」ですが、各地で止まぬ紛争、気候変動、経済格差など地球規模の問題が深刻化する現代にあって「博愛」の精神は今こそ必要とされているのかもしれない。

本学は2020年に第1期中期計画（2020～2024年度）を定め、その中で「楠葉キャンパスに医療系新学部を開設するための準備を開始する」と明記しています。医療系総合大学として更なる飛躍を期す本学にとって、「博愛」はこの先も精神的支柱であり続けることでしょう。そしてまた、本学は「博愛」を体現すべく、これからも地道に医学・医療の道を歩んでいきます。

大阪歯科大学附属病院ご案内

診療・受付時間

◇初診受付

午前 8 時 45 分～ 11 時 30 分

午後 1 時 30 分～ 3 時

◇再診受付

午前 9 時～ 12 時

午後 1 時 30 分～ 4 時

◇診療時間

午前 9 時～ 12 時 30 分

午後 1 時 30 分～ 4 時 30 分

※診療・受付は平日のみ、矯正歯科・小児歯科のみ
土曜日診療を行っております。

※再診は予約制です。耳鼻咽喉科と眼科は、
午後の初診受付はありません。

※耳鼻咽喉科は木曜日は 11 時までの受付となります。

休診日

土曜日（矯正歯科、小児歯科を除く）

日曜日・祝日

年末年始（ホームページでご確認ください）

大学創立記念日（1 月 14 日）

大学昇格記念日（6 月 18 日）

初診の方へ

- ・保険証をお持ちください。
- ・診療申込書に必要事項をご記入の上、初診受付に提出してください。
- ・各種医療証や他の医療機関からの紹介状をお持ちの方は、併せてご提示ください。

再診の方へ

- ・予約制です。ご予約の確認、変更、キャンセルなどは治療を受けている診療科受付にお電話ください。
- ・診察券を受付に提出してください。
- ・毎月最初の受診日に、保険証提示をお願いします。

◇本館 11 階

TEL 06-6910-1091

小児歯科
障がい者歯科
歯科麻酔科・ペインクリニック

◇本館 10 階

TEL 06-6910-1089

矯正歯科
口腔インプラント科

◇本館 9 階

TEL 06-6910-1087

保存修復科
歯内治療科
歯周治療科

◇本館 8 階

TEL 06-6910-1085

総合診療室

◇本館 7 階

TEL 06-6910-1083

補綴咬合治療科

◇本館 6 階

TEL 06-6910-1081

高齢者歯科
耳鼻咽喉科
眼科

◇本館 5 階

TEL 06-6910-1078

内科

◇本館 4 階

TEL 06-6910-1076

口腔外科

◇本館 3 階

TEL 06-6910-1074

中央画像検査室

◇西館 2 階

TEL 06-6910-1012

口腔診断・総合診療科

◇本館 2 階

TEL 06-6910-1072

口腔診断・総合診療科

◇南館 2 階

TEL 06-6910-1066

口腔診断・総合診療科
口腔リハビリテーション科



■最寄駅：大阪メトロ谷町線 天満橋駅、京阪電車 天満橋駅



大阪歯科大学附属病院ホームページ <https://www.osaka-dent.ac.jp/hospital/>

大阪歯科大学広報 第 181 号

2019.01.01 ～ 2019.12.31

発行月 2021 年 3 月

編集発行 大阪歯科大学広報委員会

〒 573-1121

枚方市楠葉花園町 8-1

TEL 072-864-3001
